

令和元年度 事業報告書

社会福祉法人 北摂杉の子会

I. 事業報告

1. 法人本部

平成31年度社会福祉法人北摂杉の子会年度方針

1. 第4次5か年中期計画の確実な遂行

(1) 以下の今年度新規事業の着実な実施

① レジデンスなさはらもとまちの運営

【成果】

4月1日よりレジデンスなさはらもとまち2番館を開設することが出来たが、定員14名のご利用者の受け入れに必要なスタッフ（人員）の確保が厳しい状況が続いたことから、1番館を開設が延期となってしまった。何とか10月から1番館1階のご利用者の体験入居の受け入れまでは、スタッフを確保できたが、結局、1番館の完全開所まで1年間を要することになってしまった。

新入職スタッフを確保することで、令和2年4月の完全開所につなげる予定。

② 豊中市あゆみ園（個別療育、一時保育）の運営

【成果】

豊中市との定例会議を月1回の頻度で実施し、連携を重ねながら事業を進めることができた。8月には豊中市立児童発達支援センター主催研修にて講師依頼があり、幼児期2回、学齢期2回、計4回分の研修講師を担当した。

個別療育事業については、4月より30名の個別療育を開始したが、今後の事業実施案について、市との定例会議にて提案した。事業内容を「個別評価」と「保護者への支援モデル提示」に絞り、豊中市直営の小集団療育や療育相談との連携を進めていくこととなった。

障害児一時預かり事業については、5月より、定員5名/日の事業開始。対象児は知的障害児・自閉症児のみではなく、難聴児や肢体不自由児も含まれており、担当職員と工夫を重ねながら預かりを実施している。就園前（1～2歳児）の利用児が多く、保護者からの相談スキルや、市との連携が想定以上に必要とされる事業となっており、今後も人員配置や運営の仕方など課題である。

単独通所事業委託開始に向けての準備として、複数の職員が見学等の機会を持つことができるよう調整した。豊中市がこれまで積み重ねてこられた強みを残しつつ、私たちの法人の強み（個別支援・家族支援）を活かした事業展開を検討している。

③ すぎのこ訪問看護ステーションの開設と運営

【成果】

平成31年4月1日にすぎのこ訪問看護ステーションを開設した。全国的にも前例のない発達障がい特化した精神科訪問看護ステーションであり、多くの職員が訪問未経験であったが、医療機関や相談支援機関からの紹介や口コミにより利用登録者は100名に達した。初期は収支赤字幅が大きかったが、利用者確保と運営面の安定により、後半は収支面での改善が見られた。

(2) ジョブサイトひむろの移転整備、十三地区グループホームの整備を進める。

【成果】

ひむろ移転整備については、地主様のご提案もあり、現在の場所での「建替え」ということが決定し、準備を進めている。そのためには、現在、隣接している保育園様に移転していただくことが必須となるため、地主様、保育園様、仲介不動産の方、建築士の皆様と協議を重ね、令和4年春の開設を目指している。

大阪市淀川区において、10名定員のグループホームに適切な物件が見つかり仲介業者を通して、具体的に建物売買契約を進める。

- (3) 萩の杜利用者の高齢・重度化に対する長期計画作成の検討を行う。

【成果】

8月に計画作成の為のプロジェクトを発足した(理事長、副理事長、萩の杜職員3名、萩の杜家族会3名)。5年から10年後の萩の杜を想定して、「より個別化した支援を目指し、居住ユニットの小グループ化と個室化」を実現するための長期計画作成を進めている。

- (4) 就労継続支援事業B型の工賃向上の取り組みを引き続き行うとともに、事業の在り方の検討を行う。

【成果】

今年度は公式ネットショップの運営を開始し、新しく3つの取引先と契約し、販路の拡大に努めた。バレンタイン、ホワイトデーの繁忙期は前年比約110%アップとなったが、閑散期の売上低下や新型コロナウイルスの影響など、年間の総売上の向上には至らなかった。引き続き、売上と工賃向上を目指すとともに、作業給の評価法などの仕組みについても検討していきたい。

- (5) 中期計画の見直しを行う。

【成果】

第4次中期計画の前半3ヵ年のモニタリングを実施し、後半2ヵ年の見直しを行う。これにより計画実行の方向性の確認ができるとともに、遂行の精度が上がった。

2. 人材（財）確保と育成に組織を挙げて注力する

- (1) 非常勤職員確保に注力する。

【成果】

今年度から導入した職員紹介制度により、7名の職員を確保することができた。また、入職後にはe-ラーニングを活用して、法人の理念やクレドの浸透に努めた。ただ、入所施設やグループホーム等、生活支援の事業所において、人材確保に課題を残した。

- (2) 女性管理職の積極的な登用と女性管理職が安心して働くことのできる労働環境を整える。

【成果】

女性管理職として課長級を2名登用する。各種育児制度の活用を希望する職員に適切に案内をした。

- (3) 引き続き人材確保に注力する。

【成果】

正職員採用について、今年度も積極的に活動を行い、30名に内定を出し、既卒内部昇格を含め30名を採用した。内定辞退者は7名を数え、今後の対応を検討する必要がある。非常勤職員の採用が進まず、既卒者採用と含め大きな課題となっている。

3. 利用者に対する権利擁護と意思決定支援の取り組みを進める

- (1) 意思決定支援、表現性コミュニケーション支援の実践を積み上げる。

【成果】

引き続き PECS の手法を用いて表出コミュニケーション支援に取り組んだ。精神科医の門眞一郎氏に SV を受けながら法人内の各事業所で支援に取り組んでいる。その結果、ご利用者の表出コミュニケーションスキルが向上するケースや、コミュニケーションがスムーズになることでストレスが減り行動上の課題が軽減したケースもあった。そうしたケースをまとめ、公開講座として地域に発信した。

- (2) 権利擁護・虐待防止の取り組みを進めるとともにその情報発信を行う。

【成果】

法人では権利擁護虐待防止委員会にて年度ごとに権利擁護防止計画を策定し、各事業所においても、年間の「権利擁護虐待防止計画」を策定し、委員会にて進捗管理を行っている。今年度は第三者委員（仮称）として、高槻ライフケア協会の河坂氏にご参加いただき、コメントやアドバイスをいただくことが出来た。

今年度は、レジデンスなさはらにおいて、ご利用者が喉詰めによってお亡くなりになる事故が発生したことから、第三者による事故検証委員会を開催し、今後の対策をご提言いただいたことや、同じくレジデンスなさはらにて、職員による不適切な対応があり、高槻市に通報した結果、心理的虐待と認定された事案もあった。

本委員会にて、両件を共有し、改めて支援者としての姿勢や意識の大切さを痛感する年となった。

当法人での権利擁護虐待防止の取組みは、理事長はじめ部長2名が、全国各地や大阪府における研修等にて情報発信を行っている。

4. 安定した法人経営のための収益の確保

- (1) 収支予算計画作成及び収支予算の進捗管理の精度を高める。

【成果】

各事業所からの報告数字に、過去のデータも加味して収支予測を立てている。

- (2) 利用率の維持と向上、業務の効率化と経費削減の取り組みを行う。

【成果】

各事業所の施設長に対して、タイムリーな収支内容を流し、課題点など現状認識を促すようにしている。

- (3) 施設整備計画の確実な実施に向けての資金確保と資金計画の進捗管理を確実に進め

る。

【成果】

資金繰り表(日々の資金の入出金)を作成し、こまめに精査している。また、不測の対応のために銀行に当座貸越し4億円を設定する。

5. 法人の社会的責任

社会の公器としてある社会福祉法人の自覚に基づいて、地域社会における障害のある人たちとその家族のニーズに応え、支援サービスの提供を行うとともに社会貢献活動の推進、法令順守に努め、透明性の高い法人運営を更に進める。

【成果】

理事会、評議員会とも法令に基づいた開催を行い、適正な法人経営を遂行できた。顧問社労士、顧問税理士からの指導を受けて、適切に労務管理、財務管理ができた。例年通り、事業報告書、決算書を法人ホームページに掲載するとともに、WAMN E T (福祉医療機構)に法人情報を閲覧できるようにしている。

2. 総務部

(1) 令和元年度重要実施事項

- ①新規事業の開設準備をサポートする。
- ②総務部主導の採用計画を進めて必要な人材を確保する。
- ③ワークライフバランスに配慮した職場環境作りを進める。
- ④自閉症啓発デー等の地域住民を対象としたイベントを令和2年度4月に開催する。
- ⑤収支予算計画作成及び収支予算の進捗管理の精度を高める。
- ⑥総務部の各業務における業務改善を目指す。
- ⑦人材育成研修室の稼動を前年度以上に上げ、資金収支を改善する。

(2) 令和元年度の取り組み内容

- ①十三地区グループホームの建設のめどつけることができた。
- ②正職員を23名採用できた。
- ③ワークライフバランスの会を実施し、タウンホールミーティングを開始した。
- ④自閉症啓発デーイベントを企画したが新型コロナウイルスの影響で中止となった。
- ⑤月次決算を遅滞なく進めて、経営会議に報告し予算執行管理を遂行した。
- ⑥給与ソフト導入を決定し、準備に着手した。
- ⑦22事業所のコンサルテーションを受託して前年度を上回る収入となった。

(3) 評価

- ①令和2年度からの開設に向けて具体的に活動を開始できた。
- ②新年度からの必要な職員数を充足することができた。
- ③タウンホールミーティングにより理事長と直接職員が話をすることができ法人の運営の理解を促進できた。
- ④イベントは実施できなかったが高槻市内のライトアップは実施して啓発をした。

- ⑤課題の多い事業について経営会議において定例で検討することで対応を進めた。
- ⑥給与ソフトを次年度に導入し業務の省力化を実現できるめどがたった。
- ⑦コンサルテーション事業のニーズが広がり、さらに申し込みが増えて事業発展できた。

3. 萩の杜

(1) 令和元年度重要実施事項

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - i) 萩の杜 利用者の高齢・重度化に対する長期計画作成の検討を開始する。
 - ii) 高齢・重度化を見据えた個別支援を事業所・職種間連携を図りながら遂行する。
 - iii) 生活介護 従たる事業所(ふれっと なさはら)の安定運営に取り組む。
- ②人権を守る砦となる
 - i) 業務の振り返り(年2回)とeラーニングを活用し、権利擁護意識を高める。
 - ii) 利用者個々の障害特性に応じた“合理的配慮”に基づく支援を展開する。
 - iii) 利用者の“意思決定”“表出性コミュニケーション”支援に引き続き取り組む。
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - i) 法人の人材育成とリンクしながら、個人研修計画を立案・実行する。
 - ii) 効果的な内部研修を企画・実行する(年3回程度)。
 - iii) 職員間のコミュニケーションを促進し、業務改善等の提案につなげる。
- ④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人
 - i) 施設入所支援事業の新規利用者1名の受け入れを進める。
 - ii) 施設実習や見学等の受け入れを積極的に進める。
 - iii) 安全対策委員会等、家族会との協同を継続し透明性のある施設運営を目指す。
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) 強度行動障害支援者養成研修の計画的受講を引き続き行い加算取得を継続する。
 - ii) 引き続き全体会議等において収支確認を行い、固定費削減等に取り組む。

(2) 令和元年度の取り組み内容

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - i) 8月より“重度・高齢化対策プロジェクト”を毎月開催して検討を開始した。
 - ii) 高齢化対応として12月に全利用者の食形態等の見直しを図った。
 - iii) 在宅の新規利用者3名の受入れを計画通り進めた。
- ②人権を守る砦となる
 - i) 業務の振り返りについて実施した。
 - ii) グループ毎の支援会議を毎月開催し適切な個別支援を実施できるように努めた。
 - iii) 昨年度に引き続き法人主催のPECS研修に参加し、現場での実践を行った。
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - i) 個人研修計画を立案することはできなかったが、各支援員が希望する研修受講ができるように取り組んだ。

- ii) 年3回の内部研修等、計画通り実施した。
- iii) 全体会議において事業計画や予算の進捗状況等共有し、各ユニットの目標等を話し合った。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 12月に新規利用者1名の受入れを行った。
- ii) 施設見学等の積極的な受け入れを進めた。
- iii) 安全対策委員会や家族会定例会等において、利用者状況や運営状況について定期的に報告をおこなった。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)を2名が受講した。
- ii) 全体会議において定期的に収支確認を行うとともに、固定費削減のためにエコキュートへの設備変更を行った。

(3) 評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 1年間の期限を設けたプロジェクトである為、次年度下半期までに一定の指針について結論付ける必要がある。
- ii) 高齢・重度化が課題となっている為、今後も継続して実施する必要がある。
- iii) 非常勤職員の確保と定着が大きな課題としてある。

②人権を守る砦となる

- i) eラーニングの視聴会を開催した。視聴者数を増やすことが課題である。
- ii) 必要な環境整備等も含め、継続して進めていくことが必要である。
- iii) 個別支援への反映等、継続して取り組む必要がある。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 強度行動障害支援者養成研修やサービス管理責任者研修等、加算取得や事業運営に必要な研修受講が優先となる傾向が強くなっているが、各支援員が希望する研修参加についてサポートすることができた。
- ii) 12月の実践報告会開催が支援員の意欲向上に繋がったと考える。
- iii) 各ユニットの目標を共有することで、目標達成に向けた意識向上に繋がったと考える。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 萩の杜の利用定員を満たすことができた。
- ii) 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、1月以降の見学は全てキャンセルとした。
- iii) 適切な情報提供等、透明性のある施設運営に取り組むことで、一定家族の安心感に繋がっていると考えられる。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 加算取得の為、計画的受講を次年度も継続していく。
- ii) 固定費削減や収入確保等、引き続き努力していく必要がある。

4. 短期入所(ショートステイセンター ふれす・ふれいす Be 短期入所)

(1) 令和元年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 必要に応じてサービス担当者会議等に出席し、関係機関との連携を図る。
- ii) 利用者満足度調査を実施し、サービス内容の振り返りをおこなう。

②人権を守る砦となる

- i) 業務の振り返りと e ラーニングを活用し、権利擁護の意識を高める。
- ii) 引き続き萩の杜と合同でリスクマネジメント活動を実施する。※ふれす
- iii) 内部研修を年 6 回開催し支援者としての基本姿勢を深めていく。※ふれいす Be
- iv) PECS 研修に参加し、表出コミュニケーション支援を行う。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 毎月の合同会議を継続し、情報の共有や課題解決に向けての検討をおこなう。
- ii) 年 3 回の内部研修を継続し、ケース検討等を通じて支援力を高める。
- iii) 年 1 回のストレスチェックを実施し、産業医との連携を図る。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 緊急時の受け入れや満床時などの利用調整をおこない、利便性を高める。
- ii) サービスの質の向上を図り、選ばれる短期入所事業所を目指す。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 月 1 回収支の進捗管理を行い、収支改善に向けた取り組みを検討し実施する。
- ii) ふれす/Be 短期入所の統合や機能整理等、安定した運営体制の確立を目指す。

(2) 令和元年度の取り組み内容

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 必要に応じてサービス担当者会議等に出席し関係機関との連携を図った。
- ii) 合同会議において利用者満足度調査票の内容検討を図った。

②人権を守る砦となる

- i) 業務の振り返りチェックシートを両事業所とも実施した。
- ii) リスクマネジメント活動を通して事故予防等に取り組んだ。
- iii) 年 6 回のふれいす Be 内部研修に参加した。
- iv) 昨年度に引き続き法人主催の PECS 研修に参加し、現場での実践を行った。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 毎月の合同会議を継続して開催した。
- ii) 事例検討等、年 3 回の合同研修を計画通り実施した。
- iii) ストレスチェックを 6 月に実施した(対象：週 30 時間以上勤務の職員)。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 緊急時や満床時等、必要に応じて両事業所間で利用調整を図った。
- ii) 【ふれす】活動の選択等、個々のアセスメントに基づいた支援に取り組んだ
【ふれいす Be】ふれいす Be 生活介護との一体的運用により重症心身障害児者への継続したサービス提供と受け入れに取り組んだ。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 合同会議等において定期的に収支状況等を共有した。
- ii) 機能整理等の検討には至らなかった。

(3) 評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 事業所間で利用者状況の共有が図ることができ支援の質の向上に繋がった。
- ii) 調査項目等の検討を図ったが結論が出ず、実施には至らなかった。

②人権を守る砦となる

- i) 事業所に特化した業務の振り返りチェックシートの改定には至らなかった。
- ii) 安心安全な利用環境提供に向けて引き続き取り組む必要がある。
- iii) 支援者としての基本姿勢をより深める為、引き続き取り組む必要がある。
- iv) 表出コミュニケーション支援について継続して取り組む必要がある。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 利用者状況や運営状況等を共有して、各課題解決等に繋げることができた。
- ii) 職員育成は重点課題の為、次年度以降も継続して実施する。
- iii) 法人全体の動きとリンクして継続して実施する。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 同法人内事業所のメリットを活かした利用調整について今後も継続する。
- ii) 【ぶれす】個別支援の充実等について一定の成果があった。

【ぶれいす Be】重症心身障害児者へのサービス提供や受け入れに関して前年度と同程度の実績をあげることができた。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 支援員確保が課題であり、利用率向上に向けた取り組みを実施することはできなかった。
- ii) ぶれす/Be 短期入所の統合や機能整理等、安定した運営体制の確立を今後目指していく必要がある。

5. ジョブサイトひむろ

(1) 令和元年度重要実施事項

- ①生涯に渡る地域での暮らしの実現
- ②人権を守る砦となる
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
- ④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築

(2) 令和元年度の取り組み内容

①生涯に渡る地域での暮らしの実現

- i) ジョブサイトひむろ移転整備の目途をつけた。
- ii) レジデンスなさはらもとまちへの移行を円滑に進めた。

- iii) 工賃向上の取り組みと、健康、予防プログラムのバランスについて検討し、日中活動の見直しを図った。
 - iv) ご家族、関係機関とのパートナーシップの強化に努めた。
- ②人権を守る砦となる
- i) ご利用者の意思決定支援と表出コミュニケーション支援を推進した。
 - ii) 権利擁護虐待防止計画の推進と進捗管理を行った。
 - iii) 説明責任と合理的配慮を徹底に努めた。
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
- i) 非常勤職員の確保と定着に努めた。
 - ii) 働き方改革に対応するための職場環境と体制の整備について検討した。
 - iii) 支援者間の連携を密にするため、事業所内外の交流や研修を通じ、支援の統一と質の向上につなげた。
- ④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人
- i) 地域資源の活用とイベントへの積極的な参加を継続した。
 - ii) 事業所からの発信と、活動を通じ地域社会とのつながりを深めた。
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
- i) 事業所内で収支の進捗確認を毎月実施した。
 - ii) 人員確保と計画的な研修受講により、各種加算の拡充を検討した。
- (3) 評価
- ①生涯に渡る地域での暮らしの実現
- ・ジョブサイトひむろ建て替え工事については、令和4年4月の開設を目指し大家さんと法人とで定期的な進捗確認を行った。
 - ・レジデンスなさはらもとまち2番館開設に伴い、送迎体制を変更した。また、1番間の体験入居については、応急的に送迎体制を組んで対応した。
 - ・9月に医療職が中心となって、「骨」をテーマにご家族向けの勉強会を実施、健診項目のオプション追加等について意見交換を行い、次年度に実施することとなった。また、家族会定例会にて、事業所の活動報告を行った。
 - ・レジデンスなさはらとの連携会議を継続して実施したが、運営に課題が残った。また、他のGHとは計画的な会議は実施できていない。
- ②人権を守る砦となる
- ・個別支援計画をコミュニケーションの項目を追加したものに改定した。また、8月の門先生の事業所訪問の際には、事例報告を行った。
 - ・前期を中心にeラーニングの視聴会を実施し、浸透に努めた。
 - ・8月にクレド、および事業所の振り返りチェックシートを実施した。
 - ・8月～9月にかけて、実習生3名、ボランティア1名の受け入れを行った。10月には地域の中学生4名の福祉体験実習の受け入れを行った。
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
- ・年初に6名の非常勤職員を確保したが、8月～9月にかけて4名が退職した。
 - ・長期休暇中の洗濯業務について、変形労働制を活用し、常勤職員でローター

ション化を図った。

- ・事業所内で PECS のフィードバック研修を実施し、表出コミュニケーション支援についての理解を深めた。

④地域ですべての人たちから信頼・必要とされる法人

- ・たかつき〇まるしえを始めとする地域イベントには、積極的に参加した。
- ・夏のふれあいデー、たかつきアート博覧会で手づくり体験を実施し、多くのお子さんに参加していただいた。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- ・毎月の全体会議にて予算の進捗状況を確認した。
- ・強度行動障がい支援者養成研修には基礎研修 2 名、実践研修には 3 名が受講した。ただ、人員配置基準の要件を満たすことが厳しい状況のため、加算の拡充には至っていない。

6. グループホームとんだ・レジデンスなさはら 2 丁目

(1) 令和元年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 余暇活動の充実も含めた暮らしの改善をさらに進める。
- ii) 職員体制の再編成に伴い、安心安全な暮らしの提供を行なう。

②人権を守る砦となる

- i) 日常的なアセスメントに基づいた個別支援の充実と、「意思」の形成や決定を考慮した支援を深める。
- ii) 障がい特性や個別性の把握、支援の進捗のための情報交換を月一回以上行ない、支援内容の検討や評価の視点を深めて合理的配慮につなげる。
- iii) 移転後に合わせた業務の標準化を行ない、支援の質を保証していく。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 学ぶ機会の確保のために、公的な研修だけでなく他法人との意見交換や交流への参加を年間 20 回以上実施し、個々や事業所のレベルアップを図る。
- ii) 部内や部外でも人材交流を活性化し、お互いに高めあっていく。
- iii) 定期的な SV を実施する。(常勤に対し、毎月)
- iv) 内部研修の充実を図る。

④地域ですべての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 地域資源の開拓を進める。
- ii) 地域のイベント情報等を集め、年 3 回は参加する。
- iii) 必要に応じて自治会等、近隣住民との関係構築を図る。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 移転後の固定費を精査し、目標数値を設定し、周知、達成する。

(2) 令和元年度の取り組み内容

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - i) 昨年度行なった余暇活動を継続した。
一部のご利用者の居室環境を改善した。
 - ii) 職員が充足したことで安定した支援を提供した。
役割分担をしっかりと行なうことでそれぞれの場面で支援の質を向上した。

- ②人権を守る砦となる
 - i) 日常的にアセスメントをとった。
買い物時などご利用者に同行していただき選択の場面を増やした。
 - ii) 個別支援の会議で前期は情報共有を、後期はPDCA サイクルを回した。
 - iii) 業務マニュアルを更新した。

- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - i) 延べ 20 回以上研修や交流へ参加した。
 - ii) もとまちの勉強会に参加するなど部内での交流を行なった。
萩の杜への見学など部外も一部行なった。
 - iii) 2 月、3 月以外はSV を行なった。
 - iv) 全 5 回内部研修を行なった。

- ④地域での全ての人たちから信頼・必要とされる法人
 - i) 地域資源を活用できる職員数を増やした。
 - ii) 地域イベントへ 3 回参加した。
 - iii) 自治会や近隣住民との改まった関係構築は無かった。

- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) 消費税アップやガス会社変更などで精査までは至っていない。
みやた時代の水道代は下水道がなく、水道代が倍以上になっている。

(3) 評価

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - i) 日常的な余暇に関しては工夫の余地はあるものの、ご利用者が一人で実行できる余暇でないと、人間的に難しい状況がある。イベント的な余暇を半年に一回程度増やす方が現実的である。
居室環境は財産状況を見ながら今後も改善が必要である。
 - ii) 新入職員が慣れたころからは安定した支援が提供できた。
給食会議や夜間会議など、役割に応じた職員間での課題整理や改善が行なえ、支援の質が上がった。

- ②人権を守る砦となる
 - i) 日常的なアセスメントでご利用者の理解が深まった。終わりはないので今後も意識してアセスメントを取り続ける。
衣類やカバンなど、職員のみで買い物に行っていたものも選択していただくことで新たな好みがあった。
 - ii) 前期は新入職員が多く情報共有をメインに会議したが、後期は個別支援計画

の進捗を意識しながら会議を行なえ、計画が進んだ方も多かった。

iii) 動線変更が少しの部分は日常的に行ない、年度末に改めて変更したものを作成し、周知した。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

i) 高槻市内外の事業所の情報交換や外部での研修等、延べ40回以上(4名で参加した場合4回でカウント)参加できた。

次年度は職員数が減るので同じ数の参加は難しいが、現在参加しているネットワークとはつながっておく方向で考える。

ii) 3ホームが近隣であることを活かし、他のホームでの研修等にも参加できた。部外の交流はあまり進まなかったが、次年度も機会を確保したい。

iii) 定期的なSVよりも日常的なSVやOJTの方が効果としては高い部分もあった。

iv) コミュニケーション、ASD、生活習慣病、人権、生活支援をテーマに内部研修を行なった。どの研修も一方的でなく参加型にすることで、積極的に研修参加していただけた。

④地域での全ての人たちから信頼・必要とされる法人

i) 新規資源の開拓はあまり無かったが、現在利用している資源を利用できる職員数をほとんどの資源で倍以上にした。

ii) ふれあい運動会、ふれあい広場、こうあい祭りや地域イベントに参加した。大阪薬科大学の学園祭は予定していたご利用者が行かなくていいということで参加できなかった。

iii) 自治会からの参加要請もなく、もう少し様子見を続ける。

近隣住民の方へのすれ違う際の挨拶などはこれまで通り継続する。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

i) 水道の基本使用料や下水道代の追加などで水道代があがっているが致し方ない部分がある。その分ガス代や電気代が押さえられている部分もあるので、今後も精査していく。

7. レジデンスなさはら

(1) 令和元年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

i) 一人一人をさらに知るために、2ケースでの評価キット実施を行う。

ii) ご本人のことを幅広く知るため、ジョブサイトひむろとの連携会議の継続と、ご家族とのサポートブックの共有化を実施する

iii) 地震、台風の災害があっても可能な限り生活を継続できるよう災害対策を整える

iv) ご本人に合った環境を整えるため、1、2番館のリニューアルを実行する

v) 重度化高齢化に対する予防、準備を引き続き行う

②人権を守る砦となる

- i) 意思表出、意思形成支援を継続する。また意思決定支援会議を1名以上実施する
 - ii) 2018年度に作成した基本的価値観「『らしく』生きるために」の浸透をすすめる
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - i) 人材育成をさらに充実させていき、職員のチャレンジと成長をサポートする
 - ii) 新入職職員に入職者研修を行い、北摂杉の子会のミッションや地域生活支援部の役割などをお伝えし、やるべきことが明確で、不安の少ない働き始めをサポートする
 - iii) 働き方改革関連法の順守、ライフワークバランスの充実を行う
 - iv) 業務ガイドラインを引き続き整え、職員の意味決定をしやすくする
 - v) 人手確保を行い、人手不足を解消する
 - vi) ICTや機器（お掃除ロボット等）などのリサーチ、活用を進めていく
- ④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人
 - i) 地域への情報発信や貢献を行い、レジデンスなさはらのことを知っていただく
 - ii) ご家族との面談、懇親会以外のコミュニケーション機会を1種類設定する。
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) 介護タクシーによる送迎サービス準備、実行をする
 - ii) 週末の利用増加を推奨し、収入増加につなげる
- (2) 令和元年度の取り組み内容
 - ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - i) 2ケース評価キットを実施した。
 - ii) ジョブサイトひむろとの連携会議の継続と、ご家族とのサポートブックの共有を実施した。
 - iii) 9月にモバイルバッテリー、災害対策を整える懐中電灯を準備した。
 - iv) 1、2番館のリニューアルを実行した
 - v) 情報収集を行った。
 - ②人権を守る砦となる
 - i) 意思表出、意思形成支援を継続した。
 - ii) 基本的価値観を振り返るために、レジデンス会議で1人1人が実践を発表していただいた。
 - ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - i) 1 on 1 ミーティングを実施した。
 - ii) メンター制度を導入した。
 - iii) 有休取得を推奨した。
 - iv) Facebook ページ開設等情報開示をすすめた。
 - vi) ポスティングを行った。
 - ④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人
 - i) 花植え、クリスマスツリーを置いた。ツリーは共同で飾りつけを行った。

ii) 真野先生の勉強会にご家族様も参加していただいた。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

i) 介護タクシーによる送迎サービス準備、実行した。

(3) 評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

i) 2 ケース評価キットを実施しし、支援を開始。よりご本人が自立した生活を支援できている。

ii) ジョブサイトひむろとの連携会議の継続と、ご家族とのサポートブックの共有化を実施した。特にご家族様と情報共有できた。

iii) 9月にモバイルバッテリー、災害対策を整える懐中電灯を準備した。

iv) 1、2 番館のリニューアルを実行し、本人の特性、体格にあった家具をそろえた。

②人権を守る砦となる

i) 意思表出、意思形成支援を継続した。それをサポートブックに記載することで記録として残している。

ii) 基本的価値観を振り返るために、レジデンス会議で1人1人が実践を発表していただき、昨年度より普及した。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

i) 1 on 1 ミーティングを実施し、コミュニケーションが促進された。

ii) メンター制度を導入し、メンタルメンのサポート実施。メンティーから好評だった。

iii) 有休取得を推奨し、年間5日間の義務をクリアできた。

vi) ポスティングを行ったが、写真掲載にご家族からストップがかかり、現在は中断している。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

i) 花植え、クリスマスツリーを置いた。ツリーは共同で飾りつけを行い、地域の方と会話することが増えた。

ii) 真野先生の勉強会にご家族様も参加していただき、会話する機会が増えた。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

i) 介護タクシーによる送迎サービス準備、実行した。

8. レジデンスなさはらもとまち

(1) 令和元年度重要実施事項

① 生涯にわたる地域での暮らしの実現

i) 早期にスタッフを確保し、2棟を早期に開設出来るよう注力する。

ii) ご利用者やご家族にとって初めての入居となるため、丁寧な支援と密なコミュニケーションを行ない、早期に「安定した暮らしの実現」につなげる。

② 人権を守る砦となる

i) 「レジデンスなさはらもとまち基本理念」を作成することで、支援の方向性を

(3) 評価

① 生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 非常勤スタッフの確保が厳しい状況が続き、1番館の開設が1年遅れとなってしまった。2番館のご利用者も残念なことにお一人が退居となったが、おおむね安定した生活につながっている。
- ii) 2番館ご家族とは密な連携が出来たと感じているが、1番館のご家族については、1年間お待たせしていただくことになり、申し訳なかった。

② 人権を守る砦となる

- i) 「レジデンスなさはらもとまち基本理念」については、新規スタッフにも参加いただき、5~6月頃の完成を目指している。
- ii) もともとご利用者の特性に合わせた設計や、グルーピングにも配慮したこともあり、2番館のご利用者については、おおむね安定して生活されている。
- iii) 2番館ご利用者については、個別支援計画の「意思」を盛り込むことや、ご自身から「意思」や要求が表出できるような支援を行った。様々な場面でも、選択の機会も多くもてるように支援を行った。

③ 働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) スタッフ確保は厳しい状況が続いたが、強度行動障害のある方の支援現場でもあるため、スタッフへの面談、SV等で、サポートを実施した。おおむね皆さん退職されることなく、2年目を迎えることが出来た。
- ii) 「辻本塾」を年間10数回開催し、人権意識の向上や、基本的な知識の向上を図った。
- iii) 毎週のミーティングにより、早期にご利用者が安定したことや、スタッフの支援力の向上にもつながっている。

④ 地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 散歩されている地域の方に挨拶することで、「ここはどのような施設ですか？」と尋ねられることが多く、丁寧に対応することで、少しでも地域の方に知ってもらえるようにした。地主さんとの関係も良好に保つことが出来た。
- ii) 個別の外出で、地域資源を活用したが、機会が少なかつたため、今後も積極的に利用していきたい。

⑤ 健全でタフな財務基盤の構築

- i) 2番館のご利用者の利用率は高い状況であった。1番館の開設が遅れたこともあり予算通りの収入を得ることが出来ず、運営面では赤字運営となってしまった。次年度にはスタッフ間でも、収支状況を確認し、赤字解消に取り組んでいきたい。
- ii) 固定費の推移を確認した。2年目には固定費をスタッフ間でも確認し、無駄のない効率的な運営を目指したい。

9. ふれいすBe通所部門

(1) 令和元年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 支援員による医療的ケアの着実な実施と対象者・ケアの更なる拡充を進める。
- ii) ご利用者が地域で働く場を新たに創出する。(施設外就労/超短時間雇用など)
- iii) GHなさはらもとまち等と連携し、地域での暮らしをサポートする。

②人権を守る砦となる

- i) ご利用者主体の個別支援経計画の新書式を完成させ、下半期から運用する。
- ii) PECSをはじめとした意思表出支援の実践を積み重ねる。
- iii) 権利擁護・虐待防止に関する内部研修を開催する。

③働く人の成長とチャレンジを支える組織

- i) 職員満足度調査の結果を踏まえ、働きやすい組織づくりをおこなう。
- ii) 部署内のSVのテーマを「ご利用者の意思表出とニーズを把握するための支援で統一し、実践を重ねる。年度末には実践報告会を開催する。
- iii) 個々の年間研修計画を立案し、学びたい意欲を応援できる体制作りをおこなう。
- iv) 計画的な有給休暇取得を実施することで、「休みにくい」という意識の緩和を図り、ワークライフバランスの充実へつなげる。

④やさしさあふれる地域を耕す

- i) キッズ向けのカフェコンサートを開催し、幅広い層から利用していただけるカフェを周知していく。
- ii) あんだんと共催でカフェを利用した発達障害について発信するイベントを開催する。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 支援力を高め、利用率と平均工賃向上に努めることで安定した収入を確保する。
- ii) 引き続き重度障害者支援加算の対象となるご利用者を増やしていく。

(2) 令和元年度の取り組み内容

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 医療ケアの着実な実施と対象者・ケアのさらなる拡充を進めるために、支援員が新たに喀痰吸引等3号研修と2号研修を各1名ずつ受講した。
- ii) 施設外就労等、ご利用者が地域で働く場所の新規開拓はできなかった。
- iii) 必要に応じて関係者会議を開催し、GH職員と連携・情報共有を行っている。

②人権を守る砦となる

- i) ご利用者の意思記載する個別支援計画の新書式を下半期から運用開始した。
- ii) PECSのワークショップに職員2名が参加した。また、継続して門先生にスーパーバイズして頂いた。(事業所にもおいでいただいた)
- iii) 権威擁護・虐待防止に関する内部研修を3月に開催。(講師：平野部長)

③働く人の成長とチャレンジを支える組織

- i) 満足度調査の結果を生かすことができなかった。
 - ii) 中山清司氏の SV の成果を発表する場として、萩の杜と合同で実践報告会を開催した。
 - iii) 個々の年間研修計画を作成し、計画的に外部研修等に参加することができた。
 - iv) 具体的な取り組みを進めることはできなかった。
- ④やさしさあふれる地域を耕す
- i) 新たな層とのつながりを求めて、caféにてキッズコンサートを企画した。
(＊開催直前に新型コロナウイルス感染拡大を防止する為、中止となった)
 - ii) 発達障害について地域へ発信するイベントを開催することができなかった。
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
- i) 重度障害者支援加算の対象者を新たに 10 名増やした。毎月 36 万円程の増収となった。
 - ii) 就労支援事業収入の増収に伴い、工賃規程を改定。就 B の平均工賃が 12,000 円を超えた。

(3) 評価

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
- i) 2 号研修・3 号研修ともに講習は修了。令和 2 年 9 月 30 日までに実地での研修を修了する予定となっている。
 - ii) 働く場の新規開拓はできなかったが、新たに軽作業の受注先が 1 件増えた。
 - iii) ケース会議や個別の支援計画の面談など、グループホームの職員と同席する機会を設けてきた。その中で現場レベルでの情報共有をしっかりと行っている。
- ②人権を守る砦となる
- i) 支援計画の新書式が完成し、下期から運用を開始している。ご利用者の希望や目標だけではなく、目標を達成するためにご自身が何を頑張ればよいのかを具体的に記載することで、「分かりやすくなった」とのご感想も頂いている。
 - ii) PECS の実践がフェイズ 4 まで進んだご利用者もいた。それ以外にも、カードで選択をしたり、意思を伝える取り組みが増えてきた。
 - iii) レジデンスなさはらの事例も交えつつ、現実味のある講義であったため現場の職員の理解もしやすかった。
- ③働く人の成長とチャレンジを支える組織
- i) 満足度調査の結果を生かすことができなかったため、改めて次年度に結果をもとに働きやすい組織について検討していく。
 - ii) 他部署の発表を聞くことで、新しい発見があり、刺激となった。
 - iii) 年間研修計画を立案し、外部研修等に参加して学習するところまでは良かったが、その後の振り返りや事業所でのフィードバックが不十分だった。
 - iv) 職員の欠員が常態化し、計画的な有給休暇取得を推進することができなかった。

- ④やさしさあふれる地域を耕す
 - i) キッズコンサートを企画し、はにたん着ぐるみの手配やチラシを幼稚園・保育園等に置かせていただく等、直前まで準備を進めてきたが、コロナウイルス感染拡大の余波を受け、開催を自粛した。
 - ii) 開催することができなかつたので、次年度以降に実践していきたい。
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) 強度行動障害支援者養成研修（基礎）を2名受講が完了し、新たに10名分の重度障害者支援加算を取得することができた。
 - ii) 業務の見直しを行い、業務の再分配を行った結果、作業効率が上がり、就労支援事業収入が、およそ200万円増加した。

10. あんだんて

(1) 令和元年度重要実施事項

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - i) 地域との繋がりをつくる社会資源の開拓をおこなう。
 - ii) GHなさはらもとまち等と連携し、地域での暮らしをサポートする
- ②人権を守る砦となる
 - i) 計画相談・委託相談共にご利用者の意思や権利が尊重されるよう支援を進める
 - ii) 成年後見人との連携を深め、健全な制度利用をサポートしていく
- ③働く人の成長とチャレンジを支える組織
 - i) 人材交流研修や出張研修等を通じて、相談支援の後進育成を図る
 - ii) おもてなし電話を導入し、業務の効率化を図る
 - iii) 職員満足度調査の結果を踏まえ、働きやすい組織づくりをおこなう
- ④やさしさあふれる地域を耕す
 - i) 高槻市の相談支援従事者の発達障害に関する理解を深める取り組みを行う
 - ii) ふれいすBeと共催でカフェを利用した発達障害について発信するイベントをする
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) モニタリング標準時間の変更に伴い、着実に実施できる体制づくりを行う
 - ii) 行動障害支援体制加算や精神障害者支援体制加算等の取得を進める

(2) 令和元年度の取り組み内容

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - i) 高槻市内での相談支援事業所との定期的な連携会議や自立支援協議会、支援学校の福祉相談会など地域の支援力を高める取り組みの他、高槻市障害者就業・生活支援センターと連携し当事者の食事会を毎月開催するなど継続的にクライアントの余暇の充実に取り組んだ
- ②人権を守る砦となる

- i) サービス等利用計画と委託計画のバランスを取り、丁寧な支援を心掛けた
- ii) 障がいのある家族を持つ方々向けに「成年後見制度」の勉強会を開催した
- ③働く人の成長とチャレンジを支える組織
 - i) 福祉制度の理解を深めてもらうための出張研修会を行った
 - ii) 相談員の後進につながるよう、相談事業について、法人内で発信した
- ④やさしさあふれる地域を耕す
 - i) 高槻市の相談支援従事者それぞれが、様々な側面から ASD の理解を深めて支援ができるよう、実践型勉強会を実施する
 - ii) カフェ Be のスペースに「発達障害」理解に関連する発信コーナーを作った
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) 計画作成を効率化するため、あんだんて専属事務（パート）を採用した
 - ii) 「精神障害者支援者支援研修」「強度行動障害支援者研修」を受講して加算要件を増やす

(3) 評価

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - i) クライアントの円滑な支援のために関係機関との情報共有や連携を深めた他、当事者の余暇活動支援として「エンジョイサークル」という名前で毎月 1 回、食事会を開催し、当事者間の交流をサポートした。
 - ii) GH のスムーズな移行をサポートするために計画作成や担当者会議を実施した
- ②人権を守る砦となる
 - i) 計画相談に関して、新規で相談があったときには適切に他事業所に案内する、もしくは、委託相談としてフォローしていった
 - ii) 司法書士を招いて「ご家族のための成年後見制度」を実施。30 名が参加した
- ③働く人の成長とチャレンジを支える組織
 - i) JJ たかつきランチ・JS ひむろで、福祉サービスに関する出張勉強会を実施した
 - ii) 「あんだんてで働いてみたい」など相談業務に関心を持つ職員を開拓できた
- ④やさしさあふれる地域を耕す
 - i) コロナウイルス感染拡大予防の観点から、実施を中止した
 - ii) ASD を身近に感じていただけるよう、カフェを活用して情報提供を行った
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) 効率化を図ることで収支差益を改善することができた
 - ii) 強度行動障害支援加算、精神障害者支援加算の要件を満たし、収入に反映した

1.1. 地域医療支援部

(1) 令和元年度重要実施事項

- ①利用者確保
- ②意思決定支援
- ③職員研修
- ④地域の人からの信頼
- ⑤財務基盤の整備

(2) 令和元年度の取り組み内容

- ①チラシを作成・配布、関係機関への紹介依頼、口コミ等を利用
- ②構造化・P E C S (絵カード交換式交換システム)等を使用。
医療の意思決定支援を検討
- ③eラーニングや本・DVDを利用した勉強会を実施。O J Tの活用
- ④家庭へ出向き問看護を説明。ケース会議等出席、学校や医療機関への訪問
- ⑤財務状況についての職員への説明。訪問数確保。事務費・事業費等費用抑制

(3) 評価

- ①1年間で100名の利用者が登録。
- ②利用者の意思決定支援や視覚支援についての職員の意識の変容があった。
医療連携推進室で、医療の意思決定支援について検討、岩佐弁護士、真野先生からも意見を頂き、ジョブサイトひむろで予防接種の利用者意思確認を行った。
- ③職員に日々学習する習慣がついた。北摂杉の子会の看護師として利用者が安心して訪問を受けることができるように日々努力している。
- ④北摂杉の子会の訪問看護として関係機関や利用者から新規利用者をご紹介いただけるようになった。
- ⑤年度後半は一日3件前後の訪問数を確保することにより収支改善傾向が見られた。

12. アクトおおさか

(1) 令和元年度重要実施事項

- ①発達障がいに対する地域の支援力の強化
- ②今まで制度の狭間で十分なサービスを受けてこられなかった人たちへの質の高いサービスを創造していく
- ③生涯にわたる継続したサポートの実現
- ④職員の人材育成

(2) 令和元年度の取り組み内容

- ①発達障がいに対する地域の支援力の強化
 - i) 発達障がい者地域支援マネージャー事業の実施 ～身近な地域での支援のために～
 - a. 自立支援協議会等へ参画し市町村の相談機能と連携を図り、地域の支援体制整備を目指す
 - b. 地域が抱えるケースへのS V (対応困難ケース、触法ケース等)
 - c. 更なる連携強化 (医療機関、就労支援機関、教育機関、府内療育6拠点、司法関係…等)

- ii) 公開講座の実施による啓発
 - iii) 家族支援の充実（団体ネットワークへの参加／ペアレント・メンター事業の実施／ペアレント・トレーニング実施市町村のフォローアップ等）
 - iv) 地域の支援機関との連携強化と人材育成
- ②今まで制度の狭間で十分なサービスを受けてこられなかった人たちへの質の高いサービスを創造していく
- i) 直接支援ケースを通じた支援機関との地道な連携
 - ii) 既存のサービスにつながりにくい人たちへの支援のあり方を継続して模索する
- ③生涯にわたる継続したサポートの実現
- i) 行政、福祉、保健・医療、司法、教育機関との組織的な連携強化を目指し、発達障がい者支援センター連絡協議会を継続実施する
 - ii) 大阪府発達障がい児者支援体制整備検討部会などでの施策提言
- ④職員の人材育成
- i) アセスメントのスキルアップ（個別ケース及び地域アセスメント）および、外部専門家によるSVの活用
 - ii) 相談支援のノウハウを法人内に広げて行く（他部署の研修受け入れを継続実施）
- (3) 評価
- ①発達障がいに対する地域の支援力の強化
- i) 発達障がい者地域支援マネージャー事業の実施 ～身近な地域での支援のために～
 - a. 自立支援協議会等へ参画し市町村の相談機能と連携を図り、地域の支援体制整備を目指した。7町村（東大阪市、吹田市、茨木市、八尾市、池田市、摂津市、能勢町）に訪問し、行政、自立支援協議会、地域の支援機関と連携し地域の支援ニーズの把握や研修等を通じて地域の支援体制整備を実施した。
訪問回数：延べ41回 参加機関延べ：343機関 参加者：延べ627名
 - b. 地域が抱えるケースへのSV（対応困難ケース、触法ケース等）
相談支援事業所、地域活動支援センター、自立訓練・就労移行支援事業所、就労継続支援事業所、障害者就業・生活支援センター、生活介護事業所、一般企業等に対し、発達障がいの特性に合わせた支援方法等についての助言や情報提供を行った。
実施回数
相談支援に関する機関コンサルテーション： 374件
就労支援に関する機関コンサルテーション： 8件
 - c. 更なる連携強化（医療機関、就労支援機関、教育機関、府内療育6拠点、司法関係・・・等）
医療・保健・福祉・教育・労働等の関係機関の職員等に対して、発達障がいの理解と支援のための研修会を実施した。
実施回数:計30回 延参加者数:1,110人
- ii) 公開講座の実施による啓発

- a) 府民むけ公開講座として、「家族支援の再考-支援が支援であるために」をテーマにした講義と「ご本人が望む生活のために大切にしていること～ペアレント・メンター活動を通して～」をテーマに大阪府ペアレント・メンターによるパネルディスカッションを開催した。87名の参加があった。
- b) 支援者向けの公開講座として、「Self-Help-Group と大人の発達障害の現状」と「令和元年度厚生労働省発達障害者支援施策 ピアサポート推進事業について」のテーマでそれぞれ講義と「ピアサポートの視点からこれからの支援を考える」をテーマにしたパネルディスカッションを実施した。160名の参加があった。
- iii) 家族支援の充実（団体ネットワークへの参加／ペアレント・メンター事業の実施／ペアレント・トレーニング実施市町村のフォローアップ等）
 - a) 大阪発達障害団体ネットワーク会議は年3回開催され、アクトおおさかは事務局として参加した。
 - b) ペアレント・メンター事業ではアクトおおさかが事務局を担当した。市町村の依頼に応じて派遣調整を意地になっている。25件の依頼のうち（新型コロナウイルスの感染拡大に伴い内2件中止）の事業を実施した。
 - c) ペアレント・メンターへの研修については、新規のペアレント・メンターの養成研修である「ベーシック研修」を実施し20名の参加があった。登録メンターを対象とした「スキルアップ研修」では8名の参加、「メンター交流会」では6名の参加があった。
 - d) ペアレント・トレーニング実施市町村のフォローアップとして、「ペアレント・トレーニングインストラクター情報交換会」を実施した。8市町村9名の参加があった。
- iv) 地域の支援機関との連携強化と人材育成

これまでのコンサルテーション事業や個別ケースを通じて顔の見える関係がある地域の支援者との更なる連携強化を図ると共に、地域の支援者の相談支援スキル向上を目指して、小規模の連続講座を開催した。

開催数：4回 参加機関：延べ70機関（109名）
- ②今まで制度の狭間で十分なサービスを受けてこられなかった人たちへの質の高いサービスを創造していく
 - i) 直接支援ケースを通じた支援機関との地道な連携

個別支援:実支援人員:1,054人 延支援件数:1,937件

個別支援のための調整会議:延実施回数:4回 延参加機関数 :8機関
 - ii) 既存のサービスにつながりにくい人たちへの支援のあり方を継続して模索する

グループミーティングの取り組みとして、自宅以外に活動場所が少ない相談者に対し、刺激の少ない環境の中、少人数で活動に取り組む機会を設定した。

実施回数：1回 参加者：1名
- ③生涯にわたる継続したサポートの実現
 - i) 行政、福祉、保健・医療、司法、教育機関との組織的な連携強化を目指し、発達

障がい者支援センター連絡協議会を継続実施する

開催回数：2回 参加機関：延べ30機関

ii) 大阪府発達障がい児者支援体制整備検討部会などでの施策提言

「大阪府発達障がい児者支援体制整備会議検討部会」、「大阪府発達障がい児者支援体制整備会議検討部会成人ワーキング」「大阪府発達障がい児者支援体制整備会議検討部会子どもワーキング」にそれぞれ委員として参加した。令和元年度は令和3年度からの「大阪府障害者計画」の策定にむけての提言について議論した。

④職員の人材育成

i) アセスメントのスキルアップ（個別ケース及び地域アセスメント）および、外部専門家によるSVの活用

令和元年度は特定非営利活動法人クロスジョブ代表濱田和秀氏に大阪府における発達障がいの方へ就労支援の状況について情報提供していただき、意見交換を実施した。

ii) 相談支援のノウハウを法人内に広げて行く（他部署の研修受け入れを継続実施）

令和元年度は法人内の事業所より2名の研修受け入れを行った。

1.3. ジョブサイトよど・ジェイ・ブランチよど

(1) 令和元年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

【ジョブサイトよど】

- i) GHの2020年度開所に向け、ソフト・ハード面の体制整備を行う。
- ii) コロケ事業に関わる利用者への、継続して安定した支援を行う。
- iii) 地域の社会資源を有効活用する。

【ジェイ・ブランチよど】

- i) GHの2020年度開所に向け、ソフト・ハード面の体制整備を行う。
- ii) 地域で働く場をもう1拠点広げる。
- iii) 平均工賃を1万円を継続する。

②人権を守る砦となる

- i) 門先生のPECS研修での学びを活かし、支援現場での意思表出支援を実施する。
- ii) リスクマネジメントに対する意識を高めるためにヒヤリハットと事故報告のグレーゾーンの振り返りをする。
- iii) 実習生や職場体験実習等を積極的に受け入れ、第3者視点を入れる。
- iv) 災害時における個別マニュアルを作成する。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 法人内の事業所間交流研修を継続して全員実施する。
- ii) 研修計画を4月に作成しそれに基づき個々の研修を進めて行く。その中でeラーニングのコンテンツを積極的に視聴し共有したいコンテンツをフロア会議で

視聴し意見交換を行う。

- iii) 3 か月に 1 回個別面談を実施する（管理者⇒正職、事務職。GL⇒嘱託、パート職員）。

④やさしさあふれる地域を耕す

- i) よど祭りを通して地域への啓発活動を行う。
- ii) 地域のイベントにコロッケの外販等で参加して地域交流を行う。
- iii) 地域の会合に月 1 回参加する。
- iv) 地域にある施設外就労先の会社に発達障害について啓発を積極的に行う（ジェイ・ブランチよど）。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 収支や定員充足率を毎月全体共有しグループごとに経費管理を行う。
- ii) サービス管理責任者、強度行動障がい支援者養成研修に最低 2 名は参加する。
- iii) 最低 3 以上の通所者を 2 名増やす。

(2) 令和元年度の取り組み内容と評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現（ジョブサイトよど）

【ジョブサイトよど】

- i) GH の 2020 年度開所に向け、ソフト・ハード面の体制整備を行う。
土地探しに難航したが、淀川区三津屋北にやっと土地が見つかり設計や中の仕様に関して業者と詰めていった。来年度 9 月の開所見込みが出てきた。
- ii) コロッケ事業に関わる利用者への、継続して安定した支援を行う。
コロッケ事業へ関わるご利用者は店舗の接客係が 3 名ほど増えた。店舗で揚げる利用者も増えた。
- iii) 地域の社会資源を有効活用する。
地域のカラオケ店、コンビニ、ファーストフード店、飲食店、レンタル DVD 店などを利用するような活動を取り入れた。

【ジェイ・ブランチよど】

- i) GH の 2020 年度開所に向け、ソフト・ハード面の体制整備を行う。
土地探しに難航したが、淀川区三津屋北にやっと土地が見つかり設計や中の仕様に関して業者と詰めていった。来年度 9 月の開所見込みが出てきた。
- ii) 地域で働く場をもう 1 拠点広げる。
地域で働く場は 2 拠点広がった。「十三福社会館」と十三駅西側にある「焼き肉屋松お」のどちらもメンテナンスである。
- iii) 平均工賃を 1 万円を継続する。
平均工賃 1 万円は、何とかギリギリ維持できた。事業所のご利用者の障がい特性や個別の特性を考えると 1 万円を維持するのがやっとなのである。

②人権を守る砦となる

- i) 門先生の PECS 研修での学びを活かし、支援現場での意思表示支援を実施する。
生活介護のジョブサイトよどの方は積極的に PECS に取り組んだ。ご利用者の発信

しようとする気持ちが高まったり、これまで参加できなかった行事などにも参加できるようになった。

- ii) リスクマネジメントに対する意識を高めるためにヒヤリハットと事故報告のグレーゾーンの振り返りをする。

毎月のよど運営会議で確認を行い、件数や特別な内容は法人の権利擁護・虐待防止委員会で報告するようにした。

- iii) 実習生や職場体験実習等を積極的に受け入れ、第3者視点を入れる。

多くの実習生を受け入れた。特に今年度は淀川区の福祉事業所より16名の応募があり受け入れた。

- iv) 災害時における個別マニュアルを作成する。

作成はできていない。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 法人内の事業所間交流研修を継続して全員実施する。

年度当初に希望を聞き、年間の目標も立てたうえで下半期にそれぞれ事業所間交流研修を実施した。

- ii) 研修計画を4月に作成しそれに基づき個々の研修を進めて行く。その中でeラーニングのコンテンツを積極的に視聴し共有したいコンテンツをフロア会議で視聴し意見交換を行う。

フロア会議の前に視聴してもらった。フロアにより（リーダーにより）格差が出てきた。

- iii) 3か月に1回個別面談を実施する。（管理者⇒正職、事務職。GL⇒嘱託、パート職員）

実施済み。必要とあらば上長に報告をしてもらった。

④やさしさあふれる地域を耕す

- i) よど祭りを通して地域への啓発活動を行う。

計画通りよど祭りを開催した。今年度はイベントを再開し、ギターの弾き語りや人形劇、ご利用者の紙芝居など大人から子供まで楽しめるイベントとなった。

- ii) 地域のイベントにコロケの外販等で参加して地域交流を行う。

地域で行われる「十三子供キラキラ祭り」「十三連合盆踊り大会」、「淀川マルシェ」などに参加した。

- iii) 地域の会合に月1回参加する。

十三地域活動協議会に参加した。法人のパンフレットやよど新聞など情報提供したり、地域の情報交換を行った。

- iv) 地域にある施設外就労先の会社に発達障害について啓発を積極的に行う（ジェイ・ブランチよど）。

これに関しては会社方から義務付けされている連絡帳に、ご利用者の個別の特徴や障がい特性をお伝えし理解して頂いた。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 収支や定員充足率を毎月全体共有しグループごとに経費管理を行う。
実施した。支出が多いグループは残高を見ながらフロアで使うお金を調整した。
- ii) サービス管理責任者、強度行動障がい支援者養成研修に最低2名は参加する。
強度行動障害支援者養成研修は申し込むものの落選する職員も多くなかなか計画通りに行かない。
- iii) 最低3以上の通所者を2名増やす。
ジョブサイトよどは1名、ジェイ・ブランチよどは2名ご利用者を受け入れた。

1 4. 就労支援部

(1) 令和元年度重要実施事項

①ジョブジョイントおおさか

- i). 生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - ・全プログラムのねらいと内容の見直し（上半期）
 - ・プログラムごとの年間計画（コンテンツ）の策定と実施（下半期）
 - ・就労支援実績の数値目標の達成（就職20名、職場実習90件以上）
 - ・働くチカラPROJECTにおける学生と企業の接点増（Booster活用）
- ii). 人権を守る砦となる
 - ・利用者満足度の定期実施（半年毎）
 - ・クレド浸透の取り組みの発展
- iii). 働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - ・eラーニングを活用した学習と人材育成
 - ・月2回の勉強会開催「テーマ：ASDの特性理解」
 - ・外部講師による内部研修の充実と先進地の視察実施
- iv). やさしさあふれる地域を耕す
 - ・企業支援のノウハウ蓄積と共有の仕組みづくり（上半期）
 - ・新規の企業開拓の強化（下半期）
 - ・Booster活用で就労移行利用者と企業をつなぐイベント実施（年2回）
 - ・下半期より第三拠点に開設準備
- v). 健全でタフな財務基盤の構築
 - ・自立訓練の充足率80%を目指す
 - ・管理職によるコンサルで収入増（150万/年）

②LaLa-chocolat TAKATSUKI

- i) 生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - ・平均工賃25,000円（前年度比110%）の達成
 - ・職場の士気を高めることを目的にした研修旅行の実施
 - ・ステップの移転の検討
- ii). 人権を守る砦となる
 - ・権利擁護・虐待防止クレドの浸透への取り組み

- ・年2回の業務の振り返りチェックの実施
- iii). 働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - ・販売員のクレド作成と浸透
 - ・管理職による正職員・嘱託職員との1on1ミーティングの定期実施
 - ・店舗運営に関わるマニュアルの整備
- iv). やさしさあふれる地域を耕す
 - ・ネット販売の検討
 - ・お客様ご招待イベントの開催
 - ・地域の子ども向けのイベントの開催検討
- v). 健全でタフな財務基盤の構築
 - ・収支の黒字化を年度内に達成
 - ・2名以上の新規利用者受入れ、定員充足率100%超えを目指す
 - ・年間の総売上2,640万(前年度比110%up)の達成

(2) 令和元年度の取り組み内容

①ジョブジョイントおおさか

- i). 生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - ・全プログラムのねらいと内容の見直しを行なった。
 - ・プログラムごとの年間計画を策定し、実施した。
 - ・就労支援実績の数値目標は、就職は23名と達成することができた。
職場実習は目標に到達しなかったが、延べ65件の実績となった。
 - ・働くチカラPROJECTにおいて、学生と企業の接点を増やすためにBoosterを活用したり、はじめるCafé!の実施に取り組んだ。
- ii). 人権を守る砦となる
 - ・利用者満足度は実施は実施できなかったが、就職者の満足度調査を実施した。
 - ・クレド浸透の取り組みは、毎日の終礼でスタッフがスピーチをした。
- iii). 働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - ・eラーニングを活用するため、外部研修の動画を編集して公開した。
 - ・月2回の勉強会は「テーマ：ASDの特性理解」を中心に開催した。
 - ・外部講師（志野さん、陸野さん）による内部研修を実施した。
- iv). やさしさあふれる地域を耕す
 - ・ESチームが中心となり、企業支援のノウハウ蓄積に取り組んだ。
また、所内における情報共有の仕組みづくりにも取り組んだ。
 - ・新規の企業開拓として、電話かけや訪問の頻度を増やした。
 - ・Booster活用で就労移行支援の利用者の方と企業をつなぐイベント「はじめるCafé!」を2回実施した。
- v). 健全でタフな財務基盤の構築
 - ・自立訓練の充足率80%の目標は、十三は概ね達成できたものの、高槻は就労移行支援・自立訓練ともに新規の利用者集めに苦戦した。

- ・コンサルや研修講師は前年同様の依頼があった。

②LaLa-chocolat TAKATSUKI

- i) 生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - ・平均工賃 25,000 円（前年度比 110%）の達成はできなかった。
 - ・ステップの移転は、2 つの候補物件について検討を行なった。
- ii). 人権を守る砦となる
 - ・権利擁護・虐待防止の取り組みとして振り返りチェックシートを実施した。
- iii). 働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - ・正職員・嘱託職員との 1on1 ミーティングを実施した。
 - ・販売員のマニュアル整備と研修を行なった。
- iv). やさしさあふれる地域を耕す
 - ・ネット販売を検討し、7 月にサイトをオープンした。
 - ・地域の子ども向けのイベントとして、お菓子教室を開催した。
- v). 健全でタフな財務基盤の構築
 - ・年度内の黒字化は達成することができなかった。
 - ・3 名の新規利用者の方と契約することができた。
 - ・年間の総売上 2,640 万(前年度比 110%up)の達成はできなかった。

(3) 評価

①ジョブジョイントおおさか

- i) 職業訓練のプログラムは、年間計画を立てる中でスムーズに実施することができた。また、次年度実施に向けてプログラムの構成をリニューアルするために検討を行い、コース別プログラムの準備に取り組んだ。就労支援においては、企業実習や就職の件数は前年度と同じく順調に進み、大学生支援の働くチカラ PROJECT においても定員を満たす中で実施することができた。
- ii) 利用者満足度調査は実施することができなかったが、終礼でスタッフ間でのクレド浸透は継続的に実施することができた。
- iii) スタッフ持ち回りで開催した ASD 勉強会は好評であった。
- iv) 令和元年度より発足した企業支援・定着支援の専任チーム「ES チーム」が支援のノウハウ蓄積と情報共有の仕組みづくりに貢献した。また、利用者の方と企業をつなぐ新しいイベントとして「はじめる Café！」を実施した。
- v) 十三、高槻とも、新規の利用者の方集めに苦戦した。月一回の見学会を毎週に変更し、自分らしい働き方セミナー+無料相談会も定期的の実施した。また、地域連携として支援機関や大学などにも個別訪問やパンフの郵送、秋からは公式ホームページを開設し、広報と利用者集めの継続実施に努めている。

②LaLa-chocolat TAKATSUKI

- i) 利用者の方の工賃向上については、抜本的な改善はできなかったものの、個別の定期的な作業給評価を実施した。ステップの移転は 2 つの候補物件があったものの、移転の実施には至っていない。

- ii) 権利擁護・虐待防止の観点から、業務の振り返りチェックシートを実施。障害特性に関する勉強会も実施した。
- iii) 販売員のマニュアル検討と研修を実施した。正職員とは 1on1 を実施し、個別に人材育成を検討したり、事業所の方針を確認した。
- iv) 地域の子ども向けとしてお菓子教室を開催。多くの子どもたちにご参加いただくことができた。また、公式のネットショップを開設し、ご来店できない遠方のお客様を中心にお買い上げいただくことができた。
- v) 年間の売上達成、収支改善はできなかった。要因は複雑であるが、人員配置、業務の効率化やマルチタスク化、販路開拓、受注作業の新規開拓など、次年度においても努力したい。

1 5. 児童発達支援部

(1) 令和元年度重要実施事項および取り組み内容【大阪地区・高槻地区】

1. 生涯にわたる地域での暮らしの実現

- (1) an、az では、療育を 4セッションで実施し、保護者支援の強化と質の向上を図る。
次年度以降の療育形態及びニーズの検討を図る
- (2) 個別療育のフォローアップとしてグループ療育を行い、支援スキルの向上を目指す (will/Link)
- (3) 高校卒業後の福祉・医療・高等教育機関への移行システムの構築に向けた検討及び高槻市における成人期への移行の課題に向けて自立支援協議会で提言し検討を進める

2. 人権を守る砦となる

- (1) PECS の研修受講や部内の人材育成を通してコミュニケーション支援の質を深める
- (2) 全事業所で、本人に向けた個別支援計画の自己選択・意思決定を実施する
- (3) 人権意識の向上や虐待防止につなげるための自発的な意識改善を行う

3. 働く人のチャレンジと成長を支える組織

- (1) 職員の将来のビジョンを確認し、研修計画、個別の目標に基づく系統的な人材育成を図る
- (2) 法人内事業所への交流研修と外部への発信により、法人職員としての意識の向上を図る
- (3) 職員満足度調査を踏まえた働き方改革を検討する

4. やさしさあふれる地域を耕す

- (1) 発達障がい児等子育て支援事業におけるモデル市町村を構築するために行政と協議を深める
- (2) 公開講座を実施し、地域への啓発を図る

5. 健全でタフな財務基盤の構築

- (1) 療育の人員配置について、収支改善の評価を実施する
- (2) ニーズに合わせた実費によるグループ療育の実施と、人事育成に向けた有料研修

及び公開講座の実施する(100万増)

(2) 評価【高槻地区】

1. 生涯にわたる地域での暮らしの実現

- (1) 個別療育のフォローアップとしてグループ療育の実施 (will : 3名 10回 Link : 4名 10回)。
- (2) 成人期への移行が上手く進むように、移行先との移行会議を実施している。また、高槻市において、地域課題として挙げているが引き続き検討提言をしていく。

2. 人権を守る砦となる

- (1) PECS 研修を1名受講。門先生のSVにより療育でのPECSの活用方法について学んだ。
- (2) 意思決定支援について、数名の療育児に対し、個別支援計画に向けた自己評価を実施・個別支援計画や、療育に反映させた。

3. 働く人のチャレンジと成長を支える組織

- (1) 月2回のSV面談を通して、職員の年間計画を立案・フィードバックを行った。職員チェックリストの実施、個人の研修計画の作成を通して人材育成を図った。

4. やさしさあふれる地域を耕す

- (1) 公開講座を実施し、地域への啓発を図ると共に、市町村と連携し、療育拠点として圏域の事業所連絡会の開催・研修を実施した。また、通所事業所のニーズを各市町村に伝えることで、各市町村におけるネットワーク作りにも働きかけを行った。今年度、新たに島本町への子育て事業のSVを実施した。

5. 健全でタフな財務基盤の構築

- (1) グループ療育の実施と有料研修の実施、公開講座等により、100万円の収益を得た。

(2) 評価【大阪地区】

1. 生涯にわたる地域での暮らしの実現

- (1) an/az : 4セッション療育実施。保護者対応にも重点を置くことで退所者の減少につながった。
- (2) サービス担当者会議に出席

2. 人権を守る砦となる

- (1) PECS ワークショップを受講し、事業所内でのSVを受け実践報告を実施。
- (2) 小学生や幼児に対しても個別支援計画における振り返りを行い意思決定の機会を実施。
- (3) ひやりはっと、虐待チェックリストを事業所内および地区会議で共有。

3. 働く人のチャレンジと成長を支える組織

- (1) 個人研修計画を立案、内外部の研修の受講および大阪地区合同ケース会議年2回実施。

4. やさしさあふれる地域を耕す

(1) 公開講座で、関係者や一般市民などに向け療育の実践報告を実施。

5. 健全でタフな財務基盤の構築

(1) 収支の進捗管理を部や地区会議で行い、収支改善について検討した。

16. 発達支援あゆみ

(1) 令和元年度重要実施事項および取り組み内容

1. 生涯にわたる地域での暮らしの実現

(1) 豊中市において委託事業を開始するにあたり、事業内容や支援の考え方について広く周知する

(2) 次年度の事業内容案をまとめ、豊中市へ提案する

2. 人権を守る砦となる

(1) ニーズの把握に努める

(2) PECS 研修への参加

3. 働く人のチャレンジと成長を支える組織

(1) 事業内容に応じた研修内容の検討

(2) 法人内連携を通じた人材育成

4. やさしさあふれる地域を耕す

(1) 豊中市における地域ニーズの整理

(2) 2020 年度単独通園事業開始のための準備

5. 健全でタフな財務基盤の構築

(1) 職員皆が収支に関心をもつ

(2) 評価

1. 生涯にわたる地域での暮らしの実現

(1) 関係機関への挨拶回り含め、事業説明などを行った。

(2) 現在、市が実施している個別療育事業の事業内容について見直し、地域のニーズに合ったプログラムの形を豊中市へ提案し、実施した。単独通所事業は法人にとって初めての事業であるため、他園を視察する等、すでに他で実施されている工夫を参考に、事業イメージを検討した。

2. 人権を守る砦となる

(1) 利用児への直接支援、保護者との面談、所属園（保育園・幼稚園）訪問、関係機関（医療・保健・福祉・行政など）との情報交換を通して、ニーズの把握を行った。市との定例会議を月 1 回の頻度で実施。さらに、関係機関への挨拶・訪問・ヒアリングを実施。

(2) PECS に関する研修（法人内研修含む）に参加した。

3. 働く人のチャレンジと成長を支える組織

(1) 必要な研修について、個々の職員のニーズや課題も含め検討し、内部及び外部研修の内容を決定し、実施した。

(2) 他部署からの見学や実習を受け入れ、他部署の施設に見学に行くなどして、人材交流を実施した。

4. やさしさあふれる地域を耕す

(1) 市との定例会議を月1回の頻度で実施。さらに、関係機関への挨拶・訪問・ヒアリングを実施。豊中市立児童発達支援センター主催研修にて講師依頼があり、発達障害の理解と支援をテーマに、計6回分の研修講師を引き受けた。

(2) 単独通園事業の実施案をまとめ、職員確保のための動きを検討し、実施した。園運営やケース等に関する具体的な引き継ぎを開始し、保護者への説明会を行った。

5. 健全でタフな財務基盤の構築

(1) 会議等で、収支の進捗等を共有した。

II. 各組織・事業の実施報告

1. 法人本部

(1) 理事評議員会

理	評	開催日	決 議 事 項	その他の事項
第121回		令和元年 5月27日	第1号議案 理事・監事候補者推薦の件 第2号議案 事業所名称変更の件 第3号議案 平成30年度 事業報告承認の件 第4号議案 平成30年度 決算承認の件 第5号議案 平成30年度 監事監査報告の件 第6号議案 諸規則、規程類の改正の件	
	第66回	6月9日	第1号議案 定款変更の件 第2号議案 借入に伴う担保設定の件 第3号議案 理事監事選任の件 第4号議案 平成30年度 事業報告承認の件および令和元年度 事業計画報告の件 第5号議案 平成30年度 決算承認の件および令和元年度 予算報告の件 第6号議案 監事監査報告の件	
第122回		6月9日	第1号議案 理事長、副理事長選任の件	
第123回		8月27日	第1号議案 諸規則、規程類の改正の件 第2号議案 事業計画進捗状況の件	
第124回		12月17日	第1号議案 (仮称)レジデンスよどI号館の購入並びに開設に向けての活動の件 第2号議案 独立行政法人福祉医療機構からの借入の件	理事長職務執行状況報告

			第3号議案 規程類の改正の件 第4号議案 苦情解決第三者委員選任の件 第5号議案 令和元年度補正予算案の件 第6号議案 事業計画進捗状況の件	
第125回		令和2年3月30日	第1号議案 定款変更の件 第2号議案 法人組織再編の件 第3号議案 部長人事の件 第4号議案 諸規則、規程類の改正の件 第5号議案 寄附金受領の件 第6号議案 三菱UFJ銀行から3,000万円借入の件 第7号議案 令和2年度 事業計画(案)の件 第8号議案 令和2年度 予算(案)の件 第9号議案 定時評議員会開催の件 第10号議案 理事長職務執行状況報告の件	レジデンスなさはら利用者窒息死事故報告 アクションプラン 来年度理事会日程の件

(2) 職員定期健康診断

健診内容：35歳以上の社会保険加入者は「生活習慣病予防健診」を受診。

上記以外の職員は「一般健診」を受診。

【高槻地区事業所】

日程：令和元年10月1日から令和2年2月12日まで

場所：愛仁会 総合健康センター

健診対象者：週あたり20時間以上勤務の職員255名。

【十三地区事業所】

日程：令和元年10月1日から11月26日まで

場所：医療法人健昌会 淀川健康管理センター

健診対象者：週あたり20時間以上勤務の職員41名。

【自閉所療育センターLink】

日程：令和元年9月17日から9月30日まで

場所：医療法人 敬節クリニック

健診対象者：週あたり20時間以上勤務の職員5名。

【こども発達支援センターaz】

日程：令和元年9月4日から9月18日まで

場所：住吉民主診療所

健診対象者：週あたり20時間以上勤務の職員4名。

【アクトおおさか】

日程：令和元年10月4日から11月28日まで

場所：橘甲会 大阪予防医学健診センター

健診対象者：週あたり 20 時間以上勤務の職員 6 名。

【発達支援あゆみ】

日程：令和元年 10 月 21 日から 11 月 20 日まで

場所：千里 LC 健診センター

健診対象者：週あたり 20 時間以上勤務の職員 4 名。

(3) 高槻地域生活総合支援センター会議

①目的

- i) 第 4 次中期計画の進捗管理
- ii) 第 4 次中期計画前半 3 か年のモニタリングおよび後半 2 か年の計画策定

②構成メンバー（メインメンバー）

- ・萩の杜 竹内恒（副施設長）
- ・ジョブサイトひむろ 森田耕平（施設長）
- ・ふれいす Be 奥平健正（副施設長）
- ・児童発達支援部 古東千鶴（課長）
- ・地域生活支援部 原田智弘（副部長）、伊名岡宏（副部長）
- ・地域医療支援部 徳光薫（管理者）

（サブメンバー）

- ・萩の杜 勝部（施設長）
- ・ふれいす Be 下（施設長）
- ・地域生活支援部 平野（部長）
- ・地域医療支援部 小林（部長）

※2019 年度より、より現場の支援に近い、課長や副部長の皆さんによる会議の位置づけにシフトした。

③検討内容

- i) 第 4 次中期計画の進捗管理
 - ・4 月～8 月にかけては進捗管理を行なう。
- ii) 第 4 次中期計画の前半 3 か年の振り返りと後半 2 か年の検討
 - ・9 月～12 月に前半 2 か年の振りかえりを実施し、2 月は後半 2 か年の計画の検討。
- iii) 法人課題の検討
 - ・新人研修について検討（実施時期、実施方法、実施内容等）

※より現場に近い観点から、中期計画の進捗を考えることや、法人の課題を抽出し、提案につなげることを目的とした。

(4) 大阪発達障がい総合支援センター会議

①目的

大阪発達障がい総合支援センターの各事業所における管理運営についての協議

②構成メンバー

- ・アクトおおさか 山根 和史
- ・ジョブサイトよど 田端 たまみ

- ・ジョブジョイントおおさか 星明 聡志
 - ・児童発達支援部 西ヶ峯 佐登子 薬師寺 朱南
 - ・総務部 佐々木 寛昭
- 以上 6名

③検討内容

- i) 第4次中期計画に基づく十三地区の進捗管理
 - a. 主任主体の研修検討と実施について
 - b. 人材育成とSV体制について
 - c. 第4次中期計画のモニタリングと計画修正について
- ii) 十三地区のGHの立ち上げ準備について
- iii) 事業所間交流について
- iv) 自閉症啓発デーイベントについて

④令和2年度検討課題

- ・第4次中期計画の後期2ヵ年の取り組み
- ・主任連携の強化
- ・事業所間交流

(5) 医療職会議

- ・各事業所からの報告・情報交換・検討と、医務だよりの作成を行った。
- ・会議の開設から10年が経過し、今年度で医療職会議を休止することにした。
各事業所間での医療職の交流が進み、各事業所に医療職が定着したことで、当初医療職が少数だったときのように、医療職が孤立したり、医療職の意見が通りにくかったりすることはなくなったためである。
- ・今後は、看護師、栄養士、作業療法士の職種ごとに会議を行うことにした。

(6) 権利擁護・虐待防止委員会

①目的

- ・第4次中期計画「人権を守る砦となる」の遂行
- ・2019年度権利擁護虐待防止計画（法人全体、各部）の遂行と進捗管理
- ・権利擁護虐待防止クレドの浸透
- ・表出コミュニケーション支援の実施
- ・法人内事故や虐待事案についての詳細の共有と意識の確認

②2019年度権利擁護虐待防止責任者および委員

部署名	責任者	委員
萩の杜	竹内 恒	勝部 真一郎
レジデンスなさはら2丁目	原田 智弘	
レジデンスなさはら	伊名岡 宏	
レジデンスなさはらもとまち	辻本 沙弥	
ジョブサイトひむろ	森田 耕平	
ふれいす Be	奥平 健正	下 裕幸
ジョブサイトよど・ジェイブ	高木 由香利	田端 たまみ

ランチよど		
就労支援部	星明 聡志	
児童発達支援部	松上 利男	古東千鶴 新谷沙弥香
アクトおおさか	山根 和史	柳屋 美香
総務部	佐々木 寛昭	
担当理事	平野 貴久	

③2019年度委員会経過および検討内容

<p>▼第1回定例会 4月12日(金) 12名参加(河坂氏参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部進捗・2019年度権利擁護虐待防止計画の確認・e-ラーニング視聴の件 ・法人第3者委員の件
<p>▼第2回定例会 6月28日(金) 16名参加(河坂氏参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部進捗 ・e-ラーニング視聴状況確認
<p>▼第3回定例会 8月23日(金) 13名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クレド振り返りチェック実施スケジュールの確認 ・各部進捗確認 ・9月初旬にクレド振り返りチェックを配布。 ・9月末までに回収し、集計を行った。
<p>▼第4回 定例会 10月25日(金) 10名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クレド振り返りアンケート結果からe-ラーニング視聴の効果測定 ・各部進捗確認
<p>▼第5回定例会 12月27日(金) 11名参加(河坂氏参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部進捗確認 ・レジデンスなさはら事故の件振り返り
<p>▼第6回定例会 2月28日(金) 12名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部進捗確認 ・レジデンスなさはら事故の件 ・レジデンスなさはら不適切な対応の件 ・てんかんのあるご利用者の件等 ・令和2年度権利擁護虐待防止計画の策定の確認

(7) 杉の子農園プロジェクト

① 令和元年度の取り組み内容

- i) 10月30日(水)に、第8回杉の子農園収穫祭を開催した。10月29日が雨のため、延期。ご家族の参加減り、利用者、職員、家族、地域の方々合わせて150名ほどの参加があった。
- ii) ジョブサイトひむろの高槻市役所での「たかつき〇まるしえ」の出店にあわせて、収穫物を出品する。法人栄養士のイベント「ランチフェスタ」の、CafeBeで杉の子農園の野菜を入れたランチが提供された。
- iii) 大阪知的障害児者サポート協会の助成事業で杉の子農園収穫祭に対して、100,000円の助成金をもらう。
- iv) 定期的に農園担当者会議を行ない、各事業所と農園の取り組み、収穫祭の準備、振り返りを行なった。

② 杉の子農園プロジェクト 構成メンバー(10名)

萩の杜	竹内恒（プロジェクトリーダー）	池田裕哉
ふれいすBe	奥平健正	松本理恵
地域生活支援部	藤野清	
ジョブサイトひむろ	森田耕平	中原智美 近藤晶
杉の子農園実務職員	楠目守	
アドバイザー	沖本卓郎	

③ まとめ

- i) 今年度も、「地域に生きる」の実践モデルの一つとして、休憩所を地域の方々
に活用していただきながら、ご利用者や職員、ご家族とも交流されるなど、
コミュニティの場としての機能を果たすことが出来た。また事業所の協力を
得ながら、地域の方々に杉の子農園を知ってもらえる機会を設けること
ができた。
- ii) 今年度は、大阪知的障害者サポート協会からの助成を受けることで、収穫
祭の費用だけでなく、農園にかかる購入費用（種や用具など）も含めた支
出を、農作物の売り上げと助成金による収入で、執り行うことができた。
- iii) 杉の子農園の活動が各事業所内にも定着し、杉の子農園収穫祭も第8回ま
で行うことができた。そのため杉の子農園プロジェクトとしては、一つの
区切りをつけ、農園収穫祭の実行委員会形式として行なうことを検討して
いく。次年度の農園収穫祭の開催については、新型コロナウイルスの状況
を見ながら、開催の是非を検討していく。

(8) 法人全体研修

研修日	研修内容	講師
平成 31 年 4 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年度理事長方針の発表 ・各事業所の事業方針の発表 ・資格取得表彰 ・業務貢献表彰 ・グループホームの役割とは？ ～望まれれば看取りの支援まで～ 講演&シンポジウム 	松上理事長 各部長 総務部 社会福祉法人 ロザリオの聖母会 ナザレの家あさひ 所長 荒井 隆一 氏 コーディネーター 理事長 松上 利男
令和元年 7 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> ・業務貢献表彰事例発表 ・新規事業について すぎのこ訪問看護ステーション 発達支援あゆみ ワークライフバランスについて 法人の会計状況 	該当者 部長 小林哲理 副部長 岩城 望 ワークライフバランス担当 松本 ゆかり 主任 櫻本善大

12月14日	・ノースカロライナ・韓国視察団報告 ・基調講演・指定討論・シンポジウム 安らぎの街づくりと障がいのある人の 多様な働き方を考える	各視察団メンバー 社会福祉法人佛子園 理事長 雄谷 良成 氏 衆議院議員 辻元清美 氏 衆議院議員 大隈和英 氏 高槻市 健康福祉部 障がい福祉課 主幹 白本 友子 氏 高槻市社会福祉協議会 地域福祉 課 木村幸嗣 氏 たかつき・しまもと障がい者就労 支援ネットワーク 代表 今井 司 氏 司会：理事長 松上 利男
令和2年 2月15日	・法人内実践報告 ・公開講座 「表出コミュニケーション支援の重 要性」	該当者 精神科医 門 眞一郎 氏 童夢 代表 中谷 正恵 氏

(9) 内定者職員研修

研修日	内容	講師
令和元年 7月27日	・業務貢献表彰事例発表 ・新規事業について すぎのこ訪問看護ステーション 発達支援あゆみ ワークライフバランスについて 法人の会計状況	該当者 部長 小林哲理 副部長 岩城 望 ワークライフバランス担当 松本 ゆかり 主任 櫻本善大
12月14日	・ノースカロライナ・韓国視察団報告 ・基調講演・指定討論・シンポジウム 安らぎの街づくりと障がいのある人の 多様な働き方を考える	各視察団メンバー 社会福祉法人佛子園 理事長 雄谷 良成 氏 衆議院議員 辻元清美 氏 衆議院議員 大隈和英 氏 高槻市 健康福祉部 障がい福祉課 主幹 白本 友子 氏 高槻市社会福祉協議会 地域福祉 課 木村幸嗣 氏 たかつき・しまもと障がい者就労 支援ネットワーク 代表 今井

		司 氏 司会：理事長 松上 利男
令和2年 2月15日	・法人内実践報告 ・公開講座 「表出コミュニケーション支援の重要性」	該当者 精神科医 門 眞一郎 氏 童夢 代表 中谷 正恵 氏

(10) 新入職者研修

研修日	研修内容	講師
令和元年 6月27日	労務管理・人事考課・予算	総務部
8月28日	法人設立の経緯	松上理事長
10月23日	虐待防止について	地域生活支援部部長 平野 萩の杜施設長 勝部
11月22日	コミュニケーションについて	ふれいすBe 下施設長
12月20日	障害理解について	発達障害スーパーバイザー 堀内
令和2年 2月21日	ビジョンに基づく 来年度の目標	ジョブジョイントおおさか所長 星明

2. 総務部

(1) 機関紙

発行月	主な内容	発行部数
4月	平成31年度方針、業務貢献表彰報告、すぎのこ訪問看護ステーション開設	3,500
7月	業務貢献表彰報告、発達支援あゆみ開設	3,500
10月	韓国清州市施設視察報告、業務貢献表彰報告	3,500
1月	新年のご挨拶、業務貢献表彰	3,500

(2) 人材育成研修室

①施設コンサルティング事業

社会福祉法人来島会 南海学園 (入所・共同生活援助：3日間/月 年間11回：入所：@高知県南国市)

今治福祉園 (入所：2日間/月 年間11回 入所：@愛媛県今治市)

株式会社 すばるトータルプランニング ぐっぴー (生活介護：年間11回：@羽曳野市)
守口 (共同生活援助：年間11回：@守口市)

GH事業部 (共同生活援助：年間10回：@羽曳野市)

社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団 みずほおおぞら (多機能：年間6回：@豊中市)
白島荘 (生活介護、地活：年間5回：@箕面市)

社会福祉法人 清光会 和泉の里 (入所：年間8回：@泉佐野市)

社会福祉法人 草の根共生会 蓮Ⅱ等 3 事業所（生活介護、共同生活援助：年間 7 回：
@東大阪市）

社会福祉法人 二色福祉会 夢二色（生活介護：年間 2 回：@貝塚市）

社会福祉法人 北須磨保育センター こんにちは友が丘（入所、通所生活介護：年間
12 回：@神戸市須磨区）

社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団 丹南精明園（入所：年間 10 回：@丹波篠山市）

社会福祉法人 博由社 ハピネスさつま（入所・通所生活介護：年間 8 回：@兵庫県加
古川市）

社会福祉法人まほろば まほろば光司園（生活介護：年間 4 回：@兵庫県三木市）

社会福祉法人 みつみ福祉会 みつみ学苑（入所：年間 2 回：@丹波市）

社会福祉法人 広島市手をつなぐ育成会 いくせい等 4 事業所（入所・多機能：年間 5
回：@広島市）

四条畷市立岡部保育所 保育現場のモニタリングと講義・事例検討（保育所：1 回：@四
条畷市）

合計 13 法人 25 事業所

②学校巡回コンサルテーション事業

高槻市市教育委員会 学校巡回（清水小学校：4 回）
（阿武山小学校：4 回）
（日吉台小学校：4 回）
自閉症連続講座 4 回（@教育センター）
テーマ別研修 2 回（@教育センター）
実践報告会 1 回（@教育センター）

和泉市教育委員会 職員研修 1 回
学校巡回 小学校（黒鳥小学校：3 回）
（緑が丘小学校：4 回）
中学校（信太中学校：3 回）
（北池田中学校：4 回）

泉大津市教育委員会 職員研修 1 回
学校巡回（穴師小学校：3 回）
実践報告会 1 回

合計 3 市教委 8 校

③講師派遣事業（連続講座）

鳥取県社会福祉司会 現場力向上研修（2 日間：@鳥取県倉吉市）

出発の仲間の会 自閉症・行動障害のケア（3 回：@大阪市生野区）

兵庫県知的障害者施設協会 日中活動支援部会職員研修 強度行動障害者の理解とその
支援方法のヒントを学ぶ（講義と演習@兵庫県神戸市）

大阪府社会福祉協議会 令和元年度 障がい児者施設課程及び成人施設課程（テーマ別）
（2 回@大阪市）

豊中市こども相談課 発達支援・障害児支援者対象研修会 「発達障害への合理的配慮」
(2回：@豊中市)

④講師派遣事業(単回講義)

茨木市自立支援協議会 子ども支援プロジェクトチーム研修会「福祉と教育の連携」(@茨木市)

社会福祉法人 コミュニティーキャンパス 職員研修 「発達障害ってなんだろう」(@吹田市)

大阪府社会福祉士会北河内支部 研修会 「発達障害の基本的理解～個人差の理解、環境の整え方～」(@門真市)

ななくさ清光園 職員研修 「強度行動の理解と支援」(@兵庫県西宮市)

丹波市保健所(香良病院) 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業—強度行動障害者への支援に関する研修会—(@兵庫県丹波市)

社会福祉法人 息吹 精神障害者理解促進事業ハートパーク「発達障がいてなんだろう?」(@箕面市)

社会福祉法人 南風荘 職員研修「発達障害の理解と支援」(@山口県宇部市)

⑤委員会等への参加

大阪府立砂川厚生センター いぶき寮における難治群支援検討会(6回：@泉佐野市)

⑥法人内

ジョブサイトよど ジェイ・ブランチよど (1回/月 通年)

発達支援あゆみ 保護者研修会 (@豊中市)

新規採用者職員研修 (@高槻市生涯学習センター)

ジョブサイトひむろ (1回：人権研修)

3. 萩の杜

(1) 施設入所支援・生活介護・(以下①及び⑥にはショートステイセンターぶれす含む)

①萩の社会議：毎月1回開催

i) 萩の杜内各部署間の連絡調整

②萩の杜運営会議：毎月1回開催

i) 管理職-現場職の連絡調整

ii) 事業計画、職員体制の検討

iii) 内部研修会の企画運営

日程	研修内容	講師
4月1日(月)	障がい特性の理解 (新入職員対象研修)	松本浩典 池田裕哉
4月22日(月)	自閉症支援基礎講座 (ぶれいす Be 合同)	中山清司 氏
5月16日(木)	評価について	中山清司 氏
12月19日(木)	萩の杜 実践報告会	各ユニット担当者

③生活グループ支援会議(施設入所支援)：毎月1回開催

- i) 施設入所支援各グループに関する事項の共有、検討
- ii) 業務等に関する事項の共有、検討
- iii) 利用者支援に関する事項の共有、検討

④ふれっと支援会議/ふれっと なさはら支援会議(生活介護)：毎月1回開催

- i) 施設入所支援各グループに関する事項の共有、検討
- ii) 業務等に関する事項の共有、検討
- iii) 利用者支援に関する事項の共有、検討
- iv) レクリエーションの企画、立案、評価

⑤旅行担当者会議(施設入所支援)：随時開催

- i) 旅行ニーズ、旅行先の調査及び開拓
- ii) 日帰り旅行の企画、立案、評価

日程	行き先
5月30日(木)	ナガシマスパーランド
6月6日(木)	ネスタリゾート神戸
6月27日(木)	琵琶湖博物館
7月18日(木)	大阪水上バス
9月19日(木)	のじまスコーラin淡路島
10月10日(木)	ジョーテラスおおさか
10月24日(木)	六甲ガーデンテラス
11月7日(木)	東京スカイツリー
11月14日(木)	雄琴温泉

⑥リスクマネジメント委員会：毎月1回開催

- i) ひやりはっと報告及び事故報告内容共有、意見交換
- ii) 再発防止策等の検討

⑦安全対策委員会(萩の杜家族会と協同)：隔月開催

- i) ひやりはっと報告及び事故報告内容共有、意見交換
- ii) 再発防止策等の検討

(2)保健看護

①保健衛生業務

- i) 身体測定(年2回)、体重測定(月1回)、血圧測定(有所見者のみ月1回)
- ii) 健康診断
 - a. 内科健診(年2回)
 - 前期：7月11日(木)、7月18日(木)
 - 後期：11月19日(火)

②保健看護業務

- i) 疾病予防

- a. 内科嘱託医（なかじま診療所 中嶋医師）との連携
 - b. オーラルヘルスケアサービスによる口腔衛生指導（希望者のみ・毎週水曜日）
 - c. かしわせ歯科クリニックによる歯科治療（希望者のみ・毎週水曜）
 - d. 看護処置
- ii) 精神科相談（毎月1回金曜日：啓友クリニック 西山医師）
 - iii) 受診件数（上記精神科相談・オーラルヘルスケアサービスを含む）

受診科	件数	受診科	件数
内科	302	婦人科	1
外科	0	小児科	0
整形外科	40	精神科	338
脳神経外科	6	形成外科	0
眼科	16	麻酔科	0
耳鼻科	5	歯科	482
皮膚科	25	入院	1
泌尿器科	0	手術	0
消化器科	6	救急	1

合計：1,223件

※上記入院期間及び入院先

期間	病院	診療科
5月30日(木) - 5月31日(金)	みどりヶ丘病院	救急

(3) 栄養管理

①給食会議：毎月1回開催

- i) 利用者に関する報告
- ii) 食事内容等に関する検討

②その他

- i) 偏食等の利用者個別配慮調整

(4) 避難訓練

- ① 11月22日(金)：垂直避難訓練(ショートステイセンターぶれす合同)

4. 短期入所(ショートステイセンター ぶれす・ふれいす Be 短期入所)

(1)ぶれす利用実績(延べ人数・カッコ内は児童利用者数の内訳)

	短期入所	日中一時支援			合計
	宿泊	4時間未満	4-8時間	8時間以上	
4月	48(0)	115(6)	34(7)	3(0)	152(13)
5月	53(2)	112(9)	32(4)	3(0)	147(13)
6月	51(2)	101(7)	43(4)	3(0)	147(11)

7月	46(1)	114(5)	33(4)	3(0)	150(9)
8月	49(1)	91(0)	36(3)	3(0)	130(3)
9月	45(1)	92(4)	35(2)	4(0)	131(6)
10月	45(1)	107(4)	24(0)	4(0)	135(4)
11月	44(0)	94(4)	37(1)	2(0)	133(5)
12月	41(0)	93(2)	39(1)	0(0)	132(3)
1月	41(1)	96(4)	35(1)	0(0)	131(5)
2月	45(1)	94(3)	30(0)	2(0)	126(3)
3月	42(1)	78(0)	42(6)	5(0)	125(6)
合計	550(11)	1,187(48)	420(33)	32(0)	1,639(81)

(2)ぶれす送迎実績

月	回数	月	回数
4月	388回	10月	346回
5月	381回	11月	324回
6月	381回	12月	334回
7月	383回	1月	339回
8月	344回	2月	319回
9月	334回	3月	222回

合計：4,095回

(3)ふれいす Be 利用実績

(延べ人数・カッコ()内は児童利用者数、カッコ〈〉内は重身利用者数の内訳)

	短期入所	日中一時支援			合計
	宿泊	4時間未満	4-8時間	8時間以上	
4月	64(1)〈5〉	137	23	4	164(15)〈47〉
5月	62(1)〈5〉	150	17	2	169(17)〈48〉
6月	76(4)〈6〉	147	25	5	177(24)〈52〉
7月	69(2)〈5〉	164	25	6	195(22)〈60〉
8月	59(1)〈5〉	131	31	8	170(22)〈48〉
9月	73(0)〈7〉	129	23	4	156(14)〈45〉
10月	60(1)〈4〉	164	16	6	186(20)〈54〉
11月	70(2)〈5〉	158	23	4	185(21)〈52〉
12月	58(3)〈4〉	151	26	3	180(21)〈55〉
1月	62(3)〈5〉	144	17	4	165(24)〈52〉
2月	64(1)〈2〉	131	26	5	162(19)〈47〉
3月	78(5)〈5〉	133	26	6	165(21)〈53〉
合計	795(24)〈58〉	1,739	278	57	2,074(240)〈613〉

(4) ふれいす Be 送迎実績

月	回数	月	回数
4 月	243	10 月	246
5 月	240	11 月	276
6 月	276	12 月	252
7 月	286	1 月	245
8 月	231	2 月	250
9 月	225	3 月	210

合計：2,980 回

(5) ふれす-ふれいす Be 合同会議：毎月 1 回開催

- ①業務等に関する事項の共有、検討
- ②合同内部研修会の企画運営

日程	研修内容	講師
6 月 11 日(火)	表出コミュニケーション	村田拓也
10 月 8 日(火)	北摂杉の子会 e ラーニング	下裕幸
2 月 4 日(火)	事例検討 (3 ケース)	

5. ジョブサイトひむろ

(1) 生活介護係

- ① ジョブサイトひむろ会議：毎月 1 回開催
 - i) 利用者関係等、各グループ報告
 - ii) 事故、ひやりはっと報告について
 - iii) 事業計画、予算の進捗確認
- ②ジョブサイトひむろ支援員会議：不定期
 - i) 事例検討
 - ii) 日帰り旅行グループング検討、事前説明会
 - ii) アクションプラン検討
- ②リスクマネジメント委員会：毎月 1 回開催（前期）、後期は不定期で実施
 - i) ひやりはっと報告及び事故報告内容共有、意見交換
 - ii) 再発防止策等の検討
 - iii) マニュアルの作成および説明会の実施
- ③工賃向上委員会：不定期
 - i) 新規受注作業の検討
 - ii) 作業評価シート（賞与支給）の進捗確認
 - iii) 工賃向上報告会の実施

物販

日程	イベント名
4 月 4 日 (木)	たかつき〇まるしえ

7月18日(木)	たかつき〇まるしえ
7月20日(土)	さにすぼ夏祭り
9月6日(木)	たかつき〇まるしえ
10月29日(火)	事業所連絡会ミニバザー
11月17日(日)	ゆうあいセンター30周年フェスタ
11月17日(日)	2019 たかつきアート博覧会
11月30日(土)	福祉展
12月3日(火)	たかつき〇まるしえ
1月16日(日)	ふれあいバザール

④レクリエーション委員会：不定期

- i) レクリエーション企画の集約、調整
- ii) 日帰り旅行の企画、立案
- iii) その他地域で行われるイベントへの参加調整

作業グループ別レクリエーション

日程	行き先	人数	日程	行き先	人数
6月12日(水)	服部緑地公園	5	12月12日(木)	太秦映画村	4
6月14日(金)	万博記念公園	14	12月13日(金)	手塚治虫記念館	3
6月20日(木)	コカコーラ工場見学	4	12月19日(木)	京都嵐山	5
7月5日(金)	NHK大阪放送局 大阪城	7	1月17日(金)	宝塚北SA	5
7月12日(金)	伊丹空港	4	1月29日(水)	京都水族館	7
8月26日(月)	エキスポシティ	6	2月4日(火)	スポッチャ	5
9月6日(金)	伊丹空港	6	2月7日(金)	カップヌードル ミュージアム	6
9月13日(金)	ラウンドワン	6	2月14日(金)	神戸ハーバーランド	7
11月22日(金)	京都嵐山	4	合計	17	98

日帰り旅行

日程	行き先
11月8日(金)	神戸フルーツフラワーパーク 太陽公園(姫路) 姫路城

サッカー

日程	内容	場所	参加人数
6月13日(木)	法人内練習	フットサルヨコタ	6名
7月4日(木)	法人内練習	フットサルヨコタ	5名
9月5日(木)	法人内練習	フットサルヨコタ	5名
10月3日(木)	法人内練習	フットサルヨコタ	6名

11月8日(土)	サッカー大会	ノアステージ茨木	8名
----------	--------	----------	----

祝日プログラム

日程	内容	場所	参加人数
4月29日(月)	こいのぼりフェスタ	芥川桜堤公園	26名
5月25日(土)	ハートウォーミング コンサート	スタジオ Wooo	4名
6月22日(土)	しいたけ狩り&バーベキュー	高槻しいたけ センター	6名
8月13日(土)	ジョブサイトひむろ祭り	ジョブサイトひむろ	全員
10月6日(日)	高槻市市民ふれあい運動会	高槻市立第一中学校	9名

地域イベントへの参加

日時	内容	場所	参加人数
7月9日(火)	ふれあいプール レクリエーション	高槻市民プール	7名
7月11日(木)	イオンイエローレシート キャンペーン	高槻イオン	3名
8月6日(火)	ふれあいワークショップ	ゆうあいセンター	2名
12月9日(月)	高槻ふれあいキャンペーン	JR 高槻駅	2名
2月26日(水)	ボランティア体験プログラム	ゆうあいセンター	2名

⑤その他

内部研修

日程	内容	参加人数
4月8日(月)	てんかん講座(真野先生)	11名
5月20日(月)	てんかん講座(真野先生)	10名
9月27日(金)	骨粗鬆症勉強会	12名
10月11日(金)	サラヤ手洗い講習会	9名
10月21日(月)	健診結果～血液検査値の見方を知ろう～ (真野先生)	20名
12月16日(月)	健診結果～血液検査値の見方を知ろう～ (真野先生)	9名
1月10日(金)	骨粗鬆症勉強会	17名
1月20日(月)	「がん」について(真野先生)	14名
1月31日(木)	リスクマネジメント支援員会議(事例検討)	17名
2月17日(月)	「がん」について(真野先生)	14名
3月23日(月)	バイタル測定について(真野先生)	15名
3月24日(火)	後期人権研修(堀内さん)	19名

ボランティア

日程	ボランティア	人数
7月26日（金）	茨木市在住の女性	1名
9月3日（火）	龍谷大学短期大学の女性	1名

見学

日程	見学者	人数
5月21日（火）	高槻支援学校保護者	8名
6月5日（水）	高槻支援学校保護者	1名
6月26日（水）	自立センター前穂	5名
7月8日（月）	高槻支援学校保護者	1名
7月10日（水）	GIFT-WEST	2名
8月7日（水）	さくらの家	1名
8月21日（水）	くらし創造の家 朋	3名
10月31日（金）	自立センター前穂	2名
12月11日（水）	野積園	4名
1月9日（木）	砂川厚生福祉センター	5名
1月21日（火）	支援センターさくら	1名
1月27日（月）	支援センターさくら	1名
2月19日（水）	支援センターさくら	1名
2月26日（水）	大阪保育専門学校	1名
3月24日（火）	くらし創造の家 朋	3名

（2）医務栄養

①医務会議：毎月1回開催

- i) 健康、予防プログラムの進捗確認
- ii) リハ加算の進捗確認
- iii) 真野先生巡回相談：年間11回
 - a. 職員向け研修：年間7回
 - b. 内科健診
 - c. インフルエンザ予防接種
 - d. リハビリテーション計画面談、更新
 - e. ご家族、職員の相談
- iv) 健診オプションについての検討、ご家族との共有
- v) 予防接種の際の医療同意の啓発
- vi) その他医療に関わる案件の検討

②健康診断

- i) 利用者健康診断

前期：5月25日（土）9:00～11:00（医療法人桜峰会 香川クリニック）

（内容）身体測定、問診、血圧測定、胸部X線直接撮影、尿検査、血液検査

感染症、アレルギー検査（希望者のみ）

後期：11月30日（土）9:30～11:30（医療法人桜峰会 香川クリニック）

（内容）身体測定、問診、血圧測定、インフルエンザ予防接種（希望者のみ）

ii) 職員健康診断

10月1日（火）～12月25日（木）（愛仁会総合健康センターにおいて実施）

③作業療法

i) 個別セラピー：15名 年間66回実施

ii) 体力測定：23名 年間1回実施

iii) リハビリテーション計画書作成、評価：13名

iv) ポールウォーキング

v) シェア畑活動

vi) ひむろボックスの実施

④栄養

i) 給食会議：毎月1回実施

a. ご利用者に関する報告

b. 食事のリクエスト

c. 特食（祝日、土曜）メニューの検討

ii) セレクト給食の実施（毎月1回）

iii) その他

a. 季節を感じられるメニュー、ご当地グルメを取り入れた。

b. 塩分量の減少に努めた。

c. グループホームのご利用者に対し、栄養摂取状況の改善を図った。

d. ご利用者の誕生日に、バースデーカードとデザートを給食に添えた。

6. グループホームとんだ・レジデンスなさはら2丁目

(1) 会議

①個別支援ミーティング：毎月

i) ご利用者の共通認識作成

ii) 個別支援の進捗確認、検討

②給食会議：毎月

i) 調理担当者と直接支援員による意見交換と食事量調整

ii) ご利用者の希望に合わせた食事提供の相談

iii) クリスマス会の献立等調整

③夜間会議：基本的に毎月

i) 夜間支援員と日中支援員の情報交換

ii) 夜間対応の状況確認と検討

④とんだ世話人会議：不定期開催

i) ご利用者の情報共有

- ii) 世話人間の連絡調整
- iii) とんだ業務全般に関する検討、助言、調整
- ⑤ 2丁目運営会議（後期から）
 - i) 正職員間の情報共有
 - ii) 事業計画、アクションプランの進捗確認、検討
- (2) 保健衛生業務
 - ① 体重測定（最低月1回）
 - ② 利用者健康診断
 - 内科健診（年2回）基本的に日中活動先で受診
 - ③ 職員健康診断（年1回 夜勤者は年2回）
- (3) 保健看護業務
 - ① 食事疾病予防
 - ② オーラルヘルスケアサービスによる口腔衛生指導
 - （希望者のみ・基本毎月1～2回）
 - ③ 受診件数（オーラルヘルスケアサービスを含まず）

受診科	件数	受診科	件数
内科	30	神経内科	
外科		精神科	60
婦人科	2	形成外科	
肛門科		嚥下外来	
眼科		歯科	(180)
耳鼻科	1	口腔外科	
皮膚科	10	救急	
泌尿器科	3	救急搬送入院	
消化器科		合計	106 + (歯科 180)

- (4) 避難訓練
 - ① 5月、1月に実施。スムーズに避難できた。

7. レジデンスなさはら

- (1) 会議
 - ① 番館ミーティング：毎週
 - i) ご利用者の共通認識
 - ii) 個別支援の進捗確認、検討
 - ② 夜間ミーティング：年2階
 - i) 夜間支援員と日中支援員の情報交換
 - ii) 夜間対応の状況確認と検討
 - ③ レジデンス会議
 - i) 日勤帯職員の情報共有

ii) 予算、事業計画、アクションプランの進捗確認、検討

(2) 保健衛生業務

①体重、バイタル、SP02 の測定（毎日もしくは週 1 回）

②利用者健康診断

内科健診（年 2 回）基本的に日中活動先で受診

③職員健康診断（年 1 回 夜勤者は年 2 回）

(3) 保健看護業務

①往診の受診

②オーラルヘルスケアサービスによる口腔衛生指導

（希望者のみ・基本毎月 1～2 回）

③受診件数（オーラルヘルスケアサービスを含まない）

受診科	件数	受診科	件数
内科	89	神経内科	
外科	1	精神科	59
婦人科	4	形成外科	6
肛門科		嚥下外来	
眼科	17	歯科	9
耳鼻科	31	口腔外科	
皮膚科	14	救急	1
泌尿器科	9	救急搬送入院	
消化器科		合計	240

(4) 避難訓練

① 9 月、3 月に実施。スムーズに避難できた。

8. レジデンスなさはらもとまち

(1) 会議

①もとまちミーティング

i) 個別支援計画に基づく支援の遂行。支援の調整や対応の統一。進捗管理。

ii) 収支状況の把握、タイムリーな案件（コロナ等）についての共通認識と対応等々

iii) 「もとまち基本理念」の検討

iv) 事業計画、アクションプランの遂行

②夜勤者ミーティング

i) 個別支援の状況を夜間支援員と確認し、共通認識と対応の統一を図る

ii) 夜勤業務の役割分担と遂行

iii) 夜勤者同士の情報交換

③サービス担当者会議

i) 生活環境が大きく変更になったことによる状態の確認と共有

- ii) ご利用者によっては医師もご参加いただき薬の狙いや効果についての共有と今後の方針の確認
 - iii) ご本人に必要なサービスの調整と支給決定につなげる
- (2) 保健衛生・通院等
- ① 日常の健康管理、ご家族と連携による服薬管理。
 - ② 体重測定 (最低月 1 回)
 - ③ 利用者健康診断
 - 内科健診 (年 2 回) 基本的に日中活動先で受診
 - ④ 職員健康診断 (年 1 回 夜勤者は年 2 回)
 - ⑤ 個別の通院同行 (睡眠や食事等の課題のあるご利用者の共通認識と通院同行)
- (3) 1 番館開設準備
- ① 体験入居の利用調整、支援の遂行、ご家族との連絡調整。
 - ② 必要物品のリスト作成、購入、設置、チェック。
 - ③ 親の会での進捗のご説明、ご家族との面談等々。
- (4) 避難訓練
- 9 月、3 月に実施。特に通報のロールプレイを実施することで、様々な気づきがあり、マニュアルに落とし込む等につなげたい。

9. ふれいす Be 通所部門

(1) 知的生活介護 I (AR 4, 7)

今年度も 13 名のご利用者が、概ね安定して通所された。その内 1 名の男性ご利用者が、12 月から他法人のグループホームに入居し、通所を継続されている。

また、昨年度に引き続き、1 名のご利用者が、気分の波や粗暴行為が見られ、不安定な状態が続いた。要因として、グループホームの体験利用やご家族と離れる事への不安感、てんかん発作等、いくつか考えられたが、原因の特定までには至らず、11 月から医大精神科に通院し、服薬と環境調整で対応し、経過を見ている。今後もお家庭との連絡を密に取りながら、ご本人の安定に繋がるような支援を提供していく。

全体としては、個々の特性やペースなどを考慮しながら、働く事と余暇的な活動をバランスよく実施し、充実した過ごしができるようなプログラムを提供した。また、それらを通して、より自立した ADL の獲得や大人としてのマナー、適切な人との関わり方などが身につくような支援を実施していった。

作業として、従来の菓子商品の軽作業を中心に、今年度も就 B と連携する事で作業の拡充とスキルの向上を図った。軽作業やポスティングだけでなく、リネンから請け負う作業の種類や量も増え、安定した作業が提供でき、ふれいす Be の生活介護チームの中では、高い工賃を支払う事ができている。ご利用者の多くは、お金の理解や管理が難しいが、毎月の工賃を楽しみに、日々の作業への意欲や責任感など、働く事への意識が高まっている。

余暇活動では、ご利用者からのニーズの高い定期的な工賃でのカフェタイムやピク

ニック、週1回のセレクト余暇、土曜開所日のイベントを昨年度と同様に提供し、社会性や自主性の向上にも繋がっている。また、ご家族からニーズの高い運動プログラムの実施については、作業療法士や管理栄養士とも連携し、一部のご利用者には個別プログラムを実施。来年度からは、チーム全体で余暇活動の一環としてサーキットトレーニングを組み込み、運動プログラムを実施、評価していく予定。

1年を通してスタッフ体制が整わず、支援が行き届かない事があった。その為、自立してできていた事も出来なくなるケースも多々見られ、今後の課題となっている。

(2) 知的生活介護Ⅱ (AR 1, 2, 8)

●AR1 / AR2

AR 1 所属のご利用者で、以前より通所が不安定だった方が、10月から現在に至るまで休む事無く通所されるようになりました。現在は、利用時間を 15 時まで延長し、Be の送迎車で帰宅されるまでに至っています。また、ご本人の状態が安定された事で、12 月から日中一時のご利用を数年ぶりに再開されています。定期的にご両親と関係機関で会議を持ち、密に情報共有を行い、連携して支援の組み立てを行いました。

AR 2 所属のご利用者で1名、コロナウイルスの影響で2月末から現在に至るまでお休みをされている方がいらっしゃいます。事態が収束後、通所を再開する予定です。

AR 1 については、作業療法士と連携を図り、室内運動プログラムを充実させました。

また、他害が頻繁に見られていたご利用者1名に対して評価キットで評価を取り、支援を再考しました。環境面、活動面、移動ルートを整理する事で、安定して過ごされる時間が増えています。

また、AR 1 の3名のご利用者が4月より当法人の GH (なさはらもとまち) に入居されました。ご家族、Be、なさはらもとまち、あんだんと定期的に担当者会議を持ち、連携して支援に当たれる様、情報共有をしました。残念ながら、1名のご利用者が1月でなさはらもとまちを退所されています。

AR 2 については、自傷行為が激しいご利用者の通院同行をし、ご家族や医療と連携して自傷の原因の究明に努めました。また、ご利用者同士の相性を考慮し、数回に渡り AR 2 の活動室のレイアウトの変更を実施しています。

AR 1、2 のプログラム提供においては、ご家族からのニーズが高い、運動プログラムを中心に活動の組み立てを行いました。散歩や空き缶潰し、Be 周辺のゴミ拾い、室内運動としてカラーボールを用いた階段昇降運動、ピンポン球を用いた踏み台昇降運動、低位置から高位置にあるフックに輪を掛ける全身伸縮運動、ステッパー運動、ラジオ体操等に取り組んで頂き、複数のご利用者に体を動かす機会を確保しました。今後も、AR 1・2 共に作業療法士と連携し、室内運動プログラムを充実させていきたいと考えています。畑作業、音楽療法、チューブ納品の活動は、メンバーが固定になっていましたが、メンバーを再編し、参加して頂くご利用者を増やしました。今後も評価を行い、各ご利用者が意欲的に取り組める活動の幅を広げていきます。

●AR 8

AR 8 では、4月より AR 2 で通所出来ていないご利用者の受け入れをした。事前に開

き取りなどを行ない、ご本人に合った環境をグループ間で検討し、組み立てをした。また対応方法もグループ間で共通認識を持ち、実践することで時々お休みされることはあるものの、適宜、手直しすることで概ね安定して通所していただくことが出来た。それに伴い他利用者のエリアを含め、大幅に作業エリアの見直しを行ったが、他のご利用者にも支障がなく変更することができた。

取り組みとしては農園活動をふれいすBeとしての参加を従来の午前中のみから、午前の部、午後の部と分けることで参加できるご利用者を増やした。また他事業所と合同で実施しているポールウォーキングにも参加するご利用者を増やすことで活動の充実を図った。

門先生のSVを活用しながらPECSの実践を行った。運動プログラムとしてはOTと連携し、動画を利用したバランスボール運動を取り入れた。その他として母の日やクリスマスの創作活動、年賀状や干支のポスター作り等、季節に合わせたプログラムを提供した。

(3) 重身生活介護 (AR3)

重身生活介護部門では、正職員による医療的ケアの実施を進めること、受け入れ可能な医療的ケアを拡大すること、日中活動の充実、ご利用者と保護者のニーズの実行を目標にスタートした。今年度は支援学校卒業生3名を加えた22名で開始した。年度初めは、長期自宅療養の方やご家庭の都合で短期入院を利用される方、体調悪化により入院された方もおられたが、ご利用者も増えたことにより1日9名~13名ほど安定して通所された。土曜開所も毎回平均5名程が利用した。

また、職員のスキルアップの為の研修に関しては個人研修計画表に基づき現場業務を調整し個別事に希望する研修に参加する事が出来た。施設見学については呼吸器の受け入れについて他事業所へ見学に行くことが出来た。月に1回チーム内のミーティングを設定する事で研修参加者の伝達講習や支援方法について話し合いを行い、情報共有する事が出来た。非常勤スタッフも積極的に参加できる体制にすることで、多くのことを共有する事が出来、支援の振り返りにも繋がった。今後も視野を広げる為にも他施設の見学を計画する事も必要である。

ご本人と保護者のニーズの実行については、すべてに応える事は出来なかったが、保護者やご本人との面談や日々の会話からニーズを拾い上げ、QOLの向上を目指した。

正職員による医療的ケアの実施については、嘱託職員1名が喀痰吸引等3号研修を、正職員1名が喀痰吸引等2号研修を受講して現場で指導看護師の下、実践を行っている。支援員の医療的ケアの実施により、現場の看護師と話し合う機会が出来、業務の共有を行うことが出来たことで支援の幅の拡がりに繋がった。

今年度は通所されていた利用者の体調悪化で合計、永久気管功2名、呼吸器装着2名となり、今後も高度医療的ケアの方が増えることが予測される為、支援員でも出来る事を増やし、他職種と連携していく必要がある。また、利用者の退院カンファレンスには看護師と一緒に行き支援や介助方法を連携して行えるように相談、共有する事

が出来た。呼吸器受け入れについては、支援員、看護師、施設長と話し合いを行ったが現段階ではご家族同伴での通所利用となっている。

日中一時・短期入所は通所ご利用者を中心に定期的に利用があった。短期入所については、2～3名定期利用があった。人員不足の中での提供であったが新規契約の利用者も受け入れ、しっかりとご家庭と共有し安全に行うことが出来た。また、ショートステイに関しては、通所利用者の保護者の緊急入院というアクシデントもあり、他事業所と相談、共有し吸引器を持つ利用者の緊急受け入れを行った。他事業所と連携、引き継ぎを取る事で安全に行う事が出来た。

(4) 就労継続支援B型（AR5, 6, リネン）

2名のご利用者が、他法人や他事業所への契約の変更で退所することになったが、代わりに1名のご利用者が隔日での利用から毎日通所して頂けることになった。そういった中で引き続き、「働くこと」を支援の柱とし、ニーズに合った働く場の提供を模索し、社会生活スキルの向上、社会人としての育ちを個々に応じて支援を展開していった。特性や課題に合わせ、作業に取り組む目的を明確にし、より意欲的・前向きに取り組めるような支援に努めた。こうした作業を軸とした日々の取り組みが、社会生活面や行動面、感情面でのスキルアップ、さらに自己肯定感や仕事への誇りの獲得といった社会人としての基礎の形成につながっており、成人期の充実を意識しながら支援に努めた。

クリーニング作業では、病院、認定こども園、キャンプ場など様々な場所のリネン類の洗濯業務を請け負い、数多くのアイテムを担うことで、より多くのご利用者が仕事に携わることができるようにした。結果、生産性が向上するだけでなく、ご利用者個々に支払う工賃の支払額も向上し、ご利用者の仕事に対する満足度も向上した。その中で、引き続き、納品時にはご利用者に同行して頂き、社会参加の機会を持ってもらうだけでなくその中でいかに社会から必要とされているか、喜ばれているかを実感して頂き、作業への姿勢にも変化が見られている。引き続き、品質の高さや柔軟な対応については一定以上の評価を頂いており、新規受注に繋がっているためこのまま維持・向上していきたい。

下請け作業を中心とした軽作業も、新規受注先を開拓することができ仕事が途切れることがないようにしていった。引き続きその時々で条件に合致したものを積極的に受注していき工賃の向上だけでなく、各ご利用者のスキルアップに繋げていき継続してできるようにしていきたい。カフェBeでの作業も継続して行っており、地域の人たちと交流もしながら仕事に励んで頂いている。また、施設外就労については、1箇所、先方の都合で契約破棄となったが、残り2箇所については引き続き業務委託契約を結ぶことができおり、それぞれご利用者個々の強みを活かしながら作業に励んで頂いている。

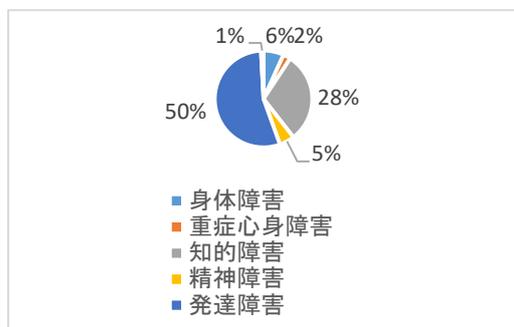
引き続き、ご利用者1人あたりの工賃が維持・向上できるためにも、クリーニング事業・軽作業の新規受注にも繋がられるように、日々の仕事を研鑽していく。

10. あんだんて

(1) 委託事業について

①高槻市知的障害者生活支援事業および島本町知的障害者生活支援事業

相談者 障害種別



方法	訪問	来所	同行	電話 ファックス	メール	個別支援 会議	関係 機関	他	総数
回数	288	317	108	2642	593	65	1676	9	5693

- ・令和1年度の新規相談数は65件（前49件）。このうち、サービス等利用計画作成の依頼相談が10件（前年3件）新規契約は受け付けていないため他事業所へご案内する。その際に聞き取った課題は「計画相談の必要性」ではなく、ご家族が支援の方法に困られていたり将来への漠然とした不安だったりしていることも少なくなかった。新規の相談の内、2回～定期の継続支援へとつながったのは12件（前年5件）。
- ・委託相談の中で3分の2がサービスの利用や計画作成に繋がらないケースで、うち半数が発達障害（手帳有無を問わず）に関連するケースを占めている。
- ・発達障害のある方の支援のニーズの多くは、障害理解が中心で、月1回程度の定期面談を実施しているケースが多く、サービスの広がりなどが乏しい。

②障害支援区分認定調査委託

- ・障害程度区分認定調査実施数 50件（前年89件）次年度は実施予定なし

③サービス等利用計画作成

- ・サービス等利用計画（以下計画相談）は年度末時点での契約総数 196件（契約終了は2件 終了理由は介護保険への移行, 転出等）

④その他

i) 関係機関との連携強化・発信

- ・高槻市相談支援事業所連絡会（かえるの会）事務局
- ・自立支援協議会ケアマネ連絡会、相談支援チーム（加算勉強会の実施）参加
- ・高槻支援学校などで実施されている福祉相談会への出席
- ・就労・生活支援センターとの共有ケースを協議する会議を実施

ii) 当事者の余暇支援活動

- ・「エンジョイサークル」
- 高槻市障害者就業・生活支援センターと毎月1回の利用者の食事会実施

iii) 家族支援

- ・「成年後見制度」

セミナー『司法書士から聞いてみよう成年後見制度』

講師：司法書士 日衛嶋 一陽 氏

実施日時：令和2年1月25日土曜

1 1. 地域医療支援部

(1) すぎのこ訪問看護ステーション

- ・平成31年4月1日にすぎのこ訪問看護ステーションを開設した。
- ・前例のない発達障がい特化した精神科訪問看護ステーションである
- ・多くの職員が訪問未経験であったが、医療機関や相談支援機関からの紹介や口コミにより利用登録者は100名に達した。
- ・初期は収支赤字幅が大きかったが、利用者確保と運営面の安定により、後半は収支面での改善が見られた。

(2) 医療連携推進室

- ・北摂杉の子会の新しい医療体制について検討した。
- ・現状の医療体制について、各事業所にアンケート調査を実施した。
- ・医療的ケア勉強会を7月19日に開催した。訪問看護について取り上げた。
- ・ふれいすBeの医療的ケアガイドラインの見直しの検討をした。
- ・すぎのこ訪問看護ステーションが地域生活支援拠点の役割を一部担う厚生労働省のモデル事業案を作成した。
- ・医療職会議の在り方について検討した。
- ・利用者入院時の付き添い体制について、アンケート調査を実施し検討した。
- ・訪問看護の施設訪問についてアンケート調査を実施し。検討した。
- ・レジデンスなさはらの喉詰り事故についての検討をした。
- ・令和2年度法人研修の午後の部の検討をした。

1 2. アクトおおさか

①発達障がい児（者）及びその家族等に対する相談支援と情報提供（家族等に対する家庭等での発達支援に関する相談支援と情報提供含む）

i) 実施内容

発達障がい児（者）またはそのご家族等からの相談に対する助言および情報提供。主訴に応じて、インテーク面接、相談等を実施し、指導助言ならびに情報提供を行った。必要な場合は、医療機関、他の診断評価機関との連携により医学的・心理的な診断・評価を行うよう紹介した。

実施回数

個別支援 実支援人員：1,054人 延支援件数：1,937件

個別支援のための調整会議 延実施回数：4回 延参加機関数：8機関

②発達障がい者及びその家族等に対する、就労に関して必要な相談等による支援

i) 実施内容

- a. 発達障がい者またはそのご家族等からの、就労に関する相談に対しての助言および情報提供。
- b. 主訴に応じて個別の就労支援、ご家族・事業所へのサポート等の一連の支援を、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、公共職業安定所等との連携により実施した。

実施回数

個別支援 実支援人員：241人 延支援件数：894件

個別支援のための調整会議 延実施回数：10回 延参加機関数：13機関

③機関コンサルテーション

i) 実施内容

相談支援事業所、地域活動支援センター、自立訓練・就労移行支援事業所、就労継続支援事業所、生活介護事業所等に対し、発達障がいの特性に合わせた支援方法等についての助言や情報提供を行った。

実施回数

相談支援に関する機関コンサルテーション：374件

就労支援に関する機関コンサルテーション：8件

④発達障がい者地域支援マネージャー事業

i) 実施内容

- a. 発達障がい児者がライフステージを通じて、身近な地域において安心して暮らすことができるよう、発達障がい者地域支援マネージャーが地域自立支援協議会等を通じて、地域支援体制の機能強化を支援するため、以下の内容を実施した。

地域支援体制の整備に向けた支援

対応困難事例に対する課題の共有と助言

地域自立支援協議会との協働

オーダーメイド研修

活用市町村：東大阪市、吹田市、茨木市、八尾市、池田市、摂津市、能勢町（7市町村）

訪問回数：延べ41回 参加機関数：延べ343機関 参加人数：延べ627名

⑤関係施設及び関係機関等に対する普及啓発及び研修

i) 実施内容

- a. 医療・保健・福祉・教育・労働等の関係機関の職員等に対して、発達障がいの理解と支援のための研修会を実施した。

実施回数：計30回 延参加者数：1,110人

⑥連絡協議会及び調整会議の開催

i) 実施内容

- a. 関係機関等との連携のための発達障がい者支援センター連絡協議会の開催およ

びその他の関係機関との連絡調整会議に参画した。

実施回数

発達障がい者支援センター連絡協議会

延実施回数：2回 延参加機関数：30機関

関係機関との調整会議

延実施回数 17回 延参加機関数 224機関

⑦発達障がい児者支援マップの更新

i) 実施内容

平成26年度に整備した発達障がい児者に対する支援機関の情報を集約した発達障がい児者支援マップの更新を実施した。

⑧グループミーティング～アクトおおさか体験教室～

i) 実施内容

第1回

日時：R元年7月22日(月)14:00～16:00 場所：アクトおおさか

テーマ：おやつ作り体験 内容：自己紹介、おやつ作り

参加者：1名

第2回

日時：R元年9月30日(月)14:00～16:00 場所：アクトおおさか

テーマ：クラフト作り 参加者：0名

第3回

日時：R元年11月18日(月)14:00～16:00 場所：アクトおおさか、大阪城公園

テーマ：大阪城を散策 参加者：0名

延べ参加者：1名

⑨府民および支援者対象公開講座

i) 府民むけ講座

日時：R元年8月29日(木)14:00～16:30

場所：大阪産業創造館 会議室E

第一部

内容：「家族支援の再考-支援が支援であるために」(講義)

講師：鳴門教育大学大学院学校教育研究科 人間教育専攻

心理臨床コース臨床心理学領域准教授 小倉 正義 氏

第二部

内容：「ご本人が望む生活のために大切にしていること

～ペアレント・メンター活動を通して～」(パネルディスカッション)

報告者：一般社団法人 大阪自閉スペクトラム症協会 福田 啓子 氏

大阪LD親の会「おたふく会」 竹澤 澄子 氏

自閉症の人のバリアフリーを考える親の会 はぐくみ

古川 直子 氏

小倉 正義 氏

参加者：87名

ii) 支援者向け講座

日時：R元年11月27日(水) 14:00～16:15

場所：大阪市立住吉区民センター小ホール

第一部

内容：「Self-Help-Group と大人の発達障害の現状」

講師：NPO 法人 DDAC（発達障害をもつ大人の会）代表 広野 ゆい氏

第二部

内容：「令和元年度厚生労働省発達障害者支援施策 ピアサポート推進事業
について」

講師：厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課障害児・発達
障害者支援室発達障害対策専門官 加藤 永歳氏

第三部

内容：「ピアサポートの視点からこれからの支援を考える（パネルディスカ
ッション）」

登壇者：広野 ゆい氏

加藤 永歳氏

大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか副センター

長 柳屋 美香

参加者：160名

⑩発達障がい者の地域支援を考える会

第1回

日時：R元年8月7日(水) 14:00～16:00 会場：ドーンセンターセミナー室1

内容：「発達障がいと二次障がい・二次的な問題」講義

講師：三国丘病院 河口 剛 院長先生

参加機関：24 機関 (39名)

第2回

日時：R元年10月9日(水) 14:00～16:00 会場：ドーンセンターセミナー室2

内容：「ご本人のお話～AD/HD だけど事務員をやってみたら…こうなった～」講演

発表者：当センター利用者 (20代女性)

参加機関数：20 機関 (39名)

第3回

日時：R元年12月11日(水) 14:00～16:00 会場：ドーンセンターセミナー室1

内容：事例検討・グループワーク

事例発表者：地域活動支援センター 菜の花(茨木市) 和布浦 望 氏

参加機関数：12 機関 (15名)

第4回

日時：R2年1月15日（水）14:00～16:00

内容：事例検討・グループワーク

事例発表者：大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか 主任 岡あゆみ

参加機関数：14機関（16名）

合計：延べ70機関（109名）

⑪大阪府発達障がい者連絡協議会

発達障がい児者の支援に関わる乳幼児期から成人期までの支援機関と行政機関、および当事者会と親の会。

- ・大阪LD親の会「おたふく会」
- ・一般社団法人大阪自閉スペクトラム症協会
- ・NPO法人DDAC 発達障害をもつ大人の会
- ・大阪府発達障がい児療育拠点6か所（青空（そら）/will/Link/PAL/Sun/Wave）
- ・大阪障害者職業センター
- ・大阪府就業促進課（OSAKA しごとフィールド）
- ・大阪府若者サポートステーション
- ・大阪府こころの健康総合センター
- ・大阪府障がい者自立相談支援センター
- ・大阪府東大阪子ども家庭センター
- ・大阪府教育庁教育総務企画課企画調整グループ
- ・大阪府福祉部障がい福祉室地域生活支援課発達障がい児者支援グループ

第1回

日時：R元年8月5日（月） 14:00～16:00

会場：谷四ばんらいビル4階A会議室

内容：アクトおおさか事業説明

話題提供大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか主任 荻谷 沙也香

内容：各機関における発達障がい児者支援の取組みと課題についての情報共有と情報交換

参加機関数：17機関（17名）

第2回

日時：R2年2月3日（月）14:00～16:00

会場：谷四ばんらいビル4階A会議室

内容：大阪府における発達障がい児者に関する取組みの進捗状況の説明

話題提供：発達障がい児者支援グループ 総括主査 平井 啓一氏

内容：所属機関の発達障がい児者支援におけるそれぞれの関係機関との連携の現状と課題についての情報共有と情報交換

参加機関数：13機関（13名）

⑫ペアレント・トレーニング インストラクター情報交換会

日時：R元年1月28日(火)14:30～16:30 会場：ドーンセンター大会議室2

内容：情報提供『ペアレント・トレーニング実践報告』

報告者：和泉市こども未来室ふたば幼児教室 園長 椎葉 寛子氏

情報交換・意見交換・アドバイザーSV

アドバイザー：関西福祉大学大学院 看護学研究科 教授 古川 恵美氏

社福)北摂杉の子会 児童発達支援部スーパーバイザー兼自閉症

療育センターLink センター長 谷岡 とし子氏

参加市町村：8市町村(9名)

⑬ペアレントサポート事業(ペアレント・メンター事業)に係る業務

i) ベーシック研修

1日目

日時：R元年9月10日(火)13:00～16:30 会場：ドーンセンター大会議室3

内容：オリエンテーション、発達障がいの基礎講座、発達障がいの家族への支援

2日目

日時：R元年9月24日(火)10:00～16:30 会場：ドーンセンター大会議室3

内容：地域資源とリソースブック、話を聴くことの留意点、ロールプレイ、まとめと修了証書の授与

参加者：20名(1日目、2日目ともに)

ii) スキルアップ研修

日時：R2年2月1日(土)13:30～16:30 会場：ドーンセンター大会議室2

内容：講義「メンター活動をより安心して行うために」

ペアワーク「自分のリソース“強み”を知る」

グループワーク「メンター活動をより安心して行うために」

報告/まとめ

参加者：8名

講師：鳴門教育大学大学院学校教育研究科人間教育専攻臨床心理コース臨床心理学領域

准教授 小倉 正義 氏

大阪大学キャンパスライフ健康支援センター 准教授 望月 直人 氏

iii) メンター交流会

日時：R2年2月1日(土) 10:30～12:00 会場ドーンセンター大会議室2

内容：今年度メンター活動報告、事業を活用した市町村等より報告

(四條畷市立児童発達支援センター・発達障害支援センターPAL)

情報交換会

参加者：6名

iv) 大阪府大阪府ペアレント・メンター事業運営委員会の実施

1回目

日時：R元年7月1日(月)14:00～16:00 会場：大阪府庁別館6階

議題：H30 年度事業報告について

R 元年度事業進捗状況について

取消登録届（案）について

R 元年度大阪府ペアレント・メンター登録者について

大阪府ペアレント・メンター事業パンフレット（案）について

その他検討事項

2 回目

日時：R2 年 2 月 27 日（木）14:00～16:00 会場：大阪府庁別館 6 階

議題：R 元年度事業進捗状況について

R 元年度大阪府ペアレント・メンター登録状況及び意向調査について

R2 年度事業内容

その他報告検討事項

v) ペアレント・メンターの派遣について

実施件数：25 件（うち 2 件は新型コロナウイルス感染拡大のため中止）

参加数：延べ 1066 名

13. ジョブサイトよど・ジェイ・ブランチよど

(1) 生活介護事業

今年度各フロアそれぞれ下記の内容の「選択余暇アンケート」によるニーズに基づいて活動取り組みを実施した。※エアロビクス（月 2 回）・サッカープログラム（年 6 回程度）は、事業所全体で参加者を募り、合同で実施。その他、フロアごとに個々のニーズに応じた余暇活動も実施した。

①各フロア活動プログラム

i) 5 階

	月	火	水	木	金
午前	ドライブ	散歩	散歩	散歩	散歩
午後	福祉会館の水やり	エアロビクス	福祉会館の水やり	創作活動 カラオケ	福祉会館の水やり

※エアロビクスは月に 1 回参加。カラオケ、創作活動は月に 1 回実施。また法人全体で実施されたサッカープログラムへも、希望者のみ参加。

ii) 4 階

・平日の取り組み

	月	火	水	木	金
第 1 週		ウォーキング	創作活動	カラオケ	DVD 鑑賞
第 2 週	お買い物	エアロビクス			
第 3 週				レクリエーション	
第 4 週					

・土曜開所日の取り組み

	外食	調理	セレクトランチ	よどまつり
5月			25日	
6月	8日	22日		
7月			20日	
8月	17日	31日		
9月			14日	28日
10月	26日			
11月	30日		9日	
12月		7日		
1月			11日	
2月	1日			
3月		28日	14日	

今年度3階ではアンケートによるニーズに基づいて各種取り組みを実施した。エアロビクスは事業所全体で参加者を募り、合同で実施した。また、個々のニーズに応じてジュースの買物や工賃日にコンビニに行く活動も取り入れた。加えて、今年度も週に1回、2～4種類の飲み物の中から一つ選んで飲む「ドリンクタイム」の活動を実施し、自己決定の機会を設けた。

iii) 3階

・平日の取り組み

	月	火	水	木	金
第1週	ジム (月1回)		プレジャー ブック (月2回)	創作活動	ドリンクタイム
第2週				ドライブ	ドリンクタイム
第3週		エアロビクス		創作活動	ドリンクタイム
第4週		映画鑑賞		映画鑑賞	ドリンクタイム

・土曜開所日の取り組み

	外食	おでかけ	調理	セレクトランチ	よどまつり
5月	25日				
6月		8日	22日		
7月				22日	
8月	17日			31日	
9月		14日			28日
10月			26日		
11月	9日			30日	
12月			7日		
1月	11日				
2月				1日	
3月		28日	14日		

土曜開所日には、おでかけや外食等、地域の社会資源を活用した。

iv) 2階

・平日の取り組み

	月	火	水	木	金
第1週			創作活動		
第2週				DVD鑑賞	
第3週		エアロビクス	ウォーキング		
第4週			レクリエーション		

・土曜開所日の取り組み

	外食	調理	セレクトランチ	よどまつり
5月	25日			
6月		22日	8日	
7月	20日			
8月	31日		17日	
9月		14日		28日
10月			26日	
11月	9日	30日		
12月	7日			
1月	11日			
2月			1日	
3月		14日	28日	

v) エアロビクス

講師は松代和子氏に依頼し、音楽に合わせて楽しく体を動かして体力維持・健康増進・ストレス解消を目的として実施。スタジオは年間で予約。2グループに分け月2回第1、第3火曜日午後の約2時間実施した。楽しんでおられるご利用者の姿が多くみられた。(会場：dance studio cool)

vi) サッカー

事業所合同での練習に参加し、ジョブサイトよど5階から3名、ジェイ・ブランチよどから3名の計6名の利用者が参加した。ドリブルやシュートの個別練習や練習試合では、生き活きとした利用者の姿や表情が見られた。

大会試合はガンバ大阪サッカースクールの協力のもと開催。ジョブサイトよど5階から3名、ジェイ・ブランチよどから3名の計6名の利用者が参加し、他事業所のご利用者・職員もいるチームで、サッカーを通しての交流ができた。

また今回は会場をレンタルしているノアフットサルステージの協力のもと、シューズのレンタルも実施された。

②コロッケ&つくね作業

よどのコロッケ店舗は、地域との繋がり、ご利用者の社会参加において有効な手段であったが、立地面、費用面、職員体制、職員の精神面等様々な面を考慮の上、閉

店することとなった。“コロッセ事業は、ジョブサイトよどの柱では無く、生産活動のひとつ”と考え、規模は縮小になるが、コロッセ事業の運営を安定・維持していきたい考えがある。店舗を閉店したことで、「仕事」の部分の社会参加が減少するが、“生活介護事業のガイドライン”を参考に、「余暇」「運動」面の充実を図る考え。つくねは、安定した工賃収入にはなっているが、納品時刻の制約がある為、つくね製造に携われるご利用者が限られている事が課題という点は変わらない。

③下請け作業

天祥（おみくじ折り、お守りの組み立て）、もりえん（伊右衛門茶の差し込み・封入、コーヒー紅茶セットの組み立て）、パタゴニア（ビニール袋のテープはがし）、トレーダー愛（押し花切り）、k's プランニング（ワイヤークリップのねじゆるめ）の5社より受注作業を受けている。昨年度に引き続いて、数社からの受注作業を確保しつつ、受注の仕事は、企業の繁忙期等に左右され安定性に欠けることもしばしばある。

④2階

6月にご利用者が2Fに移動し、6名となった。移動に伴い、新たなご利用者のエリア整備を行なった。余暇では、下半期より「ドリンクタイム」を導入し、ご利用者が来所するモチベーションの上昇、選択の機会を持つことでの意思決定支援を図った。2月頃より、新型コロナウイルスの影響で休まれるご利用者が多くみられた。

⑤3階

今年度は、11月に新規ご利用者を1名受け入れ、合計13名となった。新規ご利用者の受け入れにあたって、フロアの再構造化を行い、ご利用者がより過ごしやすい環境を整備した。

今年度も毎週『ドリンクタイム』という活動を取り入れ、ご利用者1人1人に2～4つの選択肢から1つ好きな飲み物を選んでいただく機会を設け、ご本人の意思決定の場面を意識した。また、要求カードを使用してご本人の意思を表出できるような取り組みを行った。加えて、フロアでの受注作業において、ジグの作成や提供方法の工夫をすることによって、多くのご利用者に受注作業にかかわっていただけるよう意識した。それにより、利用開始当初は自立課題のみに取り組みされていた新規ご利用者が、お茶入れや材料数えに取り組めるようになった。

3月、同フロアのご利用者が肺炎と診断されたこともあり、3月末以降来所ご利用者は激減した。

⑥4階

今年度、ご利用者の人数変更はなく厨房側3名フロア側3名の6名であった。下半期初めに職員の交代、年度末に担当者の退職・交代があり、環境に大きな変化があった。よど全体組織図や4階職員一覧表などの提示物を使って、職員の動きを視覚的にお知らせした。

日中の活動は、選択できる形式で余暇プログラムを実施したり、やりたい仕事の聞き取りをしたり、意思決定支援にも取り組んだ。昨年度に引き続き、堀内SVのご助

言を受けながら、空間の構造化、予期不安軽減を目的とした見通し支援、コミュニケーション（特に表出）支援への取り組みを行ってきた。職員は今後も引き続きご利用者理解に努め、特性に合わせた視覚的な提示やスケジュールの構成、コミュニケーションカードの活用等を行い、ご利用者が安心して過ごせる環境づくりを目指していく。

来年度はグループホームに入居されるご利用者がいるので、職員間だけでなくご家庭との連携をより深めたいと考えている。

⑦5 階

今年度は新規ご利用者の受け入れはなかった。実習の実施はしていたが、フロアのスペースや体制の関係で受け入れが困難であった。3月末より新型コロナウイルスの影響で来所自粛になった後も、自宅で過ごすことが難しいご利用者 6 名ほどは来所されている。

(2) 就労継続支援B型

①ジェイ・ランチよど

ジェイ・ランチよどでは、退所された方が 2 名おられ、新規ご利用者 2 名が利用することとなり、2020 年 3 月末現在で 23 名の方が利用している。

日中活動は、受注作業と施設外就労を行っており、ご利用者のニーズや強みを生かすことができるよう働く場所や受注作業の割り振りをスタッフで検討し実施した。

平均工賃が 1 万円に達成するよう受注作業の内容の見直しを行い、現在は(株)プロトワーク、奥井(株)、(株)ターナー色彩から安定して作業をいただいている。奥井(株)は、大量の受注作業をやり遂げたことにより、途切れることなくお仕事の依頼をいただくようになった。さまざまな作業を受けることにより、ご利用者のスキルアップやどのような作業が得意なのかアセスメントする機会が増えた。また、ご利用者が新しい作業ができたという経験を通して自信にもつながっている。現在の課題は、複数の会社から作業を受けた時はご利用者だけで全ての作業を仕上げるのは難しいため、仕事の提供の仕方を検討する必要がある。

施設外就労においては、(株)フルカウントの業務整理のため 2019 年末に作業終了となった。また、2019 年 4 月から十三福社会館のメンテナンスがスタートしたが、メンテナンスの時間中に地域の方が数名利用するようになり、そこでトラブルが発生したため解決するまでは福社会館のメンテナンスを一旦やめることになった。コロッケ店舗での販売を 7 月から開始した。対象のご利用者は 2 名おられ、意欲的に取り組んでおられたが、2020 年 3 月 13 日にコロッケ店舗が閉店となり、販売と清掃作業は終了となった。新しい施設外就労先として、2019 年 8 月より焼き肉屋松おでの食器洗いと清掃作業を週 3 回実施することとなった。その他の施設外就労先は、かまどや食堂、シュレッダー作業、コロッケ外販、整骨院の清掃作業を継続している。2020 年度も引き続き平均工賃が 1 万円になるよう取り組んでいきたい。

余暇プログラムは、土曜開所日に設定している。内容としては、外食・図書館・カラオケ・ドライブ・ゲーム大会を実施。ご利用者に余暇プログラムの参加の有無を

確認した上で利用していただいている。カラオケやドライブは、人気が高く土曜開所日を利用しない方も参加しておられる。昨年度より、受注作業の量が増えたことにより土曜開所日に余暇プログラムを実施する機会が減ったが、利用する人数の変動はなかった。

ジェイ・ブランチよどでは、受注作業・施設外就労・余暇活動でのさまざまな機会を提供し、ご利用者のニーズやそれぞれが抱えている課題をスタッフ間で共有することで、ご利用者一人ひとりに合わせた支援を実施できるように努めてきた。これからも、個別支援を大切にし、ご利用者一人ひとりがやりがいを感じて仕事ができる環境を提供すること、またご利用者自身がビジョンを描けるよう勉強会や面談を定期的実施し、ご自身の人生を考える時間を提供していきたいと考えている。

②施設外就労

i) 津田紙工

ご利用者の日々の頑張りを見ていた津田紙工の奥様より「頑張っているご人を表彰したい」と提案して下さり、2019年の4月から津田紙工での表彰式がスタートした。「最多賞」「ステップアップ賞」「津田特別賞」の3つの賞を設定3カ月に1回担当職員と津田紙工の従業員の方と相談して表彰者を決定している。表彰者には表彰状と景品を渡している。受賞することで「次も狙おうと思う。」や「誉められて嬉しい。」と、作業に対するモチベーション、スキルがアップした。

ii) POST かまどや

洗い場と拭き作業のペアで平成28年7月から取り組んでいる。

今回「かまどや」から「デイリーフーズ」へ業者が変更になることが決まり、継続できるかどうか分からない状況であったが、かまどやのスタッフが「ぜひ来てほしい」「洗い場をしてもらったら助かる」とデイリーフーズの方に言っていたこともあり、来年度からも継続できることとなった。洗い場のシンクの片付けや噴き上げるスピードなど回数を重ねるごとにスキルアップできている。

iii) 松お

十三西口商店街内にある焼肉屋「松お」の洗い物/店舗清掃を、8月から開始した。当初は水曜日のみの作業だったが、12月より木曜日/金曜日も作業することとなった。利用者1~2名と職員1名で1時間作業をして970円の賃金を頂いている。ただし、前日のお客さんの要り次第で作業が中止になる場合もある。普段から家で洗い物や掃除の経験がある利用者を中心に作業していただいているので、作業自体はスムーズに取り組めている。歩いて15分以内に行ける場所柄も丁度良い。

iv) フルカウント

平成29年度より介護施設や障害者の入所施設に訪問販売している(株)フルカウントより仕事を頂き、大阪市大正区にある北斗クリニックの訪問販売を週1回/ご利用者二名と職員一名で行っていた。しかし(株)フルカウントの業務整理等の都合により、2019年末までで作業終了となった。

③ビルメンテナンス

i) 河端ビル、堀内ビル

河端ビル（毎週月曜日）と堀内ビル（月2回：第2、第4月曜日）のメンテナンス作業（掃除）を継続して実施した。河端ビルはかねてからオーナーより「作業精度を上げてほしい」という要望があり、今期、作業内容や職業指導の方法について見直し、大幅な変更を行った。変更点は

- ・廊下の掃き掃除を午後からでなく、午前中に済ませる
- ・水を使って汚れを徹底的に洗い流す
- ・廊下やエントランスの床掃除はデッキブラシと床用洗剤を使用する
- ・午後は途中で休憩を入れる
- ・利用者帰宅後、スタッフが全館を確認しながら作業の手直しをする
- ・雨天でも、できる限り外も作業する。
- ・クリニック前は隔週でなく、毎回掃除する

の以上7点。また、堀内ビルも「床用洗剤を使用する」「専用の窓ふき用ワイパーを使用する」という変更を行った。

以上の変更については目印マーカー、手順書、モデリング等を多用して利用者へ実施していただき、比較的スムーズに新しい作業手順に馴染んでいただくことができた。

ii) 浜崎鍼灸院整骨院

浜崎鍼灸整骨院のメンテナンス作業（毎週火曜日）を継続して実施した。作業内容は変わらず実施できていた。ただ、その日の状態によっては作業が困難になる利用者がおられ、他の利用者に急遽作業を依頼することが多かった。代わりに行く利用者はこの作業をするモチベーションが高いため、作業者が代わっても全体的に作業をスムーズに済ませることができた。

iii) 河端クリニックシュレッダー

河端クリニックより保管期限5年を経過したカルテ、検査結果などの書類の細断処理作業を継続して実施した。産科の個人情報処理作業であるため、女性利用者三名のうち二名ずつのローテーションで作業していただいている。今期はクリニックの都合で過去数年分のカルテをまとめて処分することになったため、カルテが無くて作業が中止になることがなかった。ただ、週1回、1時間の作業なので逆になかなかカルテを処分しきれず、溜まっていつてしまっていることが課題である。また、カルテの形式が代わってホッチキスを外す作業が少なくなったので、今年に入ってから作業者を2名から1名に減らすことになった。

(3) よどのコロッケ事業

①コロッケ事業の詳細報告

- i) 関わる利用者数（総勢約27名が、コロッケの何らかの仕事に関わった）
- a. 生産部門（ジョブサイトよど4階コロッケフロア）
10名（毎日3、4人がローテーションで生産している。）
 - b. 販売部門（店舗、外販）

店舗は午前1名、午後5名（月・火・水・木・金）
 外販は12名の中から交代で1～2名ずつ参加している。
 予約販売配達には12名の中から2～3名ずつ参加している。

- c. 店舗へのコロッケ配達、冷凍バッグ引取り
 名（全てのフロアの比較的障害の重い方がメイン）
- d. コロッケ配達（予約販売配達4地区）
 ・淀川地区 ・豊中地区 ・平野区地区 ・高槻地区
 12名の中から交代で当番（重度の方がメイン）
- e. 店舗清掃（よどのコロッケ店舗にて）
 3名の方がローテーションで実施。

ii) 販売形態

- a. 店舗
- b. 卸販売
- c. 福祉施設予約販売
- d. 外部販売
- e. 内部販売

iii) 販売先

- a. 法人内事業所（萩の杜、ジョブサイトひむろ、ふれいす Be）、ジョブサイトよどの給食
- b. 福祉教育関係（ハーブクラブ、デリカテッセンイーハトーヴ、豊中のぞみ会、第2みらい、工房モコ、加島希望の家、愛光保育園、エルムおおさか、その他）
- c. 外販先
 きらきら祭り、十三市、十三小学校、十三中学校、研修センター、豊中支援学校、十三小学校夏祭り、つむぎ祭り、信金スタジアム、十三連合盆踊り、アーバンマルシェ、田辺三菱製薬納涼祭、カフェBeコンサート、大阪保健医療大学、長居障がい者スポーツセンター、大阪市役所、大阪府庁、その他

d. イベント

月	イベント名
4月	アオクスル祭り、マルシェ、十三市、研修センター、十三中学校、大阪府庁
5月	マルシェ、大阪府庁、研修センター、御堂筋バザー、ヒルトン大阪、十三中学校、きらきら祭り
6月	十三市、大阪府庁、研修センター、十三中学校、博愛社、淀川区民センター、つむぎまつり
7月	信金スタジアム、十三市、大阪府庁、研修センター、河川敷フェスティバル（プレ）、十三小学校盆踊り

8月	マルシェ、長居障がい者スポーツセンター、大阪府庁、十三小学校、十三連合盆踊り
9月	十三市、研修センター、大阪府庁、十三中学校、大阪市役所、カフェBeコンサート、大阪市役所
10月	長居障がい者スポーツセンター、十三中学校、研修センター、大阪府庁、淀川アーバンマルシェ
11月	長居障がい者スポーツセンター、大阪保健医療大学、十三中学校、大阪府庁、愛光保育園バザー
12月	大阪府庁、十三市、十三中学校
1月	大阪府庁、十三市、十三中学校
2月	大阪府庁、十三市、十三中学校
3月	大阪府庁、十三市、十三中学校

iv) 利用者への工賃額： 543,350円

v) 年間売り上げ： 2,453,612円

(4) 利用者保健行事

①健康診断

前期 令和元年7月17日(水) 13:30～

後期 令和2年2月19日(水) 13:30～

(内容) 内科診察、血圧測定、身体測定、血液検査

※血液検査は前期のみの実施

「かわばたレディースクリニック」へ出向き実施した。

②レントゲン撮影

令和元年9月18日(水) 13:00～

(内容) 胸部レントゲン撮影

「医療法人桜峰会香川クリニック」に依頼し、ジョブサイトよど玄関前で撮影。

③インフルエンザ予防接種

令和元年11月20日(水)～

「河端レディースクリニック」診療時間内に、JSよど・JBよどのSt.が受診希望のご利用者に同行して随時、予防接種を受けた。

④歯科検診、歯みがき指導

前期 令和元年10月10日(木) 13:30～

後期 令和2年3月12日(木) 13:30～

(内容) 歯科検診・歯みがき指導

いずみ歯科医院から来所いただき、アーリーアーク303号室で希望者のみ実施。

(5) 避難訓練実施日

よど、店舗

- ・8月8日(木) 火災想定
- ・11月18日(月) 地震想定
- ・1月15日(水) 火災想定
- ・1月30日(木) 5階火災想定

(6) 実習受け入れ状況

期間	所属	備考
5/23(木)	関西学院大学	関西学院大学社会福祉士実習の 事前1日実習
7/29(月)～9/5(木)、 9/28(土)	関西学院大学	関西学院大学社会福祉士実習
8/26(月)、8/27(火)、 8/29(木)	追手門学院大学	インターンシップ
11/28(木)	特養平成新高園	社会福祉施設連絡会の職場体験
11/28(木)	田川福祉センター 海萌	社会福祉施設連絡会の職場体験
12/3(火)	田川福祉センター 海萌	社会福祉施設連絡会の職場体験
12/6(金)	田川福祉センター 海萌	社会福祉施設連絡会の職場体験
12/12(木)	博愛の園 清心館	社会福祉施設連絡会の職場体験
12/12(木)	希望の園	社会福祉施設連絡会の職場体験
12/19(木)	かしま障害者センター	社会福祉施設連絡会の職場体験
12/20(金)	かしま障害者センター	社会福祉施設連絡会の職場体験
12/24(火)	にいたかの里	社会福祉施設連絡会の職場体験
1/8(水)	にいたかの里	社会福祉施設連絡会の職場体験
1/22(水)	淀川区社会福祉協議会	社会福祉施設連絡会の職場体験
1/28(火)	京都女子大学	インターンシップ
3/4(水)	だんけのそのポレポレ	社会福祉施設連絡会の職場体験
3/6(金)	龍谷大学	インターンシップ
3/6(金)	同志社大学	インターンシップ
3/18(水)	だんけのそのポレポレ	社会福祉施設連絡会の職場体験

(7) 職員研修

○内部研修

日付	研修内容	講師
4/10(水)	全体会 (事業計画について)	田端
7/10(水)	【講義】触法障がい者の出所後の自立支援について	半野田氏
8/21(水)	①通報・消防訓練 ②救命救急	淀川消防署
9/11(水)	救命救急講習	消防署
12/11(水)	研修内部報告会①PECS 研修	①鎌田・横野

○内部 SV 研修 (中山さん SV)

日付	時間	研修内容	対象者
4/17(水)	13:30-15:30	4F フロア SV	4F s t
5/8(水)	14:00 - 15:30 頃	6/12のご利用者との面会に向けた打ち 合わせ	5F

	15:45-17:15	【講義】 ・自閉症の特性について ・特性を踏まえた支援（構造化）	全体
6/12（水）	10:30-11:30 14:00-15:00 頃	（5FフロアSV） ご利用者面会 11:00～ ご利用者の見立て等の共有	5F
	15:45-17:15	【講義】自閉症の方とのコミュニケーション	全体
8/16（金）	13:00-15:00	ブランチSV	ブランチ
9/4（水）	13:00-15:00	2F・3FフロアSV	2F・3F
10/9（水）	15:45-17:30	【講義】・意思決定支援	全体
11/13（水）	15:45-17:30	【講義】・強度行動障害の支援事例	全体
12/4（水）	14:00-16:00	5F ケース相談	5F
1/8（水）	15:45-17:30	事例発表①（ブランチから2ケース）	全体
2/19（水）	13:00-15:00	フロアSV（3F・5F）	全体
3/11（水）	15:45-17:30	事例発表②（2F・3F）	全体

○内部SV研修（堀内さんSV）

日付	午前	SV内容	午後	SV内容
4/1（月）	ブランチ	発達検査	ブランチ	発達検査
5/7（火）	3F	ご利用者の現状について	—	—
5/10（金）	5F	面会	—	—
6/3（月）	4F	ご利用者の現状について	2F	2F ご利用者ケース相談
7/1（月）	ブランチ	ご利用者の現状について	ブランチ	ご家族へフィードバック
8/5（月）	2F	2F ご利用者ケース相談	3F	3F ご利用者ケース相談
9/2（月）	4F	ご利用者の現状について	5F	5F ご利用者ケース相談
10/7（月）	ブランチ	ご利用者の現状について	ブランチ	ご利用者の現状について
11/1（金）	3F	3Fフロアのエリア配置について、現状について	—	—
11/15（金）	2F	2F ご利用者ケース相談	—	—
12/2（月）	4F	ご自宅での取り組みへの助言	5F	5F ご利用者ケース相談
1/6（月）	ブランチ	アセスメント	ブランチ	ご利用者の面談
2/3（月）	2F	ケース相談	3F	ケース相談
3/6（金）	4F	ケース相談	—	—
3/16（月）	5F	ご利用者の現状について	—	—

○外部研修

日付	研修内容	講師（主催）	参加者
----	------	--------	-----

4/17(水)	平成 31 年度 新入職員のためのサービスマナーセミナー	増田 知乃氏	小山
4/24(水)	法人内 リーダー研修	萩の杜 勝部さん	段、米戸
4/18(木)	平成 31 年度 新人職員のためのサービスマナーセミナー	増田 知乃氏	横野
5/18 (土)	自閉症 e サービス [自閉症支援の扉]	諏訪 和明 氏	鎌田、小山、横野、黒木
5/20(月)	大阪市障害児・者施設連絡協議会総会と講演（大阪市障がい者施策の動向）	大阪市障がい福祉課課長代理 山本勝三氏	田端
5/24 (金)	社員総会、大阪府災害時の対応について、大規模災害時における福祉サービス事業所の事業継続計画について	大阪府職員、八幡隆司氏	田端
5/22(水)	法人内 リーダー研修（第 2 回）	地域生活支援部 平野さん	段、米戸
5/30(木)・31(金)	サービスマナーセミナー 初級クラス	増田 知乃氏	黒木
6/9(日)	自閉症 e サービス ベーシック[特性理解とペアレンツトーク]	京都市児童福祉センター 田中 一史氏	小山、馬渡、横野、鎌田、西岡、段
6/22 (土)	自閉症 e サービス ベーシック[評価から支援へ]	bon ワークス枚方 真船 亮氏	小山、横野、鎌田、西岡、段、河野
6/15(土)	自閉症 e サービス 初任者のための実技講習	bon ワークス枚方 大中りよ子氏 西作業所 宮川知也氏 自閉症 e サービス 辻本紗弥氏	黒木
6/14(金)、6/17(月)～20(金)	事業所間交流研修	レジデンスなさはら、もとまち、2丁目、とんだ支援員	倉窪
7/20(土)	自閉症 e サービス ベーシック[構造化のアイデア]	自閉症 e サービス 松本 理恵氏	小山、馬渡、横野、鎌田、西岡、段、河野
7/21 (日)	全日本自閉症支援者協会総会		田端
7/22 ～ 7/23	全国知的障害関係施設長等会議		田端
7/23(火)、24(水)	第 42 回てんかん基礎講座	柳原 恵子氏 他 5 名	小山
8 月 10 日	自閉症 e サービス ベーシック「コミュニケーションについて」	加賀谷洋氏	小山、横野、鎌田、西岡、段、河野

8月24、 25日	ペクス研修 ワークショップ レベル1	アグロンちひろ氏・	横野・鎌田
6月22日	評価から支援へ		河野
7月20日	構造化のアイデア		河野
8月10日	コミュニケーション		河野
7/6 7/7	実習指導者研修	辻野誠	高木、段
8月23日	障がい者の働く場パワーアップフォーラム	藤井氏・山内氏・村上氏	高木、段
9月13日	令和元年食品表示法研修	梅澤氏・坪井氏	米戸
9月18日	日中活動、生産活動・就労支援部会(施設長会) 災害ボランティア体験を通して	石田易司氏	田端
9月25日 10月3日	令和元年度強度行動障がい支援者養成研修【基礎研修】	大阪府障害福祉室職員、勝部氏、平山氏、長富氏	横野
10月7日	職場における人間関係を考える～チームにおけるコミュニケーション～	稲松真人 氏	倉窪
10/9、 10/16	福祉職員のメンタルヘルス研修(主任・リーダー職員対象) 「より良いチームづくりとリーダーの役割」	津村薫 氏	倉窪
11月9日	自閉症eサービス基礎講座 ステップアップ		鎌田・黒木・段
11/25～ 11/26	近畿地区知的障害者福祉協会施設長会議		田端
11月29日	大阪市障害児・者施設連絡協議会第三回学習会	笹森 理絵氏	桶谷・鎌田・黒木・横野・小山
12月4日	中堅・若手交流会		桶谷・黒木・横野
9/21、 10/26、 11/16、 11/30、 12/14	自閉症eサービス やってきた！門塾	門 眞一郎氏	横野
12月7日	自閉症eサービス基礎講座 ステップアップ		桶谷・鎌田・黒木・段
12月9日 12月19日	令和元年度強度行動障がい支援者養成研修【実践研修】	村田氏、宮川氏、大橋氏、奥氏、大畑氏、加川氏、砂川康生福祉センター職員	横野

12月21日	2019年 発達講座 支援の原点と意味了解的アプローチ	鯨岡峻氏、水仙福祉社会職員、 松端克文氏	横野
1/22 (水)	日中活動、生産活動・就労支援部会(施設 長 会) 地域貢献の取り組み事例報告	あかまつ園小池氏	田端
1月29日	ジョブジョイントおおさか実践報告 会	縄岡好晴氏	田端
1/31 (金)	近畿地区知的障害者施設協会 日中活動支援部会		田端
2/6 (木)	近畿地区 GH 等職員研修会	松端克文氏他	田端・倉窪
2/3 (月)	大阪府障害児者施設連絡協議会防災 体験学習	防災センター職員	鎌田
2月9日 (日)	e サービス「施設と地域で取り組む高 齢化対策」	村岡美幸氏 佐々中雄平氏	黒木
2/13 (木)	知っていますかほじょ犬のこと	木村有希氏	山本
2/14 (金)	成年後見制度講座	竹村 哲也氏	山本

1 4. 就労支援部

(1) ジョブジョイントおおさか

・プログラムの内容、就職の実績

自立訓練、就労移行支援の利用者の方に、下記のプログラムを提供。
職業訓練に限らず、ライフスキルや余暇支援など幅広いテーマで実施。
就労支援の実績は、前年同様に十三名、高槻13名の計23名が就職。

就労準備訓練のプログラム

プログラム名	内容
オフィスワーク	PC練習、オフィス周辺業務
トライワーク	軽作業・清掃・施設外での活動等
マイタイム	①プログラム内での宿題や自分に必要なグッズの作成 ②就職活動に関わる事の準備 (プロフィール、履歴書、職務(実務)経歴書、ジョブマッチングシートの作成等)
体力アップ	就労に必要な体力をつけることを目的としたプログラム
自分を知る勉強会	発達障がい特性理解と得意・苦手なことの整理、自分でできる工夫や対処法の検討、コミュニケーションゲーム等
就活実践講座	ビジネスマナーの学習・ロールプレイ等
リラクゼーション講座	感情についての学習と自分のリラクゼーション法を見つける
ライフスキル倶楽部	社会人としての必要なスキルについて学習(グループワーク)と実践を合わせ、楽しみながら学びを深める
土曜クラブ(月1回程度)	3チーム程度に分かれて、レクリエーション活動をする(おでかけ、アート、料理、アウトドア、スポーツ等)
特別プログラム(不定期開催)	企業実習(個別)、企業見学、企業研究講座、フレゼンタイム、面接会対策セミナー、先輩のはなし、おもしろ専門講座

就労支援の実績



・JJ新聞の発行

2~3ヶ月に1回のペースで発行しているJJ新聞。

利用者の方に記事を書いていただき、写真を多く取り入れて発行。

就職したOBOG会の様子なども掲載し、ホームページでも公開中。



・働くチカラ PROJECT

株式会社エンカレッジと協働で事業運営。

発達障害やコミュニケーションが苦手な大学生への就活を支援している。

参加学生は、就活のススメ 30名、就活のハジメ 23名。

インターンシップ参加企業は、前年以上の 27社であった。

以下、ススメ、ハジメのプログラム内容である。

就活のススメ

3・4回生・院生 (短大・専門学校生の雇用も対象) 対象

就活のススメは、就職活動に向けての基礎知識を習得する、ステップバイステップとして、企業でのインターンシップを取り、「働く」ことの楽しさを体感できるプログラムです。インターンシップでの経験を基に、自分に合った社会で働くためのイメージづくりをススメしていきます。

こんな人におすすめです

- 就職活動が苦手な人
- 就職活動のイメージがわからない人
- アルバイト経験が浅い人
- 就職活動のイメージがわからない人

プログラムの特徴

- 少人数制
- 具体的に学ぶプログラム
- 自然の成長を促す
- 少人数制
- 具体的に学ぶプログラム
- 就職の不安解消

メインプログラム

1/6/15	オリエンテーション-先輩の巻
3/7/8	ビジネスマナー講座
3/14/3	面接対策講座
8/9/7	企業研究講座
9/10/28	面接対策講座
11/2/7	コミュニケーション講座

インターンシップ (オプションメニュー)

7/9/8	職業体験プログラム
8/8/3	オアシス/インターンシップ企業との決定
9-10/月	インターンシップ (企業/面接/面接/面接)
11/9/2	就職会 (3回の開催)

働きながら、仲間がいて安心人と成長をつなぐ

就活のハジメ

全年齢 対象 (大学生・院生・短大生・専門学校生)

就活のハジメは、これから就職活動に向けての基礎知識を習得する、社会人としての基本マナーやコミュニケーションのスキルを学びます。就職活動の利点や弊点を学びながら、コミュニケーションの重要性を学びながら、自分自身の強みや弱みを把握し、就職活動の準備を整えていきます。

こんな人におすすめです

- 就職活動が苦手な人
- 就職活動のイメージがわからない人
- コミュニケーションが苦手な人
- 就職活動のイメージがわからない人

プログラムの特徴

- 少人数制
- 具体的に学ぶプログラム
- 就職の不安解消

プログラム内容

第1回 ヒロキスナー講座

あいさつやお礼の仕方、挨拶の仕方など、就職活動には絶対に欠かせないコミュニケーションを学びます。メモの取り方や仕事人に求められるマナーを具体的に学びます。

第2回 コミュニケーション講座

コミュニケーションが苦手という方は少なくありません。相手の気持ちやコミュニケーションには、実はコツがあります。経験をイメージしながらコミュニケーションのポイントを学びながら学びます。

第3回 就活で先輩!

みなさんの発達を応援し、グループワークを交えながら楽しく交流します。先輩とどのように交流をしているのか、先輩で悩んだときはどうしているのかなど、先輩話を聞いてみましょう!

働きながら、仲間がいて安心人と成長をつなぐ

・はじめる Café !

障害者雇用を検討する企業と発達障害のある人が出会い、交流する機会として開催。

株式会社エンカレッジと協働で実施した。

*第1回目は、7月17日(水)。参加企業5社。発達障害のある人15名。

*第2回目は、11月6日(水)。参加企業4社。発達障害のある人15名。

・公式ホームページ

令和元年10月に、ジョブジョイントおおさかの公式ホームページを開設。

新規の利用者の方、ご家族、学生さんに向けて写真やブログ等で情報発信している。

・自分らしい働き方セミナー+就職相談会

11月より、セミナー+相談会を開催。

新規の利用者の方を集めるため、JJの取り組みと就職者の事例を講演。

無料相談会をセットにすることで、後日、事業所への見学につなげるねらいとした。

毎月1回の開催を行い、毎回3組5名程度の参加。

最後は、毎回1組は後日来所して、見学や作業体験につながっている。

(2) LaLa-chocolat TAKATSUKI

・利用者の方の作業内容

①厨房：商品の袋詰めや計量作業、型抜き、シーラー、ラベル貼り等

②施設外就労：

・特別養護老人ホーム入所者の洋服たたみ/仕分け業務

・グループホームの清掃

(浴室掃除、フロア掃除機、モップがけ、窓ふき、トイレ・玄関掃除等)

③ステップ：チラシ折り、チラシはさみ、ポスティング、ラベル貼り、封入等

・パンフレットの作成

新規の利用者の方と募集するために、パンフレットを作成。

関係機関に郵送し、事業所の見学・作業体験についても積極的に受入れた。



・レクリエーション

3つのグループに分かれて、開催。

「カップヌードルミュージアム」「咲くやこの花館」「京都水族館」に行った。

・おつかれさま会

1年を振り返って次年度につなげることを目的に、おつかれさま会を3月に開催。

安満遺跡公園のSUNDAY'S BAKE 569で食事やゲームを行なった。

・公式ショッピングサイト

LaLa-chocolatの公式ショッピングサイトをオープン。

店舗に立ち寄れない人も気軽に購入いただけるよう、サイト運営を行なった。

・繁忙期の売り上げ

バレンタインのグラフは、2/11～2/14の前年比。

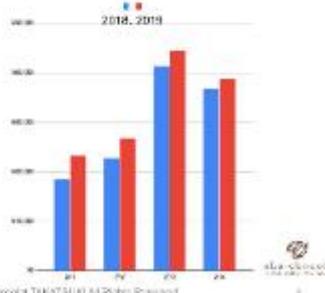
ホワイトデーも同じく、3/11～3/14までの前年比をグラフ化。

両方とも、繁忙期間の総売上は前年度以上。

期間中の総売上は、前年比の約110%となった。

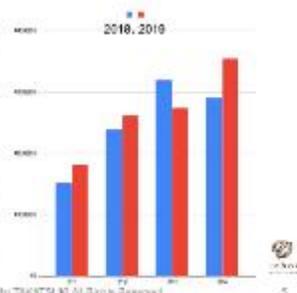
バレンタイン

4回目のバレンタイン。前年以上の売上でした。新規のお客様も多かったように思います。



ホワイトデー

新型コロナの影響はほとんどなし。男性のお客様が多くご来店くださいました。



・新しい取引先

店舗において、以下の3つが新しい取引先となった。

<大市水産(株)>

高槻阪急の地下にある高級スーパー「北野エース」の卸売業者。

北野エースの売り場(レジ前)にて、チョコレート・焼き菓子を販売中。

<リンベル(株)>

婦人画報のお取り寄せの運営会社。

婦人画報のネットショップにて、三日月マンディアンを販売中。

<西武造園(株)>

安満遺跡公園の指定管理者(安満遺跡公園パートナーズ)の代表者。

公園の事務所前の販売スペースで他の商品と一緒に陳列・販売中。

15. 児童発達支援部

【こども発達支援センターwill】

(1) 児童発達支援・放課後等デイサービス(個別専門療育)

①利用決定者内訳

市町村名	利用決定者	
	未就学児	学齢児
高槻市	15	19
茨木市	1	1
摂津市	2	2
島本町	10	0
合計	28	22

②療育の利用率

	児童発達(名)	放デイ(名)	全体(名)
契約定員(名)	28	22	50
年間延べ回数	560	440	1000
年間必要回数	上限(一人:20回)		

1日定員	上限（1日10～12名）
------	--------------

③月別・事業別の利用率表

延べ実績 (利用率)	児童発達	放デイ	全体
4月	1.00	0.95	0.98
5月	0.96	1.00	0.98
6月	0.88	0.95	0.91
7月	0.87	0.97	0.92
8月	0.88	0.87	0.87
9月	0.88	0.85	0.86
10月	0.88	0.94	0.91
11月	0.86	0.98	0.91
12月	0.86	0.91	0.88
1月	0.80	0.98	0.88
2月	0.94	0.95	0.95
3月	0.81	1.00	0.89
年間合計	10.62	11.35	10.94
月別平均	88%	95%	91%

④保護者研修

日時：月1回、全10回、2019年5月から2020年3月まで実施

会場：高槻現代劇場（2月のみ高槻市生涯学習センター）

◇保護者研修利用率

	参加予定	参加者	出席率	出席率 (%)
4月	0	0	0	0
5月	50	42	0.84	84
6月	50	36	0.88	88
7月	50	36	0.82	82
8月	0	0	0.00	0
9月	50	32	0.64	64
10月	50	35	0.70	70
11月	50	38	0.76	76
12月	50	34	0.68	68
1月	50	16	0.32	32
2月	50	34	0.68	68
3月	コロナの影響により中止。療育で個別対応。			

(2) 大阪府通所支援事業者育成事業（大阪府委託事業）

- ①機関支援 実数 13事業所
延べ数 72事業所

内訳

	訪問支援	来訪支援
実事業所数	13	4
延べ事業所数	68	4

- ②圏域交流会 3回実施（1回はコロナウィルスの影響により中止）

内容、実施場所、参加事業所数など

	日時	場所	内容	参加事業所数	参加人数
1	6月25日（火） 9:30～11:30	高槻現代劇場 207号室	質の向上に向けたディスカッション～各事業所の課題～研修、人材育成、運営など～	21	26
2	9月6日（金） 9:30～11:30	高槻現代劇場 206号室	府・市町村職員を交えたテーマ別ディスカッション～研修、人材育成、事業所運営について～	25	31
3	2月7日（金） 9:30～11:45	高槻現代劇場 305号室	事業所の取り組み実践報告会	37	85
4	3月6日（金） 15:30～17:00	茨木市子育て支援センター	児童発達支援センターの取り組み発表	コロナウィルス対応のため中止	

- （3）高槻市巡回支援専門員整備事業（高槻市より委託）

- ①巡回支援回数

巡回した施設・場	施設数	延べ巡回回数	助言など支援の対象児童数	対象児童に対する助言等支援の延べ回数
保育所	4 箇所	16 回	29 人	43 回
幼稚園	4 箇所	5 回	4 人	5 回
子育て支援拠点施設	3 箇所	32 回	*119 人	145 回
児童厚生施設	0 箇所	0 回	0 人	0 回
集団検診	0 箇所	0 回	0 人	0 回
その他（子育て広場）	11 箇所	121 回	*335 人	533 回
その他（子ども未来館）	1 箇所	3 回	35 人	38 回
合計	23 箇所	177 回	522 人	764 回

※複数個所で支援した人は最初の場合でカウントした。また年齢が 2 段階にわたっている対象児は開始時の年齢でカウントした。

②巡回相談対象年齢層

年齢	(人)
0 歳	72 人 (82)
1 歳	200 人 (287)
2 歳	114 人 (179)
3 歳	66 人 (119)
4 歳	32 人 (48)
5 歳	27 人 (34)
6 歳以上	10 人 (14)
不明	1 人 (1)
合計	522 人 (764)

- ・対象児童は 3, 4 歳児で昨年より減少したが 0, 1, 5 歳で増加(対象児数・延べ人数とも)している。
- ・相談年齢の低年齢化＝家族の気づきの早さが想定される。

③事業実施の考課検証

i) 発達障がいについての関心や理解の向上

- ・相談年齢の低年齢化：相談年齢のピークが 2 歳から 1 歳へ
- ・母の気づきの早さ
- ・病院紹介されて安心されたという言葉が聞かれた

ii) 環境や伝え方・遊具・設定の工夫

- ・ひろばでの環境的配慮
- ・食事時間や設定場面で集中のために遊具棚等目隠しカーテンや布で覆う配慮
- ・設定場面で子どもが興味を持てるよう具体物を用いるといった工夫が増加
- ・子どもの興味に合わせた遊具の準備、来所後すぐに利用できるように準備
- ・昼食前に帰る母子のために昼食時間前のサークルタイムを設定（午前の部の終わりの明確化）
- ・園や保育所でも、エリアの配置を固定ではなく子どもに応じて検討され、個別学習エリアの設置
- ・「おわり」の見える化

iii) 子どもやおかあさんの特性に応じたみまもりや交流。

- ・要求場面で絵（写真）によるコミュニケーションボードの準備

iv) 積極的な情報共有

- ・支援センターや HC でのこれまでの相談経過の共有を行った。

④評価と課題

- ・相談年齢のピークが 2 歳から 1 歳台へと早期化された。母の気づきも早くなって

いる。一層早期発見早期診断が望まれ、具体的支援の開始と継続のシステム作り。

- ・早期発見と早期診断と支援（家族と子どもへの）を継続して受けられるシステムの構築。
- ・保健・福祉・教育での情報共有
- ・食事・卒乳・睡眠・排泄・対人疎通性・感情処理などについて困難を示す発達障がい特性を持ったグレーゾーンの子どもの全体的アセスメントと親子への継続的な支援。親子教室やペアレントプログラムと並行して家族ができる取り組み＝個別支援の提供。
- ・環境を整えるなどの合理的配慮の全機関での実施。
- ・ペアレントメンターや療育手帳・精神保健福祉手帳など社会的なシステムの情報を伝達などが引き続き望まれる。

【自閉症療育センターLink】

(1) 児童発達支援・放課後等デイサービス（個別専門療育）

①利用決定者内訳

市町村名	利用決定者	
	未就学児	学齢児
枚方市	24	13
寝屋川市	1	1
四條畷市	1	1
交野市	2	1
大東市	1	0
合計	29	16

②療育の利用率

	児童発達（名）	放デイ（名）	全体（名）
契約定員（名）	29	16	45
年間延べ回数	580	320	900
年間必要回数	上限（一人：20回）		
1日定員	上限（1日10～12名）		

③月別・事業別の利用率表

延べ実績 （利用率）	児童発達	放デイ	全体
4月	1.00	0.94	0.98
5月	0.83	0.97	0.88
6月	0.95	0.81	0.90
7月	0.89	0.84	0.88
8月	0.80	0.89	0.83

9月	0.86	0.97	0.90
10月	0.82	0.91	0.85
11月	0.92	0.92	0.92
12月	0.81	0.94	0.86
1月	0.84	0.88	0.86
2月	0.88	0.83	0.87
3月	0.78	0.70	0.75
年間合計	10.38	10.6	10.48
月別平均	87%	88%	87%

④保護者研修

日時：月1回、全10回、2019年5月から2020年3月まで実施

会場：ラポールひらかた、メセナ枚方、サンプラザ障害学習市民センター

◇保護者研修利用率

	参加予定	参加者	出席率	出席率 (%)
4月	0	0	0	0
5月	45	39	0.87	87
6月	45	41	0.91	91
7月	45	37	0.82	82
8月	0	0	0.00	0
9月	45	36	0.80	80
10月	45	32	0.71	71
11月	45	39	0.87	87
12月	45	37	0.82	82
1月	45	33	0.73	73
2月	44	34	0.77	77
3月	コロナの影響により中止。療育で個別対応。			

(2) 大阪府通所支援事業者育成事業 (大阪府委託事業)

①機関支援 実数 16事業所

延べ数 126事業所

内訳

	訪問支援	来訪支援	研修形式
実事業所数	16	9	12
延べ事業所数	71	10	45

②圏域交流会 3回実施 (1回はコロナウィルスの影響により中止)

内容、実施場所、参加事業所数など

	日時	場所	内容	参加事業所数	参加人数

1	2019年 5月31日(金) 15:15~16:45	ラポール枚 方研修室4	北河内圏域内各市の児童発達 支援センターと公立の児童発 達支援事業所を対象に 情報交換と交流 〈大阪府障がい福祉課より 4名ご来席〉 ・大阪府ご担当者様より今年度 の事業にかかわるお話 ・枚方市立ひらかた子ども発達 支援センターについて	7 (6市)	11
2	2019年 6月20日(木) 9:45~11:15	枚方市民会 館第3第4 集会室	北河内圏域内すべての障がい 児通所支援事業所を対象に 情報交換と交流 前年度機関支援[訪問]事業所 より実践報告(2事業所) (各事業所2名以内に 参加人数制限)	29	42
3	2019年 11月8日(金) 15:15~16:45	ラポール枚 方研修室4	北河内圏域内各市の児童発達 支援センターと公立の児童発 達支援事業所を対象に 情報交換と交流 テーマ:並行通園について各市 の現状と課題 移行支援について各市の現状 と課題 等	8 (7 市)	10
4	2019年 12月12日(木) 9:45~11:15	枚方市民会 館第3第4 集会室	北河内圏域内すべての障がい 児通所支援事業所を対象に情 報交換と交流 (案)保育所等訪問について のお話し(2事業所) (各事業所2名以内に 参加人数制限)	28	
5	2020年 2月18日(火) 9:45~11:45	枚方市民会 館第4会議 室	北河内圏域内すべての障がい 児通所支援事業所を対象に 実践報告会 ~機関支援を通じた 支援の工夫~ (4市5事業所の報告)	35	

			(各事業所 2 名以内に 参加人数制限)	
--	--	--	-------------------------	--

【児童デイサービスセンターan】

①利用決定者内訳

市町村名	利用決定者	
	未就学児	学齢児
大阪市	40	20
合計	40	20

②療育の利用率

	児童発達 (名)	放デイ (名)	全体 (名)
契約定員 (名)	40	20	60
年間延べ回数	800	400	1200
年間必要回数	上限 (一人 : 20 回)		
1 日定員	上限 (1 日 10 名)		

③月別・事業別の利用率表

延べ実績 (利用率)	児童発達	放デイ	全体
4 月	1.00	1.00	1.00
5 月	0.94	0.94	0.94
6 月	0.88	0.95	0.90
7 月	0.96	0.94	0.95
8 月	0.96	0.92	0.94
9 月	0.90	0.93	0.91
10 月	0.86	0.84	0.86
11 月	0.88	0.90	0.89
12 月	0.86	0.95	0.89
1 月	0.88	0.95	0.90
2 月	0.80	0.92	0.84
3 月	0.88	0.92	0.89
年間合計	10.79	11.16	10.92
月別平均	0.90	0.93	0.91

④保護者研修

日時 : 月 1 回、全 10 回、2019 年 5 月から 2020 年 3 月まで実施

会場 : 大阪研修センター

◇保護者研修利用率

	参加予定	参加者	出席率	出席率 (%)
4月	0	0	0	0
5月	60	61	1.01	101
6月	60	53	0.88	88
7月	60	52	0.86	86
8月	0	0	0	0
9月	60	54	0.90	90
10月	60	44	0.73	73
11月	60	48	0.80	80
12月	60	49	0.81	81
1月	60	44	0.73	73
2月	60	41	0.68	68
3月	60	21	0.35	35

【こども発達支援センターaz】

①利用決定者内訳

市町村名	利用決定者	
	未就学児	学齢児
大阪市	40	20
合計	39	18

※年度途中で市外への転居3名

②療育の利用率

	児童発達 (名)	放デイ (名)	全体 (名)
契約定員 (名)	40	20	60
年間延べ回数	800	400	1200
年間必要回数	上限 (一人: 20回)		
1日定員	上限 (1日10名)		

③月別・事業別の利用率表

延べ実績 (利用率)	児童発達	放デイ	全体
4月	1.00	1.00	1.00
5月	0.92	0.93	0.92
6月	0.96	0.87	0.93
7月	0.84	0.88	0.85
8月	0.88	0.81	0.85
9月	0.95	0.78	0.89
10月	0.89	0.86	0.88

11月	0.87	0.80	0.85
12月	0.91	0.81	0.88
1月	0.94	0.81	0.89
2月	0.88	0.83	0.86
3月	0.89	0.74	0.84
年間合計	10.93	10.12	10.64
月別平均	91%	84%	89%

④保護者研修

日時：月1回、全10回、2019年5月から2020年3月まで実施

会場：長居障がい者スポーツセンターおよび長居ユースホステル

◇保護者研修利用率

	参加予定	参加者	出席率	出席率(%)
4月	0	0	0	0
5月	60	58	0.97	97
6月	60	53	0.88	88
7月	60	49	0.82	82
8月	0	0	0.00	0
9月	60	45	0.75	75
10月	60	41	0.68	68
11月	60	43	0.72	72
12月	60	45	0.75	75
1月	60	39	0.65	65
2月	60	37	0.62	62
3月	コロナの影響により中止。療育で個別対応。			

【サポートセンターPASSO】

①利用決定者内訳

市町村名	利用決定者	
	未就学児	学齢児
大阪市	0	19
高槻市	0	19
茨木市	0	7
島本町	0	2
摂津市	0	1
豊中市	0	1
箕面市	0	3
吹田市	0	2

豊能町	0	1
寝屋川市	0	1
枚方市	0	2
藤井寺市	0	1
大阪狭山市	0	1
東大阪市	0	1
合計	0	61

※年度途中で3名退所

②療育の利用率

	児童発達 (名)	放デイ (名)	全体 (名)
契約定員 (名)	0	61	61
年間延べ回数	0	1098	1098
年間必要回数	上限 (一人: 2回から 24回)		
1日定員	上限 (1日 10名)		

③月別・事業別の利用率表

延べ実績 (利用率)	児童発達	放デイ	全体
4月	0	0.88	0.88
5月	0	0.75	0.75
6月	0	0.76	0.76
7月	0	0.99	0.99
8月	0	0.96	0.96
9月	0	1.03	1.03
10月	0	1.02	1.02
11月	0	0.94	0.94
12月	0	1.02	1.02
1月	0	1.04	1.04
2月	0	0.96	0.96
3月	0	1.12	1.12
年間合計	0	0.95	0.95
月別平均	0	0.95	0.95

④保護者研修

(入門)

日時: 全5回、2019年5月から2020年2月まで実施

会場: 淀川区民センター

◇保護者研修利用率

	参加予定	参加者	出席率	出席率 (%)

5月	9	9	1.00	100
7月	9	8	0.89	89
10月	9	7	0.78	78
12月	9	8	0.89	89
2月	9	8	0.89	89

(フォローアップ)

日時：全5回、2019年5月から2020年12月まで実施

会場：淀川区民センター

◇保護者研修利用率

	参加予定	参加者	出席率	出席率 (%)
5月	3	3	1.00	100
7月	3	2	0.67	67
9月	3	2	0.67	67
11月	3	1	0.33	33
12月	3	2	0.67	67

⑤淀川区発達障がい児等子育て支援事

ピアカウンセリング40回、親子講座5回、一時保育9回

事業等実施月	実施日
4月	なし
5月	・ピアカウンセリング 5月31日×2回
6月	・ピアカウンセリング 6月14日×2回 ・親子講座 6月17日×1回
7月	・ピアカウンセリング 7月5日×2回、7月12日×1回 ・親子講座 7月29日×1回 ・一時保育 7月29日×1回
8月	・ピアカウンセリング 8月30日×2回 ・親子講座 8月26日×1回 ・一時保育 8月26日×1回、8月30日×1回
9月	・ピアカウンセリング 9月6日×2回、9月13日×2回、9月26日×2回 ・一時保育 9月13日×1回
10月	・ピアカウンセリング 10月4日×2回、10月18日×2回、10月25日×2回 ・一時保育 10月25日×1回
11月	・ピアカウンセリング 11月8日×2回、11月21日×2回、11月29日×1回 親子講座 11月11日×1回
12月	・ピアカウンセリング 12月6日×2回、12月12日×2回、12

	月 20 日×2 回 ・親子講座 12 月 21 日×1 回 一時保育 12 月 6 日×1 回、12 月 23 日×1 回
1 月	・ピアカウンセリング 1 月 10 日×2 回、1 月 24 日×2 回、1 月 31 日×2 回 ・一時保育 1 月 10 日×1 回
2 月	・ピアカウンセリング 2 月 7 日×2 回 ・一時保育 2 月 7 日×1 回
3 月	なし

【こども相談支援センターwish】

(1) 計画相談の報告

① 計画相談の実数

延べ 90 件（内新規ケース 11 ケース、相談事業所の変更受け入れ 2 ケース）
 3 ヶ月モニタリング児童 1 名実施。

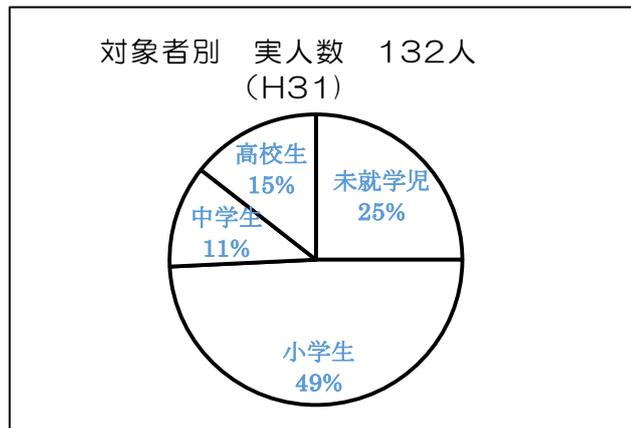
② 意思決定支援への取組み

・ご家族のみならず、ご本人と利用している事業所や家庭訪問の際に面談を行うことで、希望等の確認を実施。ご本人のニーズは何かを探るよう努め、担当者会議や計画に反映するようにした。

(2) 高槻市障がい児相談支援事業の報告

① 平成 31 年度の相談実数

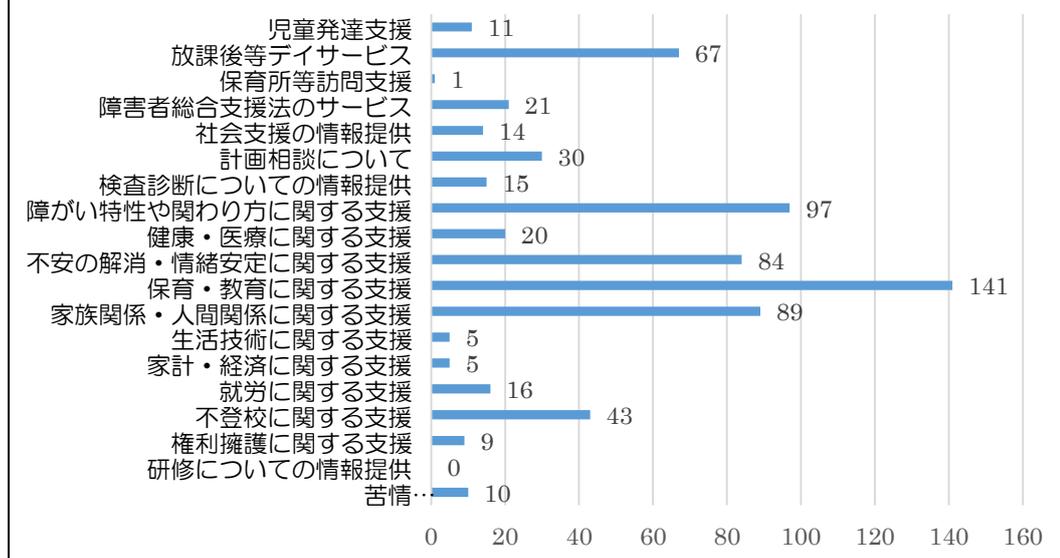
実人員 132 名、415 名（延べ人数）平成 30 年度に比べると、24%増となる。



【相談対象者】

障がい種別については、発達障がいの診断を受けている方が、8割弱占め、その内、知的障がいを伴わない ASD 児の相談が増えている。未診断の方の相談においては、全体の 2 割。ASD の疑いを感じる傾向の相談がほとんどである。

支援内容（H31）



・相談の内容は、やはり、教育についての相談が多く、昨年度より増加。友だちとのトラブルや学校への伝え方等、また学校の先生やスクールソーシャルワーカーより相談を受けるケースも年々増加傾向にある。その中で、不登校や登校渋り等が見られるケース、家族機能の課題に対しての相談が増えてきている。

(3) 連携の取組み報告

① 高槻市の自立支援協議会への参画及び市との連携

i) こどもワーキング

・年間5回参加

・教育との連携においては、高槻・摂津・茨木支援の教員向けに福祉制度についての勉強会を夏休みに企画実施した。地域の学校との連携については、今後の課題として提言はしている。

・家庭、教育、福祉サービス等の連携を図るための連携シートについては、昨年度実施したアンケートから、計画相談が入っているケースについては何らかの連携は図れる機会はあるが、セルフプランケースにおいて福祉教育との連携は課題としてあるのではないかという意見があがった。今年度は、支援学校在籍児でセルフプランの2名のモデルケースを実施。来年度にむけて、どう実施を広げていくか検討していく。

・医療的ケア児に対する検討を年5回の内2回実施。1回目は、利用できるサービスについて情報共有を行った。2回目は、利用が想定される支援について検討を図り、また「連携」をテーマに関係機関でグループワークを行った。今後は、支援マップを作成していけるよう検討を進めていく。

ii) ケアマネジメント連絡会

・全体での会議は、4月と9月に実施。3月については、新型コロナウイルスの影響で中止。

・今年度は、ケアマネジメント連絡会の中で、4つのグループに分かれて「地域

課題」「相談業務」「社会資源」「研修」に分かれて検討。情報共有チームのサブリーダーを担当。

- ・月1回、研修チームで集まり、議論を重ね、12月に「考えよう！変えよう！変わろう！高槻の相談支援」というテーマで地域包括の事業所を含めたケースメソッド方式によるグループワークを実施。1月は、高槻市内全事業所対象の発達障がいテーマにした「強度行動障害の支援」についての研修を企画実施した。

iii) 高槻市障がい児相談支援事業所連絡会

- ・月1回、子ども未来課児童発達支援事務所と障がい児相談支援事業所を含めた連絡会を実施。市の動向や障がい児通所支援事業の情報等共有を図った。

② 相談支援事業所との連携

- ・毎月、障がい児相談支援事業所との勉強会、市の相談支援事業所合同の連絡会に参加。ケース検討や事業所等の情報交換、地域課題に向けての検討等を行った。相談支援事業所同士の横のつながりを持つことで、法人を超えて相談支援事業所として何ができるか検討するいい機会に繋がっている。

③ 専門家との連携

- ・新澤伸子氏による年3回ケース検討のSVを実施。職員の育成及び第3者から客観的な意見を頂けること、主訴からくるニーズ整理と支援の方向性を見出すことに繋がっている。的確なアドバイスを頂けることで、職員自身のメンタル面におけるサポートにも繋がり、SVの機会をもつことは今後必要であると考え。

(4) 今後の課題

- ・ケースの多様さ、家族支援の必要なケースが増えているため、より関係機関と連携を取りながら地域での暮らしをサポートできるよう進めていくことが必要。

- ・不登校の相談が年々増加傾向にある中で、不登校の低年齢化もみられるため、将来引きこもりにならないよう家族支援を中心に行い、地域資源の開拓や地域でのネットワークの構築を築いていく必要がある。

- ・地域共生社会に向けて、地域づくりをどう作っていくか、相談ニーズから市へも提言していき、地域診断や地域の情報収集に努めていきたいと考える。そのことで、災害や今回のような新型肺炎への対応に向けても地域のネットワークがあることでサポート体制構築にも繋がっていくと考える。

16. 発達支援あゆみ

(1) 児童発達支援事業 個別療育事業「カラフル」

①実績

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約児数 (月初)	27	27	27	29	29	29	29	29	29	29	29	29	
延べ利用児数	13	14	25	32	27	37	44	48	50	43	46	28	407

- ・発達検査、報告面談、3回の単独療育を経て、9月から隔週での療育（計12回）を実施。
- ・出席率 平均88%（最低57%）
- ・契約児数27名で事業開始。7月、1名が利用中止（理由：共働きのため休みがとりづらい）。同じく7月から、3名の新規利用児を受け入れた。なお、豊中市より1名紹介があったが、年末に転居されるとの理由で利用に至らなかった。

②保護者研修

日時：全6回、2019年4月から2019年10月まで実施

会場：豊中市立生活情報センターくらしかん、発達支援あゆみ

◇保護者研修利用率

	参加予定	参加者	出席率	出席率(%)
4月	27	18	0.66	66
5月	27	19	0.70	70
6月	27	11	0.40	40
9月1回目	29	18	0.62	62
9月2回目	29	19	0.65	65
10月	29	12	0.41	41

③所属園訪問

11月	7園
12月	6園
2月	2園

(2) 障害児一時預かり事業（豊中市独自事業）

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約児数 (月初)		8	11	13	15	15	17	20	20	24	24	27	
延べ 利用児数		19	16	23	21	16	19	25	26	28	32	40	265

- ・5月より、定員5名/日の事業開始。対象児は知的障害児・自閉症児のみではなく、難聴児や肢体不自由児も含まれており、担当職員と工夫を重ねながら預かりを実施している。
- ・就園前（1～2歳児）の利用児が多く、保護者からの相談スキルや、市との連携が想定以上に必要とされる事業となっており、今後も人員配置や運営の仕方など課題である。

Ⅲ. 資料編

1. 利用者の概要

(1) 萩の杜

①年齢別・性別人員構成

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	0	0	5	31	2	0	38

女	0	0	1	8	3	0	12
合計	0	0	6	39	5	0	50

②障がい支援区分

区分	6	5	4	3	2	1	区分なし
人数	40	9	1	0	0	0	0

③療育手帳等取得状況

	療育手帳				身体障害者手帳						
障害程度	A	B1	B2	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
人数	48	2	0	50	4	2	1	1	1	2	11

(2) ジョブサイトひむろ

①年齢別・性別人員構成

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	0	13	9	11	3	1	37
女	0	7	3	5	1	0	16
合計	0	20	12	16	4	1	53

② 障害区分別

区分	6	5	4	3	2	1	区分なし
人数	27	19	7	0	0	0	0

③療育手帳取得状況

	療育手帳			身障手帳						
障害程度	A	B	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
合計	51	2	53	3	2	1	0	2	0	8

(3) グループホームとんだ・レジデンスなさはら2丁目

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0	2	4	6	3	1	(男性12名・女性4名)

②障害区分別（共同生活援助）

区分	6	5	4	3	2	1	非該当
人数	2	8	4	1	0	0	1

(4) レジデンスなさはら

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	50代	合計
0	1	7	10	1	(男性12名・女性7名)

②障害区分別（共同生活援助）

区分	6	5	4
----	---	---	---

人数	17	2	0
----	----	---	---

(5) レジデンスなさはらもとまち

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	50代	合計
0	6	0	0	0	(男性6名・女性0名)

②障害区分別（共同生活援助）

区分	6	5	4
人数	4	2	0

(6) ぶれいすBe

①年齢別・性別人員構成

【生活介護】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	2	26	7	1	1	1	38
女	1	17	3	0	0	0	21
合計	3	43	10	1	1	1	59

【就労継続支援B型】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	0	12	5	1	0	0	18
女	0	5	6	0	0	0	11
合計	0	17	11	1	0	0	29

②障害支援区分

【生活介護】

区分	6	5	4	3	2	1	区分なし
人数	27	20	9	3	0	0	0

【就労継続支援B型】

区分	6	5	4	3	2	1	区分なし
人数	0	1	9	11	2	0	6

③療育手帳等取得状況

	療育手帳				身体障害者手帳						
障害程度	A	B1	B2	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
人数	67	17	2	86	22	5	0	0	0	0	27

(7) ジョブサイトよど・ジェイ・ブランチよど

ジョブサイトよど

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	合計
-----	-----	-----	-----	----

0	16	20	2	男性：31名 女性：7名
---	----	----	---	--------------

②障害区分別

区分	6	5	4	3	2	1
人数	15	15	4	4		

③療育手帳取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳
障害程度	A	B	計	計
合計	26	9	35	3

ジェイ・ブランチよど

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	50代	合計
	12	7	2	2	男性：17名 女性：6名

②障害区分別

区分	6	5	4	3	2	1
人数			3	5	3	1

③療育手帳取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳
障害程度	A	B	計	計
合計	2	14	16	9

(8) 就労支援部

ジョブジョイントおおさか

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	合計
3	17	6	3	(男性19名・女性10名)

②療育手帳取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳			未取得
障害程度	A	B	計	2級	3級	計	申請中
合計	0	3	3	8	9	17	9

ジョブジョイントおおさか たかつきブランチ

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	合計
2	20	5	0	(男性18名・女性9名)

②療育手帳取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳			未取得
障害程度	A	B	計	2級	3級	計	申請中

合計	0	11	11	4	5	9	7
----	---	----	----	---	---	---	---

LaLa-chocolat TAKATSUKI

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	合計
0	10	5	6	(男性9名・女性12名)

②療育手帳取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳			未取得
障害程度	A	B	計	2級	3級	計	
合計	10	11	21	0	0	0	0

2. 職員配置 (令和2年3月31日現在)

(1) 法人本部 (総務部)

	基準職員数	実配置職員数
正職		9.5
嘱託		2.0
パートタイマー		5.0
計		16.5

(2) 萩の杜

	基準職員数	実配置数
正職		20.0
嘱託		4.0
パートタイマー		22.6
計	31.8	46.6

(3) ショートステイセンターぶれす

	基準職員数	実配置数
正職	基準がな	2.0
嘱託	く、萩の杜	1.0
パートタイマー	と一体で支	1.6
計	援に支障の ない数	4.6

(4) ジョブサイトひむろ

	基準職員数	実配置職員数
正職		11.5
嘱託		3.0
パートタイマー		19.7
計	29.8	34.2

(5) グループホームとんだ・レジデンスなさはら2丁目

	基準職員数	実配置職員数
正職		4.3
嘱託		1.0
パートタイマー		5.9
計	9.9	11.2

(6) レジデンスなさはら

	基準職員数	実配置職員数
正職		6.4
嘱託		5.0
パートタイマー		10.0
計	17.1	21.4

(7) レジデンスなさはらもとまち

	基準職員数	実配置職員数
正職		2.3
嘱託		2.0
パートタイマー		5.2
計	7.4	9.5

(8) ふれいす Be 通所部門

	基準職員数	実配置職員数
正職		12.7
嘱託		5.8
パートタイマー		22.1
計	32.6	40.6

(9) あんだんて

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.0
嘱託		0
パートタイマー		0
計	2以上	3.0

(10) すぎのこ訪問看護ステーション

	基準職員数	実配置職員数
正職		2.0
嘱託		0.0
パートタイマー		2.8
計	2.5以上※	4.8

※保健師、看護師または准看護師

(11) アクトおおさか

	基準職員数	実配置職員数
正職		5.0
嘱託		1.0
パートタイマー		0
計		6.0

(12) ジョブサイトよど

	基準職員数	実配置職員数
正職		6
嘱託		3.2
パートタイマー		7.5
計	16.5	16.7

(13) ジェイ・ブランチよど

	基準職員数	実配置職員数
正職		2
嘱託		2
パートタイマー		3.6
計	2.8	9.4

(14) ジョブジョイントおおさか

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.0
嘱託		1.0
パートタイマー		4.2
計	6.0	8.2

(15) ジョブジョイントおおさかたかつきブランチ

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.0
嘱託		3.0
パートタイマー		5.0
計	9.2	11.0

(16) LaLa-chocolat TALATSUKI

	基準職員数	実配置職員数
正職		4.0
嘱託		1.0
パートタイマー		3.0
計	5.1	8.0

(17) こども発達支援センターwill

	基準職員数	実配置職員数

正職		3.2
嘱託		0.8
パートタイマー		0.8
計	4.0	4.8

(18) 自閉症療育センターLink

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.0
嘱託		1.4
パートタイマー		0.2
計	4.0	4.6

(19) 児童デイサービスセンターan

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.0
嘱託		0
パートタイマー		1.4
計	4.0	4.4

(20) こども発達支援センターaz

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.0
嘱託		1
パートタイマー		0.4
計	4.0	4.4

(21) サポートセンターPASSO

	基準職員数	実配置職員数
正職		2.0
嘱託		0
パートタイマー		1.3
計	4.0	3.3

(22) こども相談支援センターwish

	基準職員数	実配置職員数
正職		1.8
嘱託		0
パートタイマー		0.6
計		2.4

(23) 発達支援あゆみ

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.0

嘱託		2.0
パートタイマー		0
計		5.0

3. 採用状況

平成 31 年 4 月 1 日	レジデンスなさはら 2 丁目	井上 裕加里
平成 31 年 4 月 1 日	ふれいす Be	梅本 敬英
平成 31 年 4 月 1 日	こども発達支援センター az	尾崎 麻智
平成 31 年 4 月 1 日	萩の杜	鬼塚 舞
平成 31 年 4 月 1 日	萩の杜	小寺 妃夏麗
平成 31 年 4 月 1 日	ジョブサイトよど	小山 和希
平成 31 年 4 月 1 日	ジョブサイトひむろ	田中 洗暉
平成 31 年 4 月 1 日	レジデンスなさはらもとまち	辻本 沙弥
平成 31 年 4 月 1 日	ジョブジョイントおおさか	徳野 早苗
平成 31 年 4 月 1 日	すぎのこ訪問看護ステーション	徳光 薫
平成 31 年 4 月 1 日	萩の杜	仲野 真由
平成 31 年 4 月 1 日	レジデンスなさはら	濱田 あゆみ
平成 31 年 4 月 1 日	サポートセンターPASSO	原田 紀之
平成 31 年 4 月 1 日	レジデンスなさはらもとまち	藤田 雄大
平成 31 年 4 月 1 日	ふれいす Be	松本 理恵
平成 31 年 4 月 1 日	ジョブサイトひむろ	丸山 美桜
平成 31 年 4 月 1 日	レジデンスなさはら 2 丁目	向井 勝哉
平成 31 年 4 月 1 日	ジョブサイトひむろ	山本 菜月
平成 31 年 4 月 1 日	ジョブサイトよど	横野 綾
平成 31 年 4 月 1 日	発達支援あゆみ	渡邊 佳奈
令和元年 10 月 1 日	ジョブサイトよど	中垣内 貴恵

4. 退職

平成 31 年 4 月 30 日	レジデンスなさはら 2 丁目	松本 大助
令和元年 5 月 24 日	児童デイサービスセンター an	丸井 阿世
令和元年 5 月 31 日	自閉症療育センター Link	山元 真紀
令和元年 9 月 30 日	総務部	坂井 真由美
令和 2 年 2 月 28 日	萩の杜	坂元 伶奈
令和 2 年 3 月 31 日	LaLa-chocolat	矢野 麻衣子
令和 2 年 3 月 31 日	ふれいす Be	岡 沙織
令和 2 年 3 月 31 日	レジデンスなさはら 2 丁目	鎌田 蒔子
令和 2 年 3 月 31 日	ふれいす Be 短期入所	亀田 早智
令和 2 年 3 月 31 日	ジョブサイトよど	米戸 詩歩

5. 正職員の主な資格取得状況

資格の名称	人数
社会福祉士	62
介護福祉士	33
保育士	21
精神保健福祉士	17
公認心理師	6
臨床発達心理士	4
臨床心理士	4
准看護師	1
看護師	2
作業療法士	3
管理栄養士	2
日商簿記3級	4
クリーニング師	1
製菓衛生師	1

6. 実習受け入れ状況

実習校名	施設名	人数	期間
中部学院大学	ジョブサイトひむろ	1	4月25日～8月21日
武庫川女子大学大学院	ジョブジョイントおおさか	2	4～9月（週1回） 10～3月（週1回）
武庫川女子大学大学院	たかつきランチ	2	4～9月（週1回） 10～3月（週1回）
大阪保育福祉専門学校	ふれいす Be	1	6月3日～6月21日
龍谷大学短期大学部	萩の杜	2	7月29日～8月3日
藍野大学	ふれいす Be	2	7月29日～7月31日
阿武野高校	ふれいす Be	3	8月1日、2日
島根県さくらの家	レジデンスなさはら	2	8月6日～8月8日
大阪府立大学	ふれいす Be	1	8月19日～8月24日
大和大学	ふれいす Be	1	8月26日～8月30日
龍谷大学短期大学部	ふれいす Be	1	8月28日～9月10日
京都医療福祉専門学校	ジョブサイトひむろ	2	9月16日～10月6日
大阪府立大学	すぎのこ訪問看護ステーション	2	9月18日、19日
武庫川女子大学大学院	PASSO	1	9月25日～1月16日

武庫川女子大学	アクトおおさか	1	9月25日～12月18日
藍野大学	ぶれいす Be	2	10月2日、10月9日
藍野大学	ぶれいす Be	2	10月23日、10月30日
阿武野中学校	ジョブサイトひむろ	2	10月29日～10月30日
高槻第六中学校	ぶれいす Be	2	11月20日～11月22日
島根県さくらの家	レジデンスなさはらもとまち	2	11月25日～11月27日
さくらの家	ジョブサイトひむろ	1	11月26日
関西福祉科学大学	レジデンスなさはら	1	1月21日
大阪府立大学	すぎのこ訪問看護ステーション	1	2月13日、14日

令和元年度実習団体数：23団体、実習人数のべ124人（参考）

7. 職員研修・研究会

4	発達保障セミナー
	バリアフリー展
	世界自閉症啓発デー高槻「自閉症の人たちを取り巻く社会」
	世界自閉症啓発デーin OSAKA 2019
	第11回自閉症啓発デー講演会「自閉症の人たちを取り巻く社会～加害者にも被害者にもならないために～」
	サービスマナー研修
	自閉症評価セミナー
	淀川アオクスル祭り 2019
5	高槻市民間社会福祉施設連絡会新任職員研修会
	鳴門教育大学公開講座「公認心理師の役割と今後の可能性（教育臨床 XVII）」
	サービスマナー研修
	意思決定支援・実践ファシリテーションプログラム
	メンター研修
	e サービス「基本講座ビギナーズ」
	アセスメントに基づいた発達障害・自閉スペクトラム症の方への就労支援
6	PECS レベル1 ワークショップ
	人間作業モデルセミナー
	吹田保健所管内集団給食研究会総会記念講演
	医療的ケアと日常生活上のケア
	喀痰吸引研修（3号研修）
	自閉症 e サービス「ビギナーズ～自閉症支援の扉」
	門 眞一郎先生 PECS 研修 SV (Link)
	地域移行・地域定着支援コース相談支援従事者専門コース研修
	PECS 実践講演会

	JASPER 研修
	発達障害者支援センター全国連絡協議会 in 横浜
	「教育と福祉の連携」(茨木市主催)
	スーパーバイザー養成研修
	心のケアを考える講座
	感染症・食中毒・予防対策講習会
7	てんかん基礎講座
	自閉症・発達障害の人たちへの支援セミナー
	コミュニケーション研修
	医療的ケア教員講習会
	自閉症 e サービス基礎講座
	大阪府 TTAP 拠点研修 (2日間)
	相談支援従事者初任者研修 5日間課程
	PECS レベル 2 ワークショップ
	大阪医科大学 LD センター研修会 (鳥居 深雪先生)
	高槻市立うの花療育園視察
	発達障害者地域支援マネジャー研修 (基礎研修)
	ファシリテーター養成者研修
	T-STEP 研修会
	アセスメントに基づいた発達障害・自閉スペクトラム症の方への就労支援
	e カレッジ
8	PECS レベル 1 ワークショップ
	ABC セミナー
	福祉職員【チームリーダー】研修
	喀痰吸引研修 (2号研修)
	日本リハビリテーション学会
	就労支援基礎講座
	個別 SST を学ぶ研修会
	就労支援基礎講座
	自閉症カンファレンス
	滋賀県発達障害者支援センター公開講座 (本田 秀夫先生)
	自閉症 e サービス基礎講座
	PECS 研修
	意思決定支援研修
9	令和元年度大阪府強度行動障がい支援者養成研修【基礎研修】
	達成力強化研修
	新版 K 式発達検査

	門塾
	自閉症 e サービス基礎講座
	「夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の 100 年」人権研修
	部内研修「ASD の学習スタイルとアセスメントに基づく指導」
	知的障害のある犯罪行為者への支援を学ぶ研修 2019（基礎研修会）
	障害者雇用促進フォーラム
	強度行動障害がある方々への支援 ～大事にしたい、基本の“き”～
	相談支援従事者研修
10	感覚統合入門研修体験コース
	第 4 回 5 法人ジョイントセミナー
	令和元年度第 1 回嚙下食検討会
	ポジショニング研修
	門塾
	相談支援従事者初任者研修
	法人内交流研修（will→アクトおおさか）
	ジョイントセミナー
	「障がい者差別解消法と地域生活の到達点」高槻市主催研修
	門 眞一郎先生 PECS 研修 SV（あゆみ）
	あゆみ公開講座（諏訪 利明先生）
	東大阪市立第一はばたき園視察実習
	リスクマネジメント研修
	全国グループホーム大会
	発達障害特化型就業支援基礎研修
11	全日本自閉症支援者協会研究大会 埼玉大会
	日本知的障害者支援者協会 障害者支援施設部会
	発達・知的障がい者支援職員対象 SST ファーストレベル
	京都自閉症協会 50 周年記念大会
	ABC セミナー
	ヘルシー外食フォーラム 2019
	門塾
	自閉症 e サービスステップアップ講座
	「より豊かな成人期を見据えて」高槻市主催研修
	ポレポレネットワーク研修会
	強度行動障害支援者養成研修実践研修
	グループホーム学会東京大会
	地域支援セミナー
	ジョブコーチ養成研修

12	他法人主催 実践報告会
	サービス管理責任者等養成研修(更新研修)
	令和元年度大阪府強度行動障がい支援者養成研修【実践研修】
	ABC セミナー
	高槻集団給食研究会
	門塾
	自閉症 e サービスステップアップ講座
	高槻市自立支援協議会ケアマネジメント連絡会主催研修
	門 眞一郎先生 PECS 研修 実践報告会
	TEACCH プログラム研究会大阪支部公開講座(諏訪 利明先生)
	発達障害者支援センター全国連絡協議会近畿ブロック研修会(神戸)
	就業支援実践研修
	就労支援フォーラム NIPPON
1	かんでんコラボ・アート展
	令和元年度大阪府サービス管理責任者研修【基礎研修】
	オアシス研修会(内山 登紀夫先生・新澤 伸子先生)
	「地域共生社会実現に向けて」高槻市主催研修
	障害者虐待防止リーダー職員研修会
	グループホーム世話人研修
	スーパーバイズ養成者研修
	普及応急手当研修
2	令和元年度大阪府サービス管理責任者研修【更新研修】
	令和元年度大阪府サービス管理責任者研修【基礎研修】
	意思決定支援スキル体験フォーラム 2020
	部内研修 実践報告会
	大阪府 TTAP フォローアップ研修
	高槻市民精神保健講座「リカバリーに向けたこころの病の治療」
	高槻市自立支援協議会ケアマネジメント連絡会主催研修 加算勉強会
	TEACCH コラボレーションセミナー
	近畿地区 GH 等職員研修会
	喀痰吸引研修
	Vineland-II 適応行動尺度
3	応用行動分析の基礎と応用
	ペアレント・プログラムアドバンスワークショップ
	ABA 研修

令和元年度参加研修会(研究会)数: 133